

第43回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会



大会テーマ

『書道教育の可能性を考える』 ～自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成～

会期 平成30年11月15日(木)・16日(金)

会場 宮崎市民プラザ
宮崎市橘通西1丁目1番2号 TEL 0985-24-1008

《併催展》 宮崎県高等学校席上揮毫大会上位入賞作品及び
宮崎県高校生の授業作品展示

《企画展》 日高秩父書簡集 11月15日(木)・16日(金)
併催展の作品とともに宮崎市民プラザに展示

主催 全日本高等学校書道教育研究会
宮崎県高等学校教育研究会書道部会

後援 文部科学省
宮崎県 宮崎市 宮崎県教育委員会 宮崎市教育委員会
全国高等学校長協会 宮崎県県立学校長協会
全日本書写書道教育研究会 宮崎県高等学校文化連盟

第四十三回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会

大会集録 目 次

◎挨拶

- 全日本高等学校書道教育研究会会長 荒井 利之 6
- 第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会会長 長津 和彦 7

◎祝辞

- 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 豊口 和士 10
- 宮崎県知事 河野 俊嗣 11
- 宮崎県教育委員会 教育長 四本 孝 12

- 第四十三回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会要項 27 25 23 22 21 19 16 14
- 全日本高等学校書道教育研究会会則 12 11 10
- 第四十三回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会規約 7
- 第四十三回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会役員一覧 30
- 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会運営委員一覧 38
- 会場案内図 48
- 大会会場・宿泊案内 58

◎授業研究および研究協議

- A 『生徒自ら課題を発見し、解決する魅力ある漢字仮名交じりの書』
（生徒の自詠の短歌をもとに）

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 湯地 和美

- B 『漢字仮名交じりの書～自国の文化を見つめる～』

宮崎県立宮崎大宮高等学校 本田 淳也

◎分科会および研究協議

- A 漢字仮名交じりの書の効果的な指導法

『郷土の歌人 若山牧水の短歌を生かした

漢字仮名交じりの書の制作

宮崎県立延岡高等学校

木佐貫弘志

『「指導案の共有化」に向けて』

（書道Iにおける漢字仮名交じりの書の授業実践）

大分県立大分舞鶴高等学校

佐藤 瞳

58

B 生徒の主体的・協働的学びを引き出す効果的な指導法

『感性を磨き、書への愛好心を育む書道教育』

（直感的鑑賞から分析的鑑賞、そして表現へ）

宮崎県立日南高等学校 南 裕之

『生徒が思考・表現することで』

『理解を深める教科指導法の改善』

熊本県立玉名高等学校 仲原 幸代

74

◎誌上発表

『宮崎県高等学校教育研究会書道部会の取り組み』

宮崎県教育厅高校教育課
高校教育・学力向上担当
前宮崎県立宮崎北高等学校

松田 太郎

84

『鑑賞授業の一考察』

（一年間を通じての展開）

岡山県立岡山朝日高等学校 後神 直子

94

『「確かな学力」の育成を目指した教科指導の工夫改善』

熊本県立八代清流高等学校 山本 瞳美

102

『ユニークデザインの視点を取り入れた授業づくり』

鹿児島県立吹上高等学校 久保美由紀

112

『文字を書くことに自信が持てるように』

（病弱の特別支援学校国語科書写における指導の工夫や改善を通して）

宮崎県立赤江まつばら支援学校 房安 紀子

66

『書道Ⅱ 草書学習の指導について』

（十七帖にまつわる諸問題）

富山県立富山高等学校 細川喜代範

128

◎編集後記

134

120

挨

拶



ご挨拶

全日本高等学校書道教育研究会会長

荒井利之

第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会の開催に当たり、書道教育に携わる全国の皆様、そして本大会にご支援ご協力を賜りました多くの皆様に心より感謝を申し上げます。また、日頃より本研究会の活動にご理解ご協力を賜り心より厚くお礼を申し上げます。併せてまして、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の豊口和士様におかれましては、本大会開催に当たり、準備段階から多くのご示唆を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。

さて、今年の宮崎大会では「書道教育の可能性を考える／自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成」をテーマに掲げられました。宮崎県の書道教員の皆様が、生徒たちに自国の文化の素晴らしさを理解し継承してもらいたい、作品制作を通して課題解決のための思考力・判断力・表現力を身につけてもらいたい、という祈りがこのテーマに込めていらっしゃるのを強く感じました。大会ではお二人の先生の研究授業、そして四人の先生の研究発表を通して、これから書道教育の可能性をどこまで追求できるか、全国からお越し頂いた先生方と一緒に考えていく機会になればと期待しています。その後の研究協議でも、多くの先生方からのご意見や様々な実践紹介を通して、ご参加された先生方がご自身の授業スタイルを振り返り、創造し、各校へお戻りになられた際、新たな取り組みへの勇気となりますことをお祈りしています。

ところで今年の春に高等学校新学習指導要領が改訂されました。私たち教員は、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりの重視、そして「どのような力が身に付いたか」という学びの成果に視点を置き、授業を見つめ直すことが求められています。書を学ぶ生徒たちが、書に関する見方・考え方を働かせることで「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」が図られ、そのプロセスで「学びに向かう力、人間性等の涵養」へつなげ、生活や社会の中の文字や書、そして書の伝統と文化に関わる資質や能力を身につけてほしいと願っています。

また、学習指導要領解説では表現と鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力として「共通事項」を位置づけ、書がいかなる芸術であるのかをそれぞれの活動において視点が明確化されました。特に、書のよさや美しさの本質として「風趣」について理解を深めることも重要視されています。書は技法や造形を通して多様な表現の可能性を持つていますが、そこから生じる「表現効果」や作品から滲み出る「風趣」にも理解が深められるよう、これからも取り組みたいものです。書だけでなくどの分野にも通じることですが、本質に迫るためにには「知識に心が入って知恵となり、技術に心が入って技となる」ことを皆様と一緒に再確認していく大会となれば有難いと心から願っています。この宮崎大会の成果が、ご参加された先生方をはじめ運営に携われた多くの皆様にとりまして、明日からの書道教育の発展に向けた知恵と技となりますことを祈念し、ご挨拶とさせて頂きます。

ようこそ宮崎へ

宮崎大会 会長 長 津 和 彦



第四十二回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会の開催にあたり、書道教育に携わつておられる全国の先生方と本大会にご支援をいただいております関係の方々にご挨拶を申し上げます。

我が国において書道は、子供たちが寺子屋で「読み書き算盤」を学ぶ古い時代から「とめ・はね・はらい」と、正しく美しく文字を書くことに併せて、行儀・作法などの躰や人格形成に役立つものとして高く評価され続けています。現代ではパソコン等の普及により手書きの毛筆の文字を目にする機会が減つてきたものの、やはり毛筆で書かれた美しい文字は人の心を和ませ、作品として書かれた躍動感あふれる力強い書や、柔らかく優雅な書、個性的な書などは、人の心を強くひきつけ感動させてくれるものです。

平成三十年三月三十日に高等学校学習指導要領を改正する告示が公示されました。その四年後から実施されるこの高等学校新学習指導要領では、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちが、急速に変化し予測不可能な未来社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成することを目指とし、各教科等の目標及び内容を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理しています。選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられたことから、生徒にとって政治や社会が一層身近なものとなつており、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたつて探究を深める未来的創り手として送り出すことがこれまで以上に求められ、卒業後の学習や社会生活に必要な力の育成ができるよう主体的・対話的で深い学びの実現が必要とされています。また伝統や文化に関する教育の充実もさらに重要視され、芸術科書道の果たす役割も大きいものとなります。

本大会では、「書道教育の可能性を考える／自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成」を大会テーマとし「生徒の主体的学びを意識した授業」のテーマで授業研究を、「漢字仮名交じりの効果的な指導法」「生徒の主体的・協働的学びを引き出す効果的な指導法」のテーマで研究発表がなされます。指導上の工夫等を共有し今後の芸術科書道の指導に生かせるよう、建設的な意見交換がなされることを期待しております

一朝一夕には達成できない書道芸術ですが、これからも、脈々と繋がつてきた書の表現の歴史や、書くことの楽しさ、生涯をかけて探究してもなお尽くせない奥深さや魅力を伝え、瑞々しい感性を持ち合わせた生徒達を力強く導いていただき、日本の伝統文化を世界に発信できるような人材が一人でも多く育つことを切望いたします。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力いただきました皆様に対し心からの敬意と謝辞を表し、書道教育の限りない発展と会員の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして挨拶とさせていただきます。

祝

辞

祝　辞

教科調査官 豊 口 和 士



第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会が、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

ここ数年、特に本年は地震や台風、豪雨等の大規模な災害が多発し、全国で甚大な被害が生じております。近年の災害で被災された皆様、被災地域の関係者の皆様には、この場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。

平成二十九年三月の小学校・中学校に続き、本年三月に高等学校学習指導要領が改訂・告示され、七月に高等学校学習指導要領解説が公表されました。今回の改訂では、情報化やグローバル化、人工知能の発達などを背景に大きく変化し続ける社会と、子供たちが主体的に向き合い関わりながら、感性を働かせて社会や生活、人生を自らで豊かなものにできるよう、これからの社会で求められる資質・能力、高等学校卒業段階で求められる資質・能力を確実に育成することが目指されています。また、これらを踏まえ、幼・小・中・高を体系づけて捉えた上で、すべての教科・科目等において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し直しました。各教科・科目等の学びについては、「何ができるようになるか」を明確化するとともに、そのために「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を重視し、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立などが求められています。

高等学校書道教育もまた新しい学習指導要領に基づいて今後自ら見直しを行い、「書に関する見方・考え方」を働かせて「書の伝統と文化」と関わる資質・能力を育成する指導計画の在り方、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の方向性、「作品の価値とその根拠」「書の現代的意義や普遍的価値」「風趣」に言及した鑑賞の実践など、教育現場に根ざした実践と鑑賞を関連づけた実践、「共通事項」を基軸に据えた表現及び鑑賞の実践など、教育現場に根ざした実践とその分析、その根拠となる研究が求められるところです。

新しい学習指導要領が告示されたまさにその年に、この宮崎大会が「書道教育の可能性を考える」～自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成～を大会テーマに、近年の取組みとその成果を全国に向けて発信されることは、今後新たな第一歩を踏み出すこととなるこれから書道教育にとって大きな意義を有していると言えましょう。授業研究や研究協議につきましても、新しい学習指導要領を踏まえた今後の新たな展開にもつながる、大きな示唆を与えていただけるものと確信しております。

最後になりますが、大会開催にあたり関係諸機関ならびに大会運営にあたられます先生方、また授業研究や研究発表をご担当なさる先生方のご尽力に対しまして、心より敬意を表しますとともに、全国各地からご参考なさいます皆様の益々のご健勝とご活躍と、貴会のさらなるご発展を祈念いたしまして祝辞とさせていただきます。



祝 辞

宮崎県知事

河野俊嗣

第四十二回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会が本県において盛大に開催されることを心からお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しくださいました参加者の皆様を心から歓迎いたします。

主催者であります全日本高等学校書道教育研究会及び宮崎県高等学校教育研究会書道部会におかれましては、日頃より書道教育の充実、芸術文化の振興に多大な御貢献をいたしております。深く感謝申し上げます。

さて、書道は、我が国の重要な伝統文化であり、日本人の暮らしに溶け込んでいることはもちろん、人生や季節の節目で心を込めた手書き文字に触れることが、潤いのある豊かな人生につながっています。

グローバル化と情報化が進む現代において、教育の現場で活躍される皆様が「書道教育の可能性を考える」という大会テーマのもと、研究発表や意見交換を通じて、生徒の自主性・主体性を育み、問題解決や異文化への対応能力を育成されることは、大変意義深いものと存じます。

また、本県が生んだ国民的歌人である若山牧水の短歌をテーマとした研究発表も予定されており、漢字仮名交じりの書の効果的な指導法とともに、今年没後九十年の節目を迎える牧水作品の素晴らしさを改めて知つていただく機会となることを期待しております。

人々が心豊かな生活を送り、創造性に富んだ活力ある社会を築いていくために、芸術文化が果たす役割は大きなものであり、本県におきましても、「文化で築く みやざきの新しいゆたかさの実現」をキヤッチフレーズに、様々な文化振興施策に取り組んでいるところです。

このようなか中、二〇二〇年には「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」のキヤッチフレーズのもと、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が本県において開催されます。

この大会を契機として、古事記や日本書紀に描かれた本県の神話や神楽など、本県文化の魅力を国内外に発信するとともに、書道をはじめとする芸術文化の更なる振興に向けて取り組んでまいりますので、今後とも、皆様方の御理解と御協力をお願いいたします。

また、今回御来県の皆様には、是非この機会に、本県の多彩な神話・伝統や史跡、神楽などに触れていただきますとともに、豊かな自然や、宮崎牛をはじめ、新鮮な海の幸・山の幸など、「日本のひなた宮崎県」の魅力を堪能していただければ幸いです。

結びに、全日本高等学校書道教育研究会及び宮崎県高等学校教育研究会書道部会の今後ますますの御発展と皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

宮崎県教育委員会 教育長

祝辭



四 本 孝

第四十二回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会が、盛大に開催されることを心からお喜び申し上げますとともに、開催県の教育委員会といたしまして、全国各地から御来県いただきました皆様方を心から歓迎いたします。

また、七月に発生した西日本豪雨災害により被災された皆様に対し、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を御祈念申し上げます。

さて、近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速し、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展する中、先々の予測困難な時代を乗り越え、一人一人が未来の創り手となるためには、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造し、未来を切り開いていく力が求められています。

そのような中、今年三月、新高等学校学習指導要領が告示されました。育成すべき資質・能力の三つの柱が明確化され、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が示されています。

本県では、これまで、高等学校における指導者の授業力向上を目指し、新たな授業実践法の研究・開発など、芸術教育の総合的な支援事業に取り組んできました。また、小中学校の国語科書写の授業力向上についても高等学校と連携した講習会を実施し、本県芸術教育の充実を図つてきているところです。

本大会は、「『書道教育の可能性を考える』～自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成～」がテーマですが、芸術科書道の授業における深い学びが、生徒により良い変容をもたらし、未来を創る人間形成に役立つという観点においては、本県の教育振興基本計画のスローガン「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎の人づくり」と軌を一にするものと考えます。

芸術は、私たちに感動や生きる喜びをもたらし、創造力と感性を育むと同時に、明日への活力を与えてくれます。人間が人間らしく生きるために糧となり、他者と共に感動や生きる喜びを通じて、人が共に生きる地域社会の基盤を形成するためになくてはならないものです。芸術教育の重要性を鑑み、未来を創造する生徒育成のため、全国各地の高等学校書道教育関係者の皆様が一堂に会し、公開授業及び研究発表や協議がなされることは大変意義深いことであり、今後の高等学校書道教育の充実、発展に大きく寄与するものと期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり多大な御尽力をいたしました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、全日本高等学校書道教育研究会の今後ますますの御発展並びに御参加の皆様の一層の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



大会要項

第四十三回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会



大 会 要 項

一 大会テーマ

『書道教育の可能性を考える』

「自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成」

二 会 期 平成三十年十一月十五日(木)・十六日(金)

三 会 場 宮崎市民プラザ

宮崎市橘通西一丁目一番二号

TEL ○九八五一一四一一〇〇八

《併催展》

宮崎県高等学校席上揮毫大会上位入賞作品及び

宮崎県高校生の授業作品展示

《企画展》

日高秩父書簡集 十一月十五日(木)・十六日(金)

併催展の作品とともに宮崎市民プラザに展示

四 日 程

◇第1日目 11月15日 [木] 宮崎市民プラザ

9:30~	10:00~11:00	11:10~12:00	12:00~13:00	13:10~14:10	14:20~16:30	~17:00	18:30~20:30
受付	打ち合わせ 総会	開会式	昼 食	情報交換会	授業研究 研究協議	企画展等鑑賞	教育懇談会

◇第2日目 11月16日 [金] 宮崎市民プラザ

8:30~	9:00~11:00	11:10~12:00	12:00~13:00	13:10~14:10	14:10~15:00
受付	分科会(研究発表) 研究協議	全体会 閉会式	昼 食	講演会	企画展等鑑賞

五 授業研究および研究協議

授業研究テーマ 「生徒の主体的な学びを意識した授業」

A 『生徒自ら課題を発見し、解決する魅力ある漢字仮名交じりの書』
～生徒の自詠の短歌をもとに～

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 教諭 湯地 和美

B 『漢字仮名交じりの書～白国の文化を見つめる～』

宮崎県立宮崎大宮高等学校 教諭 本田 淳也

B 研究テーマ 「生徒の主体的・協働的学びを

引き出す効果的な指導法」

- ① 『感性を磨き、書への愛好心を育む書道教育』
～直感的鑑賞から分析的鑑賞、そして表現へ～

宮崎県立日南高等学校 教諭 南 裕之

- ② 『生徒が思考・表現することで理解を深める教科指導法の改善』
熊本県立玉名高等学校 教諭 仲原 幸代

六 分科会および研究協議

A 研究テーマ 「漢字仮名交じりの書の効果的な指導法」

① 『郷土の歌人 若山牧水の短歌を生かした

漢字仮名交じりの書の制作』

宮崎県立延岡高等学校 教諭 木佐貫弘志

② 『指導案の共有化』に向けて』

～書道Iにおける漢字仮名交じりの書の授業実践～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 佐藤 瞳

会則

全日本高等学校書道教育研究会

第一章 総則

第一条 本会は全日本高等学校書道教育研究会と称する。

第二条 本会は事務局を会長の定める所に置く。

第三条 本会は全国の高等学校（特別支援学校高等部を含む。以下同様）における書道教育の振興を図ることをもつて目的とする。

第四条 前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一、高等学校における書道教育に関する研究並びに調査
- 二、会員相互の研修、情報交換並びに、その他必要な事業

第二章 組織・役員

第五条 本会は各都道府県の高等学校の書道教育研究団体をもつて組織し、その構成員を会員とする。

第六条 本会に次の役員を置く。

一、会長 一名

二、副会長 二・三名

三、大会長 三名

四、理事長 一名

五、副理事長 二・三名

六、常任理事

各専門部長 六名

ブロック代表 九名

七、大会担当役員 六名

八、理事 都道府県代表各一名

九、事務局

事務局長 一名
事務局次長 一・二名

書記 二名
会計 二名

監事 二名

十一、顧問 若干名

第七条 役員の選出の内訳は、次のとおりとする。

一、会長及び副会長は幹事会が推薦し、総会において承認する。

二、理事長、常任理事は、幹事会が推薦し、副理事長は理事長の指名により定める。

三、事務局長、事務局次長、書記、会計は理事長の指名により定める。

四、監事は会員から選出し、総会において承認する。

第八条 本会には顧問及び大会長・大会担当役員を、幹事会の決議を経て置く。

一、顧問は会長が推薦し、重要な職務について会長の諮問に応ずる。

二、大会長は会長が推薦し、大会の職務について執行にあたる。

三、大会担当役員は、大会実施のため理事長が推薦する。

第九条 役員の職務は次のとおりとする。

一、会長は本会を代表し、会務を総括する。

二、副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長

が欠けたときは、会長が予め指名した順序により会長の職務を代行する。

三、理事長は会務を総理する。

四、副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるとき、又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

五、常任理事は会務を審議決定し、その執行にあたる。

六、理事は会務を審議し、事務を執行する。

七、事務局長は事務局を代表し、事務を執行する。

八、事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長に事故あるとき、又は事務局長が欠けたときは、その職務を代行する。

九、書記は会議を記録し、議事録を作成する。

十、会計は本会の経費、及び会費の総括をする。

十一、監事は会計を監査する。

十二、監事は監査する。

第十一章 会 務

第十一条 役員の任期は二年とする。ただし、補欠として専任される者の任期は前任者の残留期間とする。

役員は任期満了後でも、後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

第二章 会 議

第十二条 定期総会は、年一回研究大会開催時に、また、臨時総会は必要あるとき幹事会の決議を経て会長がこれを招集する。

第十三条 総会の招集は会議の目的である事項を示し、開催日より一週間以上前に会員に通知をしなければならない。

第十四条 役員会は本会役員をもつて構成し、必要に応じて会長がこれ

を招集し、本会則に定めた事項を審議する。

第十五章 機 関

幹事会は会長、副会長、理事長、副理事長、常任理事、事務局をもつて構成し、必要に応じて会長がこれを招集し、本会則に定めた事項を審議する。

第十六章 大会

大会長、大会担当役員、監事及び顧問は、会議に出席して審議に参加することができる。

第十七条 会議の議事は出席の過半数をもつて決定する。可否同数の場合は議長がこれを決する。

第十八条 会議においては議長を出席者の中から選出し、書記は議事録を作成する。会議終了後、議長及び書記が捺印の上、事務局にこれを保存する。

第四章 機 関

第十九条 本会の会務を処理するために、次の専門部を置く。

- 一、研究部：教科・科目等の内容についての調査及び研究
- 二、調査部：各都道府県の教育活動状況についての調査報告
- 三、出版部：会報の年2回の広報活動の実施と情報交換

四、事業部：会員相互の研修と後援事業の活動支援

五、涉外部：教育に関する外部団体等との連携

六、庶務部：会員名簿の発行、要望書の作成

第二十条 専門部には各部長を置く。ただし、副部長を置くこともできる。

第二十一条 役員会が必要と認めた場合は専門役員会を設けることができる。

第五章 会 計

第二十二条 本会の経費は会費及びその他の収入をもつて充てる。

第二十三条 本会の会費は組織単位年額一〇,〇〇〇円、会員会費年額五〇〇円とする。

第二十四条 会長は定期総会までにその年度の歳入歳出の予算書、前年度の決算書、事業報告書を作成し、役員会の決議を経かつ監事の承認を得なければならない。

第六章 付 則

第二十五条 本会の会則変更は総会の承認を得なければならない。

第二十六条 本会の運営上必要な細則は、幹事会で別に定める。

第二十七条 本会則は昭和四十八年十二月四日制定

昭和五十二年十一月二十六日会則改正

昭和五十六年十一月七日会則改正

昭和五十七年十一月十二日会則改正

昭和五十九年十一月十六日会則改正

昭和六十年十一月二十一日会則改正

平成元年十一月九日会則改正

平成三年十一月二十日会則改正

平成五年十一月十日会則改正

平成十五年十一月二十二日会則改正

平成二十一年十一月十二日会則改正

規約

第四十三回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会

第一章 総則

第一条 本大会を第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会
(略称「全高書研宮崎大会」)と称する。

第二条 本大会の事務局を大会長の定めるところに置く。

第三条 本大会は全国の高等学校書道教育の振興を図ることを目的とする。

第二章 組織・役員

第四条 本大会の実施にあたる組織は、宮崎県高等学校書道教育研究会(略称「宮崎県高校書道部会」)の会員により構成される、全高書研宮崎大会実行委員会とする。

第五条 本大会のために次の役員を置く。

一、大会長 一名 大会を代表する。

二、副大会長 若干名 大会長を補佐し、会長に事故あるときは代行する。

三、運営委員長 一名 大会の会務を統括する。

四、副運営委員長 一名 運営委員長を補佐し、運営委員長に事故あるときは代行する。

五、事務局長 一名 大会の事務処理を統括する。

六、事務局次長 二名 事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときは代行する。

七、各部長 各一名 大会の各専門部を統括する。

八、各副部長 各一名 各部長を補佐し、それぞれに事故あるときは代行する。

第六条 前条の役員は、宮高書研の承認を得る。

第七条 役員の任期は本大会の開催される平成三十年度末までとする。
補充役員の任期は前任者の残存期間とする。

第三章 会議・機関

第八条 本大会のための会議は次の通りとする。

一、全高書研宮崎大会 實行委員会

二、全高書研宮崎大会 運営委員会

三、全高書研宮崎大会 準備委員会

四、全高書研宮崎大会 各部会

第九条 運営委員会は大会長、副大会長、運営委員長、副運営委員長、

事務局長、事務局次長、各部長および各副部長をもつて構成し、大会長がこれを招集する。

一、議事は運営委員会で決議する。

二、実行委員会は、全実行委員を持つて構成し、大会長がこれを招集する。

三、運営委員会は事業の議決機関として、次のことを行う。

一、各部から提出された企画、立案の評価

二、その他重要事項の審議

第十一条 運営委員会は、次の各部との調整並びに執行機関とし、運営委員長がこれを召集する。会務遂行のために次の専門部を置く。

一、研究部
二、編集部

三、事業部
四、会計部

第四章 会 計

第十二条 本大会の経費は次のものをもつて充てる。

- 一、大会参加者からの参加費
- 二、全高書研本部の負担金
- 三、協賛金
- 四、その他補助金等

付 則

本規約は平成二十九年十一月から実施する。



第四十三回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会

役員一覽

顧問長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
(第四十三回宮崎大会)	（第四十四回岡山大会）						
大会長	理事長	副理事長	副理事長	副理事長	副理事長	副理事長	副理事長
（第四十三回宮崎大会）	（第四十四回岡山大会）						
研究部長	研究副部長	調査副部長	出版副部長	事業副部長	事業副部長	渉外部長	庶務副部長
（第四十三回宮崎大会）	（第四十四回岡山大会）						
常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事
（第四十三回宮崎大会）	（第四十四回岡山大会）						
庶務副部長	庶務部長	事業副部長	出版副部長	事業副部長	事業副部長	渉外部長	常任理事
（第四十三回宮崎大会）	（第四十四回岡山大会）						

城寺村永研岸竹早吉栗佐高小山延長森野荒佐
戸岡上友山本嶋川木山藤橋室田原津瀬井川
啓大勇一秀雅佳仁敦邦信典良和勝義利哲
也穏誠藏人哉聰大尋司子夫男生明彦博也之治

常任理事ブロック代表	(北海道)
常任理事ブロック代表	(東北)
常任理事ブロック代表	(関東)
常任理事ブロック代表	(東海)
常任理事ブロック代表	(北信越)
常任理事ブロック代表	(近畿)
常任理事ブロック代表	(中国)
常任理事ブロック代表	(四国)
常任理事ブロック代表	(九州・沖縄)
事務局 次長	
事務局 事務局長	
事務局 大会担当役員	
書記	
監事 計	
監事 会計	
監事 会書	
監事 会會	
監事 會會	
監事 會書	
監事 會會書	

木有國納山小山後湯永三研岡成下國松本
村働定所口水下藤地友木山村田石定戸間
則道佳英祐和大敬勇正年哲
夫生貢子徳博剛子美藏宇人道樹幸貢靖勲



第四十三回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会

運営役員一覧

大 会 長	長 津 和 彦	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 校長
副 大 会 長	松 元 謙 吾	宮崎県立宮崎南高等学校 副校長
副 大 会 長	宮 竹 恵 理	宮崎県立都城西高等学校 教頭
副 大 会 長	三 浦 正 貴	宮崎県立宮崎海洋高等学校 教頭
運 営 委 員 長	湯 地 和 美	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 教諭
副運営委員長	永 友 大 藏	宮崎県立宮崎南高等学校 教諭
事 務 局 長	後 藤 祐 子	宮崎県立都城西高等学校 教諭
事 務 局 次 長	南 裕 之	宮崎県立日南高等学校 教諭
事 務 局 次 長	本 田 淳 也	宮崎県立宮崎大宮高等学校 教諭
研 究 部 長	小 篠 貴 子	宮崎県立宮崎東高等学校 教諭
研究部副部長	長 友 秋 菜	宮崎県立宮崎北高等学校 教諭
事 業 部 長	永 友 大 藏	宮崎県立宮崎南高等学校 教諭
事業部副部長	久 保 美 千 代	宮崎日本大学高等学校 教諭
編 集 部 長	藤 高 祐 太 朗	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 教諭
副編集部長	木 佐 貫 弘 志	宮崎県立延岡高等学校 教諭
会 計 部 長	波 賀 恭 子	宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭
会計部庶務	房 安 紀 子	宮崎県立赤江まつばら支援学校 教諭

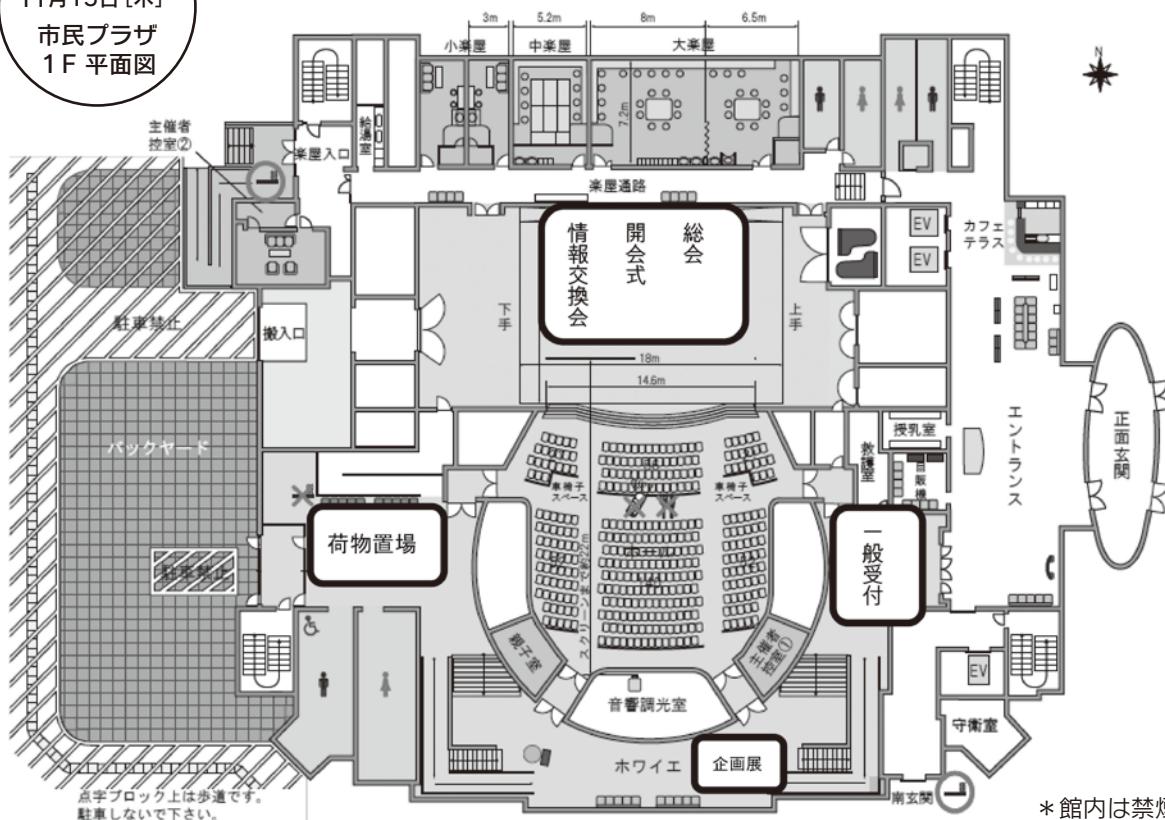
全日本高等学校書道教育研究会全国大会実績

回	西暦	和暦	開催年月	開催地	研究テーマ	本部会長 理事長	大会長 運営委員長	学習指導 要領
	1970	S45						告示
創立	1973	S48	12/4	東京	結成大会	秋山 松次		実施
1	1974	S49	7/25	東京		黒川 竹保 山本 幸男	黒川 竹保 山本 幸男	
2	1975	S50	11/17~18	東京	指導内容の構造化	黒川 竹保 山本 幸男	黒川 竹保 山本 幸男	
3	1976	S51	11/19~20	大阪	1 施設・設備・備品の工夫 2 表現指導のさまざま 3 工芸的書作品の指導のさまざま	櫛部 浄義 山本 幸男	氏田 芳夫 原納 淳	
4	1977	S52	11/25~26	東京	書道教育の原点を探る 1 表現指導の原点は何か 2 鑑賞指導の原点は何か	櫛部 浄義 山本 幸男	櫛部 浄義 山本 幸男	
	1978	S53						告示
5	1979	S54	11/29~30	埼玉 (浦和)	豊かな人間性を育てる書道教育 1 魅力ある臨書指導の展開 2 魅力ある創作指導の展開 3 表現指導における鑑賞教材の望ましい取り扱い	櫛部 浄義 山口孝次郎 (後藤 利雄)	前田 耕平 佐藤 五郎	
6	1980	S55	11/14~15	兵庫 (神戸他)	80年代における高校書道教育を求めて 鑑賞指導について	櫛部 浄義 後藤 利雄	黒上正八郎 池内 立明	
7	1981	S56	11/5~7	神奈川 (横浜)	21世紀を拓く高校書道教育を求めて 1 新教育課程をとりまく諸問題 2 豊かな創造力を育てる表現・鑑賞指導	櫛部 浄義 (大河原三郎) 後藤 利雄	藤平 恭治 桑山 次男	
8	1982	S57	11/11~13	福岡	豊かな書のこころと美を求める高等学校書道教育 -教科指導および特別活動における書道教育の充実をめざして-	大河原三郎 後藤 利雄	主 岩崎 静雄 徳男	実施
9	1983	S58	10/26~28	徳島	豊かな創造性を育てる高校書道教育	大河原三郎 後藤 利雄	山川 邦直 春藤 孝雄	
10	1984	S59	11/15~17	静岡	今、なぜ書道教育か -文化人の育成に関わる書道教育-	後藤 利雄 藤平 恭治	武田 義諦 法月 良夫	
11	1985	S60	11/20~22	千葉	21世紀に生きる豊かな人間性を求めて -豊かな児童生徒を育てるための書写書道教育-	後藤 利雄 藤平 恭治	関 恒延 小高 正行	
12	1986	S61	11/6~8	奈良	自己発見をめざした書道教育 -多様化した生徒の実態をふまえ、達成感を味わわせるための指導はどうあるべきか-	後藤 利雄 有留 一雄	山田 哲夫 松永 昭男	
13	1987	S62	11/5~7	栃木	書道教育のめざすもの -「生」を反映する指導を求めて-	後藤 利雄 有留 一雄	川上 行夫 重原 道雄	
14	1988	S63	11/24~26	広島	今広島から未来へ! -豊かな人間性を創造する書道教育をめざして-	瀬津 和彦 有留 一雄	津山 光次 平野 五作	
15	1989	H元	11/9~11	大阪	再び問う、書道教育で何を育て得るか? -生徒の心を揺れ動かすため-	瀬津 和彦 有留 一雄	原納 淳 幸田 博明	告示
16	1990	H2	11/8~10	新潟	掘る、耕す、拓く -己を見つめ、育み、開花させる書道教育をめざして-	原納 淳 和田 孝之	長谷川武雄 中村 勝	
17	1991	H3	11/20~22	滋賀	高校生の書を育てる -豊かな表現をめざして-	原納 淳 和田 孝之	済 逸哉 松宮 忠夫	
18	1992	H4	11/12~14	熊本	今、時代に生きる書道教育とは	原納 淳 和田 孝之	安武 幸孝 橋本 正義	
19	1993	H5	11/10~12	愛知 (名古屋)	心豊かな時代と書道教育 -基礎・基本を生かし、感性を育む書の表現をめざして-	酒井 洋 重原 道雄	山本 十次 中村 強	
20	1994	H6	11/9~11	神奈川 (横浜)	豊かな心と感性の育成 -書の本質を究め、国際化時代に目を開いた書道教育-	酒井 洋 重原 道雄	酒井 洋 菊池 芳雄	実施

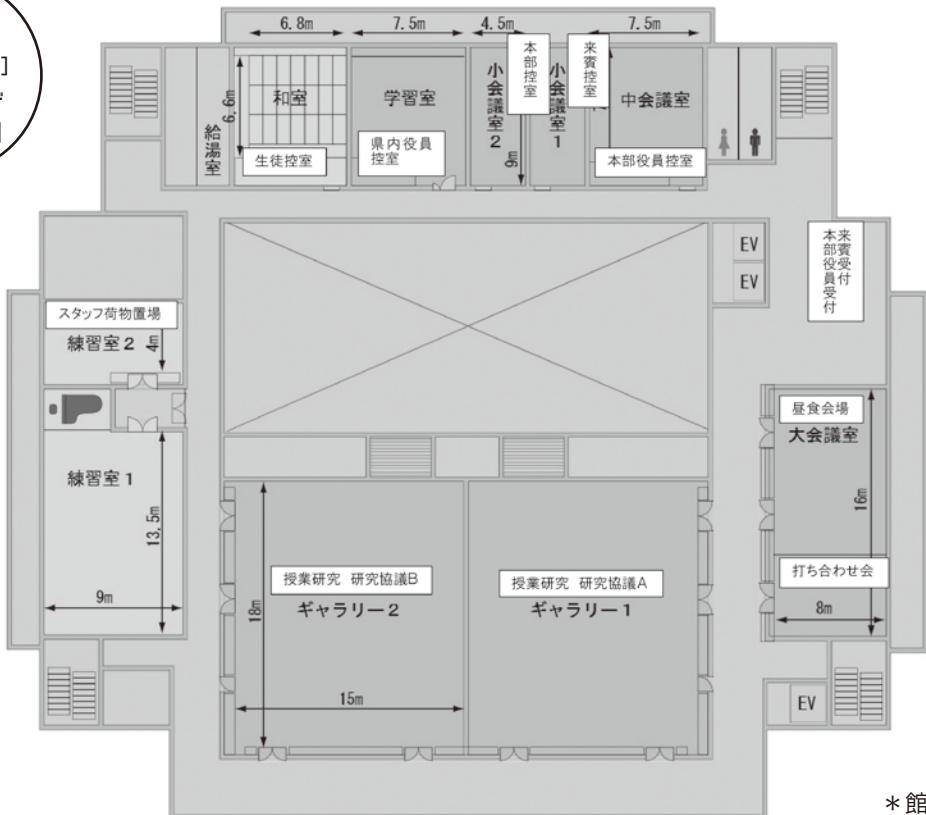
回	西暦	和暦	開催年月	開催地	研究テーマ	本部会長 理事長	大会長 運営委員長	学習指導 要領
臨時	1995	H7	11/21~22	東京	21世紀をめざす高校教育、これからの芸術教育と書道	酒井 洋 三谷 明	酒井 洋 重田 明彦	
21	1996	H8	11/6~8	兵庫 (神戸他)	21世紀にいきる書を求めて —豊かな表現を求めて—	小川 尚義 三谷 明	奥平 勝 山本 巍	
22	1997	H9	10/22~24	茨城 (水戸)	文化の継承と明日を担う書道教育 —心を育て力を伸ばすには—	小川 尚義 三谷 明	草間 獲 野沢 嶺一	
23	1998	H10	10/28~30	岩手 (盛岡)	21世紀に生きる豊かな心と感性の育成を求めて —書の本質を極め、郷土に根ざした豊かな表現を求めて—	疋田 武夫 深井 一憲	安藤 利勝 佐藤 紳夫	
24	1999	H11	11/11~12	奈良 (橿原)	自己発見そして自ら学び続ける書道教育 —個性を尊重し、豊かな感性と生きる力を養う 指導はどうあるべきか—	疋田 武夫 深井 一憲	松本 武彦 森嶋 隆一	告示
25	2000	H12	10/23~24	長野 (長野)	心豊かな人間の育成をめざした書道教育 —個性を伸ばし、明るく生きるために—	萩原 洋造 深井 一憲	高野 忠夫 小出 一美	
26	2001	H13	11/21~22	三重 (津)	豊かな感性を育てる書道教育をめざして	萩原 洋造 深井 一憲	鈴山 雅子 稻垣 武嗣	
27	2002	H14	11/14~15	栃木 (宇都宮)	伝えよう、「書」のいのちと魅力 —栃木より再び「生」を反射する書道教育—	赤堀 修一 中村 好男	井口 昭義 小森 梅壽	
28	2003	H15	11/22~23	福岡 (福岡)	芸術する心 —今、高校生に必要なもの—	赤堀 修一 中村 好男	黒木 彪 山口 修一	実施
29	2004	H16	10/28~29	京都	感動のある授業をめざして	赤堀 修一 中村 好男	澤木 正彦 橋本太美雄	
30	2005	H17	11/11~12	広島	『永遠にいきづく書道教育を求めて!』 —再び、今、広島から未来へ!—	赤堀 修一 中村 好男	安森 譲 黒川 英雄	
31	2006	H18	11/18~19	大阪	『書道教育の在り方を求めて』 —改めて問う、書道教育で何を育て得るのか?—	東野 敏夫 中村 好男	赤堀 修一 牧野 淳	
32	2007	H19	11/15~16	千葉	『書教育と心の教育を見据えて』 —学習指導要領改訂実施より5年、今千葉では—	東野 敏夫 中村 好男	村山 元信 白井 孝	
33	2008	H20	11/13~14	鹿児島	『個を生かし、感動する心を育てる書道教育』 —南国、鹿児島からの発信—	東野 敏夫 中村 好男	中尾 理 上野 一範	
34	2009	H21	11/12~13	埼玉	人間力を育む書道教育を目指して —「かくこと」「みること」を生きる力に—	安達 健治 斎藤 克美	森 誠治 加藤 秀輝	告示
35	2010	H22	11/11~12	兵庫 (神戸他)	生きる力を拓く書道教育 —伝統と文化を活かし、感性豊かな 人間づくりをめざして—	安達 健治 斎藤 克美	堀 健兒 新田 安典	先行 実施
36	2011	H23	11/17~18	新潟	紡ぎ、織り成す心模様 ～今、深化する書道教育～	小林 典彦 瀧 俊朗	須佐 尚子 川上 治美	
37	2012	H24	11/15~16	東京	伝統を継承し、文化を創造する書道教育	小林 典彦 瀧 俊朗	小林 典彦 瀧 俊朗	
38	2013	H25	11/14~15	静岡 (浜松)	新時代を切り拓く書道教育 ～繋ぐ静岡の書～	小林 典彦 山田 典生	鈴木 典夫 田辺 隆弘	実施
39	2014	H26	11/13~14	長野 (松本)	『書道教育を通して生徒をどう育てるのか』 ～教育活動から書教育の原点を探る～	古溝 茂 山田 典生	伊藤 公磨 大沢 一仁	
40	2015	H27	11/5~6	山形	芸術文化を理解し、尊重する書道教育 ～郷土を愛する豊かな人間性を求めて～	古溝 茂 山田 典生	伊藤 吉樹 栗原 三宜	
41	2016	H28	11/21~22	北海道 (札幌)	『書の「伝統文化」に触れ、創造性豊かな 「心の育成」をめざして』 ～ことばと書美による触発～	古溝 茂 山田 典生	塩崎 学 古谷 聰	
42	2017	H29	11/9~10	熊本	『地域とともに生徒を育む書道教育』 ～火の国から新たなる創造を求めて～	佐川 哲治 山田 典生	那須 高久 志垣嘉納子	
43	2018	H30	11/15~16	宮崎	『書道教育の可能性を考える』 ～自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成～	荒井 利之 山田 典生	長津 和彦 湯地 和美	告示

会場案内図

1日目
11月15日[木]
市民プラザ
1F 平面図



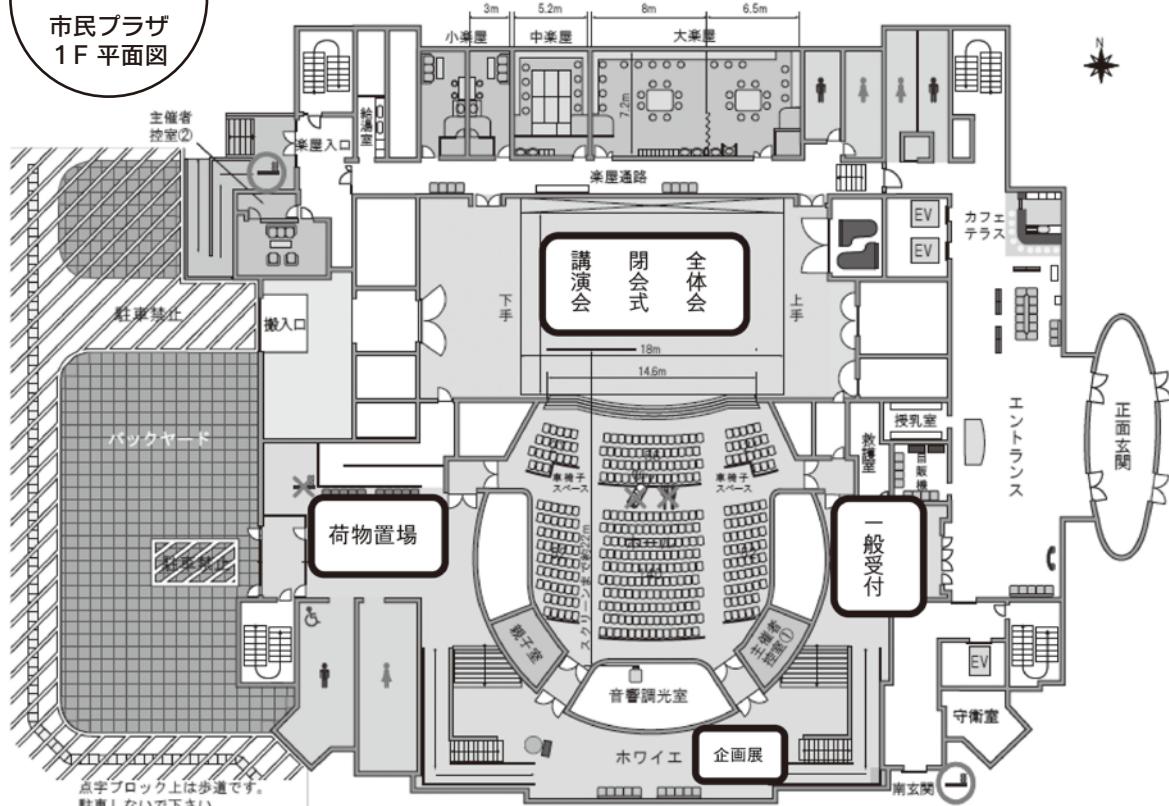
1日目
11月15日[木]
市民プラザ
4F 平面図



2日目

11月16日 [金]

市民プラザ
1F 平面図

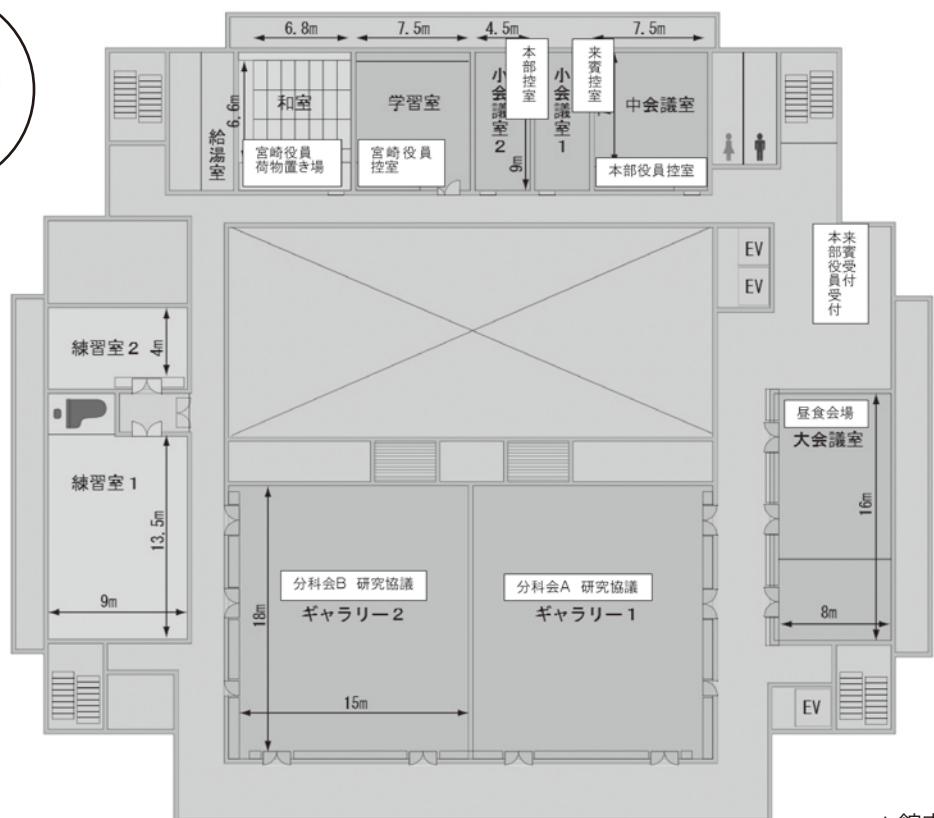


*館内は禁煙です

2日目

11月16日 [金]

市民プラザ
4F 平面図



*館内は禁煙です

大会会場・ご案内ホテルマップ



参考 宮崎県への来県手段

【飛行機】各空港から直行便での所要時間（平成30年5月現在）

- | | | |
|---------------|---------|--------------|
| [羽田空港～宮崎空港] | 18往復／1日 | 所要時間：約1時間40分 |
| [成田空港～宮崎空港] | 1往復／1日 | 所要時間：約2時間 |
| [中部国際空港～宮崎空港] | 4往復／1日 | 所要時間：約1時間15分 |
| [伊丹空港～宮崎空港] | 11往復／1日 | 所要時間：約1時間5分 |
| [関西国際空港～宮崎空港] | 2往復／1日 | 所要時間：約1時間5分 |
| [福岡空港～宮崎空港] | 13往復／1日 | 所要時間：約45分 |
| [那覇空港～宮崎空港] | 1往復／1日 | 所要時間：約1時間20分 |

【B & S】博多駅～宮崎駅の所要時間（新幹線と高速バスを利用した場合の時間）

[博多駅～宮崎駅] 所要時間：約3時間

新幹線：1時間 博多駅～新八代駅 ⇒ 高速バス：2時間 新八代駅～宮崎駅

参考 大会会場への主な公共交通手段

【宮崎空港より】所要時間：約30分 運賃：380円（大人片道）

<路線バス利用> 宮崎空港 → 橋通り1丁目下車 → 徒歩約5分

【JR宮崎駅より】所要時間：約20分 運賃：170円（大人片道）

<路線バス利用> 宮崎駅 → 橋通り1丁目下車 → 徒歩約5分

授業研究および研究協議

生徒自ら課題を発見し、解決する魅力ある・漢字仮名交じりの書～生徒の自詠の短歌をもとに～

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 教諭

漢字仮名交じりの書～生徒の自詠の短歌をもとに～

湯地和美

一はじめに

社会は、情報化やグローバル化など急激に変化している。特に人工知能（AI）の進歩は目覚ましく、人間が物事を深く理解する過程を模したディープラーニングへ人工知能研究の一つでコンピューターによる機械学習。人間の脳神経回路を模したニューラルネットワークを多層的にすることで、コンピューター自らがデータに含まれる潜在的な特徴をとらえより正確で効率的な判断を実現させる技術や手法の分野ではかなりの成果が見られ、人間の理解力、処理能力を凌駕しつつある。しかし、それらは与えられた目的の中での処理であり、感性を豊かに働かせるという人間の芸術的思考、判断の分野については果たしてこの先どうなるのだろうか。

さて、このような時代に私たち指導者は「何ができるようになるか」

「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「学んだことをどう生かすか」という新たな教育課題に取り組まなければならない。社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索、計画を実行し、更に、新たな問題を発見してよりよい解決につなげていくことのできる資質、能力を育むことが求められている。

本県では、平成二十七年度から三年間の計画で「宮崎県伝統文化教材の研究・開発」に取り組んできた。私も研究員の一人としてこの事

業に関わることは大変意義のあることであった。ここで取り組んだのが明治を代表する歌人「若山牧水」である。高等学校書道部会ではこのテーマを「漢字仮名交じりの書」の単元で平成二十八年・二十九年の二年間にわたり県内の各高等学校の書道の授業で「牧水の歌を題材にした表現活動」に取り組み、研究会では生徒の作品を持ち寄り研究協議のなかで作品の作り方について研究を深めていった。また、本県では、若山牧水を顕彰して毎年八月に日向市で高校生を対象とした「牧水短歌甲子園」が開催されている。全国から選抜された高校生三名が一チームとなり題詠、自由詠の歌を披露してお互いのチームがやりとりする。

それらの歌は、高校生らしいみずみずしい感覚で詠まれており、私たちに強く訴えてくるものがある。

これまで、「漢字仮名交じりの書」の学習では、生徒自身が紡ぎ出した言葉や書きたい・伝えたい言葉などを表現する学習としていたが、ここ三年程は、生徒に短歌を作らせその歌をもとに作品制作を行つている。今回の授業では、自詠の歌をもとに、どのように生徒達が感性を働かせ、他者と協働しながら作品を創りあげていくのか、この過程を通して書道教育の可能性を考えてみたい。

二 単元名

漢字仮名交じりの書の学習

（）生徒の自詠の短歌をもとに（）

三 単元設定の理由

漢字仮名交じりの書では、書く題材が重要であるとの考え方から、自詠の歌を題材とした。若山牧水は「歌を詠むのは『自分』を知りたいからである。はつきりと『自分』というものをつかみたいからである」と言っている。その牧水の歌に込められた想い、魅力に触れることで、生徒は心の中にある気持ちを素直に自詠の短歌に込めることができる。「仮名の書」における名筆の学習をおこなっていない中、書道Iの「漢字の書」の学習を基にした「漢字と仮名との調和」「全体の構成」等について主体的、対話的な学習を通して生徒の創造性を引き出し、深い学びに結びつけられるか、その可能性を探りたい。

四 単元の目標

（一）ことば（自詠の歌）について深く考える。

漢字と仮名の字形や調和について自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動する。
（書への関心・意欲・態度）

（二）参考とする古典（争坐位稿）をもとに、漢字と仮名の調和について協働で考え、表現する。

字形や全体の構成について自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
（書表現の構想と工夫）

（三）参考とする古典の良さや美しさを生かして表現する技能を身につける。

漢字と仮名の調和のとれた表現を理解し、字形及び全体の構

成を考えた表現の技能を身につける。（創造的な書表現の技能）
（四）参考とする古典の特徴を理解しようとしている。
制作された作品を鑑賞し、その美しさや良さを感じ取ろうとしている。
（鑑賞の能力）

五 単元の評価規準

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
表現の構想から完成に至るまで、意欲的、主体的に鑑賞及び表現活動に取り組もうとしている。	自己の表現のねらいを達成するために字形・線質・全体の構成などについて工夫している。	参考古典の特徴が生きる字形、用筆、運筆の関係及び全体の構成を参考、表現している。	鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じとつている。
（書への関心・意欲・態度）	（書表現の構想と工夫）	（創造的な書表現の技能）	（鑑賞の能力）

六 単元の具体的評価規準

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
〔表現〕 (関心①) 自詠の歌について深く考えている。 (関心②) 漢字と仮名の字形や調和について自らの構想に基づいて意欲的に、主体的に活動している。	(構①) 参考とする古典をもとに、漢字と仮名の調和について協働で考え表現しようとしている。	(技①) 参考とする古典の良さや美しさを生かして表現する技能を身につけ表している。	(鑑①) 参考とする古典の特徴を理解しようとしている。
〔講②〕 字形や全体の構成について自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている。 (構③) 作品批評会を通して、自分の作品の課題を発見し表現に生かそうとしている。	(技②) 漢字と仮名の調和のとれた表現を理解し、字形及び全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。	(鑑②) 制作された作品を鑑賞し、その美しさや良さを感じ取ろうとしている。	(鑑②) 争座位稿の鑑賞・争座位稿に調和した仮名の表現のダイナミックで力強い表現と軽快な表現を振り返る。
〔鑑賞〕 (関心③) 自らの感性や意図に基づき、主体的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。	〔鑑賞〕 (構③) 作品批評会を通して、自分の作品の課題を発見し表現に生かそうとしている。	〔鑑賞〕 (構③) 作品批評会を通して、自分の作品の課題を発見する。	〔鑑賞〕 (構③) 作品批評会を通して、自分の作品の課題を発見する。

七 指導と評価の計画（全十一時間）

時間	ねらい・学習活動									
	第一次 (二時間)	第二次 (二時間)	第三次 (二時間)	第四次 (二時間)	第五次 (二時間)	第六次 (一時間)	本時	ととの関連	具体的評価規準	評価方法等
・郷土の歌人「若山牧水」を学ぶ ・自詠の歌を作る（国語科との連携）	・争座位稿の鑑賞 ・争座位稿に調和した仮名の表現のダイナミックで力強い表現と軽快な表現を振り返る	・模索（グループ学習） ・争座位稿に調和した仮名の表現のダイナミックで力強い表現と軽快な表現を振り返る	・全体の構成の模索（グループ学習） ・自詠の歌に合わせた漢字を調べる	・自詠の歌を題材とした作品制作 ・作品の構想図を半紙に小筆を使つて作成（全体の構成・文字の大小を考へる）	・全員の作品を自由に鑑賞し、新たな課題の発見、気づきを得る。 ・班別の作品批評会により自分の作品の課題を発見する。	・仮提出①（全紙1／3） ・仮提出②（全紙1／3）	鑑② 技② 鑑② 技② 構② 技① 構② 鑑② 技① 鑑① 関① 観察 鑑賞カード	観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品	観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品	
・作品発表会、カード記入	・まとめ作品を制作する（全紙1／3）	・観察	・観察	・観察	・観察	・観察	・観察	・観察	・観察	・評価方法等

八 単元の評価

- (一) 表現の構想から完成に至るまで、意欲的、主体的に表現活動に取り組むことができたか。
(書への関心・意欲・態度)
- (二) 自己の表現のねらいを達成するために字形・線質・全体の構成などについて工夫することができたか。(書表現の構想と工夫)
- (三) 参考古典の特徴が生きる字形、用筆、運筆の関係及び全体の構成を考え、表現することができたか。(創造的な書表現の技能)
- (四) 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じることができたか。
(鑑賞の能力)

九 本時の学習内容

- (一) 本時の指導目標

- ① 前時に書いた作品を自由鑑賞し、良い点や参考にすべき点を見出し、自分の作品づくりに生かす。
- ② 自分の作品の課題を明確にし、より良い作品づくりに繋げる。
- ③ 発表会を通して、他の作品のよさや、美しさを感じくる。

(二) 本時の学習指導の展開（次頁）

十 本時の評価

- ① 自由鑑賞で自らの感性や意図に基づき、主体的に鑑賞の学習に取り組むことができたか。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 漢字と仮名の調和のとれた表現を理解し、字形及び全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表しているか。
(創造的な書表現の技能)
- ③ 制作された作品を鑑賞し、その美しさや良さを感じ取ろうとしているか。
(鑑賞の能力)

十一 成果と課題

今回の授業では、単元のまとめの作品制作とグループの代表者が発表する場面（指導と評価の計画 第六次）を授業公開とした。生徒が自詠の短歌をどのように表現していくのか。今回は表現の参考とする漢字の書の古典を「争坐位稿」とした。

二学期になり漢字の書「行書の学習」では「蘭亭序」と「争坐位稿」を学習した。「争坐位稿」の学習では生徒は顔真卿の多様な用筆の習得にかなり苦戦していたようである。また、本単元の「漢字仮名交じりの書」の表現は、漢字と仮名の調和の仕方に難しさを感じる生徒も多かった。

本単元では、「仮名の書」の名筆の学習をしていない生徒が、「漢字仮名交じりの書」を取り組むにあたり、国語科との教科連携における自作の短歌作りの学習を経て、自己の表現のねらいに結びつく仮名の字形や線質、全体の構成法について、生徒が協働で課題に取り組みながら、まとめ学習に繋げていくことを学習の一つの柱とした。「漢字の書」の学習を基にし「参考とする漢字の書の古典から仮名の線質や形などのヒントを得る」ことや、「仮名の書」の散らし書き等を学んでいない生徒に「行頭の高さを変化させる等のヒントから全体の構成に変化を求める」という内容で学習を進めた。協働学習（模索）資料と、その発表方法を工夫することにより、生徒が主体的に課題解決に取り組んでくれたことは大きな成果であった。

しかし、仮名の成立を学ぶことで広がる字形・線質の知識や技法、散らし書きによる余白の効用等を学んでいない時点での「漢字仮名交じりの書」の取り組みは、作品の質の高まりという点では課題が残つた。

年間指導計画では生徒は今後「仮名の書」を学習していくが、今回

取り組んだ「漢字と仮名の調和」や「漢字仮名交じりの書の全体の構成」等について、「仮名の書」の学びによる新たな気づきや書の表現の創意工夫の創出と更なる向上心に繋がることを期待したい。



グループでの仮名の作成



国語科との連携短歌作り



様々な構成



グループでの構成例の作成



グループ別作品制作



グループ別作品批評会



作品発表会



本時の学習指導の展開（第6次の1限目）					評価等
過程	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。 返却された作品を机の上に広げておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に仕上げた作品を各グループごとに返却する。 鑑賞カードを配布する。 	
展開1	10分	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの作品を自由に鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞のポイント5点を確認する。 各グループの作品をじっくり鑑賞しながら、良い点や改善すべき点はどういうところなのか自分でじっくり考える。 これから制作するうえでの課題を学習カードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞のポイント5点 1構成 2漢字と仮名の調和 3字形、線質 4誤字、脱字 5落款 鑑賞のポイントとともにじっくり鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの感性や意図に基づき、主体的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。（関③）
展開2	25分	<ul style="list-style-type: none"> 課題をもとに制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時のグループ別鑑賞会で批評、助言を受けたことをもとに作品を制作する。 紙面に対する文字の大きさや余白に注意して作品を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループを回りながら、まだ不十分な生徒については個別的に指導助言を行う。 前時の課題をしっかり認識して作品制作に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 線質、字形、全体の構成について工夫している。 漢字と仮名の調和のとれた表現を理解し、字形及び全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。（技②）
展開3	6分	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ代表生徒による発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 代表生徒は前にでて、短歌に込めた思い、作品制作上の意図や工夫した点を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表生徒の発表を聞きながら、じっくり作品を鑑賞して、よいところは自分の作品に生かすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の作品のよさや美しさを感じとっている。（鑑②）
まとめ	4分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 制作上の課題が達成できたか。作品の向上がみられたか前時の作品と比較してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標が達成できたか生徒に振りかえらせる。 作品を仕上げた感想をプリントにまとめる。 	

2学期	1学期	(1) 時期 ② 対象生徒	(3) 教材 (単元・分野等) ページ数	(4) 教材の活用及び評価の場面等 (身につけさせたい学力)	(5) 態度目標	(6) 指導者の支援
普通科 理数科1年書道選択生						
○漢字の書 ・行書の学習 蘭亭序 争坐位文稿 ○漢字仮名交じりの書	○書I (光村図書) ○漢字の書 ・楷書の学習 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顏氏家廟碑 牛橛造像紀 雁塔聖教序 ○硬筆の学習 ・楷書のまとめ 做書	書I (光村図書) ○漢字の書 ・行書の学習 蘭亭序 争坐位文稿 ○漢字仮名交じりの書	書I (光村図書)	<ul style="list-style-type: none"> 中学校までの国語科書写では、文字を正しく整えて、読みやすく書くことを目標とし、それを日常生活に生かすことを行っていた。これから学習する「書道」では、その「書写」の能力をいつそう高め、さらに古典を通して文字を素材としたさまざまな表現方法を学び、自己表現ができるよう学習する。 <p>一学期は楷書の古典を学習したのち、まとめとして做書作品を制作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校までの国語科書写では、文字を正しく整えて、読みやすく書くことを目標とし、それを日常生活に生かすことを行っていた。これから学習する「書道」では、その「書写」の能力をいつそう高め、さらに古典を通して文字を素材としたさまざまな表現方法を学び、自己表現ができるよう学習する。 <p>一学期は楷書の古典を学習したのち、まとめとして做書作品を制作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校までの国語科書写では、文字を正しく整えて、読みやすく書くことを目標とし、それを日常生活に生かすことを行っていた。これから学習する「書道」では、その「書写」の能力をいつそう高め、さらに古典を通して文字を素材としたさまざまな表現方法を学び、自己表現ができるよう学習する。 <p>一学期は楷書の古典を学習したのち、まとめとして做書作品を制作する。</p>
○漢字の書 ・行書の学習 蘭亭序 争坐位文稿 ○漢字仮名交じりの書	○硬筆の学習 ・楷書のまとめ 做書	○硬筆テキスト	書I (光村図書)	<ul style="list-style-type: none"> 楷書と行書を比較させながら行書の特徴を理解する。 行書の古典として「蘭亭序」「争坐位文稿」の学習を通して、巧みな技法や豊かな表情を感じとする。 行書の古典を参考にして漢字仮名交じりの書を制作する。 ① 全紙二分の一に古典の書き下しの例を鑑賞する。この学習を通して漢字と仮名の調和のさせ方の基礎を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の古典として5つの古典を取り上げ作者、作品が書かれた時代背景、作品の特徴を理解し臨書する。また、古典の鑑賞を通して、鑑賞能力を高める。 日常使用する文字を中心には、美しく整えて書く技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の基本点画をして姿勢、執筆法を確認。 楷書の古典として5つの古典を取り上げ作者、作品が書かれた時代背景、作品の特徴を理解し臨書する。また、古典の鑑賞を通して、鑑賞能力を高める。 楷書の基本点画、姿勢、執筆法がしっかりできているかどうか機間支援しながら、個別に指導する。
○漢字の書 ・行書の学習 蘭亭序 争坐位文稿 ○漢字仮名交じりの書	○硬筆テキスト	書I (光村図書)	書I (光村図書)	<ul style="list-style-type: none"> 二つの古典の学習を通して行書の用筆の違い（露鋒と藏鋒）の理解と、表現の幅を広げるための範書や添削。 「争坐位文稿」に調和する仮名を各グループで協働で制作する。 紙面構成についても各グループで協働で構成例を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの古典の学習を通して行書の用筆の違い（露鋒と藏鋒）の理解と、表現の幅を広げるための範書や添削。 「争坐位文稿」に調和する仮名を各グループで協働で制作する。 紙面構成についても各グループで協働で構成例を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の基本点画、姿勢、執筆法がしっかりできているかどうか機間支援しながら、個別に指導する。 楷書の古典の学習では、様々な古典の学習を通して古典の特徴や用筆をしつかり習得する。また、鑑賞を通してじっくり古典の良さを味わう。

3 学期	2 学期
○漢字の書 (光村図書) ○仮名の書 (硬筆の学習)	○漢字の書 (硬筆の学習)
○漢字仮名交じりの書 (実用書) ○篆刻	○漢字仮名交じりの書 (実用書)
<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と種類について理解させ、基本的な筆使いを習得させる。 ・字形や筆使いを意識して、平仮名单体48字を半紙にまとめる。 ・高野切第三種を仮名料紙に臨書する。伸びやかな線質、流れるような連绵を習得する。 ・仮名のまとめとして「手紙」を書く。 ・姓名印を作成する。 ・印の構成を理解して印稿を作成する。 ・文字を布字して完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「蘭亭序」「争坐位文稿」を硬筆で臨書して、硬筆による行書表現の深化を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代の仮名成立過程の理解。 ・連綿の法則を理解し、筆脈を意識して書くことができたか。 ・手紙の形式についての理解と、仮名の活用へのまとめを行なう。 ・印の歴史を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字からどのように仮名が成立したのか成立の過程の理解。 ・連綿の法則（意連・形連）の理解。 ・この手紙は実際に相手に出すことを行なう、小・中学校の恩師または両親に書くこととする。

漢字仮名交じりの書～自国の文化を見つめる～

宮崎県立宮崎大宮高等学校 教諭

本 田 淳 也

一 「書道Ⅰ」の目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

二 「書道Ⅰ」の評価の観点の趣旨

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	書表現の創造的な技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい書の伝統に関心をもつて、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを想像的に味わっている。

三 はじめに

近年、情報化やグローバル化といった社会的变化が人間の予測を超えて加速度的に進展している。変化の一つとして人工知能「A I」の飛躍的進化が挙げられ、我々人類を超えるのもそう遠くないと言われている。これまで人間がしてきたことをコンピューターが取つて代わり、これから社会の中心をA Iが担つていくとしたら、どのような世界が広がっているか。そこには情報とスイッチだけで完結してしまう閑静な毎日が繰り返され、ロボットと会話する人間の姿が当たり前のようにあるかもしれない。想像は尽きないが、文明の発展を手に入れた人類には便利で無駄のない世界が待つていると言つてよい。このような予測困難な時代にあって、子どもたち一人一人が未来社会を力強く切り拓いていくための資質・能力を育むことが今後益々、我々には求められている。

そこで、芸術科書道を通して生徒は何ができる、一人一人にどのように力を身につけさせるのか立ち返つて考えてみると、今大会のテーマである「書道教育の可能性」を追究し、深め、実践していくこと、そのものであるとえた。今回の研究授業では書道Ⅰの漢字仮名交じりの書に焦点を当てながら、前単元からの系統性を踏まえた総合的な学びを心掛ける。そして、生徒の主体的取り組みが作品や表情、会話な

どから満ちあふれ、個々の感性を高められるような授業を展開したい。

化し、今後も本県の芸術文化を牽引していく人材を多く排出していくことが使命と考えている。

四 本校の概要

本校は一八八九年・明治二十二年に尋常中学校として開校し、今年度節目となる創立一三〇年目を迎える全国的にも歴史の古い伝統校である。本校の教育の理想とする人間像は校歌に歌われている「真理を探り、美にあこがれ、善を行う、心身共にバランスのとれた人間」であり、校是ともいえる「自主自律」、「稚心を去れ」、「質実剛健」はこれまで脈々と大宮精神として受け継がれている。

現在、普通科一年七学級、二・三年各八学級、文科情報科は各学年二学級が設置され、文科情報科では、平成二十七年度から平成三十一年度までの五年間SGH（スーパークローバルハイスクール）指定校として特色ある教育を行っている。

芸術科は音楽・美術・書道が設置されており、一年次に芸術I（二単位）、二年次に芸術II（二単位）普通科文系対象、三年次に芸術III（三単位）普通科芸術系大学進学者対象で展開されて、各科目とも専任教諭が担当している。毎年、数名の芸術系大学進学者がおり、卒業生の中には国内外で活躍している芸術家もある。

多くの生徒は学業と部活動の両立を図りながら、学校行事や地域のボランティア活動などにも積極的に参加し、高校生活を自ら楽しんでいる印象が強い。朝課外や日々の課題も多く、自分の時間を確保することに苦心しているが、様々な事柄に興味関心を持つて取り組み、多方面で自己研鑽を図っている。その一方で、自らに自信が持てず、自己肯定感が低い生徒も見られ、教育相談の更なる充実が課題である。学校の近隣には美術館や博物館、芸術劇場等の文化施設があり、学習環境には大変恵まれている本校だからこそ、これらの施設と連携を強

五 単元名

「漢字仮名交じりの書」～自国の文化を見つめる

六 単元設定の理由

現代の日本語表記は言うまでもなく漢字仮名交じり文である。我々は日常的に漢字仮名交じり文を読み、聞き、そして書いている。書が長い歴史の中で様々な形を変え、受け継がれてきたことを考えた時、現代の生活の中で更に輝きながら生き続けるためにも、日常に根ざした表現を追求していくことが求められる。また、混沌とした時代を生きている我々や多感な思春期を生きる生徒たちにとつて、誰かに「想いを伝えたい」、「分かってほしい」という素直な欲求を必ず持つている。そのような自己の感興の高まりを目にする形で趣くままに表現する分野として「芸術の書」の価値はあり、「漢字仮名交じりの書」の表現に生徒が取り組むことは重要な学習活動と考える。以上の趣旨を踏まえ本単元では、多種多様な自国の文化を素材にし、各自の視点で見つめ尊重しながら、その良さや特徴をPRスターとして制作する。グローバルな社会だからこそ自国を見つめ理解し、自らの感性で表現していくことはこれから社会では益々重要であると考える。

生徒は活字中心の日常において書作品以外で書に触れる機会は少ないと感じているが果たしてそうだろうか。看板や本のタイトル、ドラマの題字など何気なく普段目にしている毛筆の書には毛筆ならではの役割がある。見た目の印象は毛筆の力によるもので、目的や用途によつて効果的であることは言うまでもない。そこで、「書に対しても見方、

考え方」を広げ深めるために、もつと「身近な書」に興味関心を寄せるることは重要であると考えた。その中でも視覚的効果を最も必要とするPRポスターから学ぶことは多く、その後、実生活の中で身近な書に積極的に触れる態度や鑑賞能力の育成につなげていきたいと考えている。また、紙に文字を書くだけではなく、ポスターとしての美的効果を考えると色彩や文様などの要素にもこだわらせたい。そのため仮名の授業で取り扱った「現代風料紙加工」をここでも再度取り入れ、書がより効果的に働くための表現方法を生徒と友に探っていきたいと考える。

生徒一人一人がこの単元を通して、書の新たな可能性や自国の素晴らしさに気づき、相互に認め合い、尊重する態度が生涯にわたつて書を愛好し、主体的に豊かな人生を築いていく一助となると信じている。以上の事柄から本単元を設定した。

七 単元の目標

- (一) 日常生活の書に目を向け、尊重する態度を身に付け、意欲的に表現しようとする。
(書への関心・意欲・態度)
- (二) 自己の意図やねらいを表現するため、用具・用材の特性を理解し、効果的に表現する。
(書表現の構想と工夫)
- (三) 文字の大きさや配置、余白など、紙面構成を工夫し、書表現の様々な要素を習得する。
(創造的な書表現の技能)
- (四) 日常生活の書の役割や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。

(鑑賞の能力)

八 単元の評価規準

書への 表現 意欲 態度	書表現の 構想と工夫	
	鑑賞	表現
漢字仮名交じりの書の創造的活動に関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、鑑賞の活動に積極的に取り組もうとしている。	漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	漢字仮名交じりの書の創造的活動に関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、鑑賞の活動に積極的に取り組もうとしている。

九 単元の具体的評価規準

書への表現	関心	意欲	態度	鑑賞	表現			
					書表現の構想と工夫			
① 漢字と仮名の字形や線質について関心を持ち、自らの構想や意図に基づいて主体的に取り組もうとしている。	② 漢字仮名交じりの書を構成する様々な書に関心を持ち、名筆の美しさやよさ、表現効果を味わい、積極的に理解しようとしている。	③ 古典に学び、漢字と仮名の書風や用筆の調和を工夫している。	④ 自分の中にある作品のイメージに表現を近づけるため、紙面構成や字形などを様々に工夫している。	⑤ 用具・用材の特性を生かして目的や意図に適した表現を工夫している。	⑥ 古典や古筆のよさや美しさを生かして自らが意図する表現を工夫して書くことができる。	⑦ 紙面と文字との関係や余白との関係を理解し、様々な表現を試みることができる。	⑧ 漢字や仮名、漢字仮名交じりの書の名筆のよさや美しさを理解し、味わっている。	⑨ 書き上げた作品をお互いに鑑賞し合い、積極的に意見交換することができる。

十 指導と評価の計画（全十時間）

時間	ねらい・学習	第一次 (二時間)	第二次 (二時間)	第三次 (二時間)	第四次 (二時間)	第五次 (二時間)	鑑賞の能力
・学習内容を確認する。 ・PRポスターを鑑賞し理解する。 ・ペアを作りテーマ設定する。	・キヤツチフレーズをまとめれる。 ・紙面構成の草稿をまとめる。	・書体・書風を構想する。 ・表現活動を行う。	・表現活動を行う。	・用具・用材の特性を生かして書く。 ・練習用紙に現代風料紙加工を施す。	・鑑賞会を行い、相互評価をする。 ・成果と課題や気づきをまとめる。	・表現活動を行い、仕上げをする。 ・作品鑑賞会を行う。	① 漢字と仮名の字形や線質について関心を持ち、自らの構想や意図に基づいて主体的に取り組もうとしている。
観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 ワークシート	② 漢字仮名交じりの書を構成する様々な書に関心を持ち、名筆の美しさやよさ、表現効果を味わい、積極的に理解しようとしている。
評価方法等 との関連	評価方法等 との関連	評価方法等 との関連	評価方法等 との関連	評価方法等 との関連	評価方法等 との関連	評価方法等 との関連	③ 古典に学び、漢字と仮名の書風や用筆の調和を工夫している。

十一 単元の評価

(三) 本時の評価

(一) 漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持つて、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組めたか。

(二) 漢字仮名交じりの書の創造的活動に関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、鑑賞の活動に積極的に取り組めたか。

(書への関心・意欲・態度)

(三) 漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することができたか。

(書表現の構想と工夫)

(四) 創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表すことができたか。

(創造的な書表現の技能)

(五) 日常の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、漢字仮名交じりの書の良さや美しさを創造的に味わうことができたか。

(鑑賞の能力)

授業制作作品



① 自らの意図や他者の意見に基づきながら、主体的、創造的に作品を深く鑑賞することができたか。

② 作品を構成する要素を正しく理解し、効果的な表現技法を導き出しながら、創造的に表現できたか。

③ ペアで協力しながら作品を完成させ、制作する喜びを味わうことができたか。

十二 本時の内容

(一) 本時の指導目標

① 自らの意図や他者の意見に基づきながら、主体的、創造的に作品を深く鑑賞する。

② 作品を構成する要素を正しく理解し、効果的な表現技法を導き出しながら、創造的に表現する。

③ ペアで協力しながら作品を完成させ、制作する喜びを味わう。

(二) 本時の学習指導の展開（次頁）

十三 考 察

これから書道教育を鑑みると、目の前の子どもたちにどのような力を身に付けさせ、今日の予測不可能な社会に送り出すかは益々重要な一つである。文字を書くことよりも打つことが主流になつてきた現代において、高等学校芸術書道教育で筆を持つて文字を書く必要性とその意義をどれ程実感させられているかは日々、自責の念である。また、現状では芸術科書道Ⅰで芸術教育が終わつていく学校が多い中で、高校になつて本格的に学び触れる芸術科書道Ⅰの存在意義は極めて大きいと考える。

このような中で生徒たちが本単元を通して習得した資質や能力がその後の「書の見方、考え方」を構成する柱となり、生涯にわたつて書を愛好することに必ず通じると感じた。

テーマ設定

自国の文化をテーマにしたことは、グローバル社会にあつて他者や他国に目を向けがちな風潮の中で、まずは自国の特徴やよさに目を向けさせたいと日々強く考え、痛感しているためである。更に本校はSGH（スーパー・グローバルハイスクール）指定校として国際社会で活躍できるグローバルリーダーの育成を推進しているため書道の側面から迫りたいと試みた。漠然としてしまい文化を見つめるまでには至らなかつたが、一点一点、指導者がコメントし自国の文化を尊重する心情の醸成に努めた。

また、それぞれの生徒のテーマ設定には予想以上の時間を費やしたが、どの生徒も身近な資料や図書館を活用した主体的な取り組みが見られ、ペアで会話を勧められたことは成果であった。しかしこの過程でグループの進捗状況に差が生じ一斉指導に苦慮した。内容も多岐にわたるため、きめ細やかな助言には限界を感じた。

作品

他の単元との差別化を図り、「身近な書」としての表現に絞ったPRボスターという形で書表現を試みたが、絵や写真との調和、紙面構成、墨色の変化、余白等に課題は残つた。しかし実生活の中での書の活用法やそのよさを手書き文字から味わうことができ、他単元での筆墨硯紙の特性を学びそれを生かした表現活動や紙面構成・余白の生かし方などの学習は、今後より相乗的に効果が上がるものと考える。

協働作業

この単元では終始、ペアによる協働学習を行つたが、ねらいとして他者と協力し合いながら作品制作を行う難しさや喜び、達成感を体感させるのに有意義と考えたためである。常に隣のペアと意見をぶつけ合い、自分の価値観や見方、考え方を再確認させ、作品制作をしていくのは容易ではない。しかし、作品制作を通した他者理解を行うことでその後の授業雰囲気や、日々の学校生活へ還元できることもあると考える。実際、これまでの授業と比較して生徒が生き生きと取り組み、ペアと協力し合いながら作品を作り上げていく光景が大変印象的だつた。制作過程の充実感は生徒の表情や会話、感想から感じ取ることができ、また違つた視点を育むことにつながつたようだ。

鑑賞会

時間の余裕がない中で丁寧にじっくりと鑑賞できなかつたことが反省

である。鑑賞会を作品完成後に設けたが、この場面だけでは感想的な視点に偏つてしまい、建設的内容の希薄さを感じた。このような作品形態が初めてであつたため、発言しにくかつたと思えるが、制作途中に設定することで相互に刺激をし合いながら内容の深まりが図れるとも考えた。二回の鑑賞会を行うことで、言葉で他者に伝えることの難しさや、意見を求められた時に根拠を持った発言ができることの必要性を各自が実感し、その後の作品制作に変容が見られると感じた。

(二) 本時の学習指導の展開(第五次の一限目)

整 理	展 開	導 入	学習活 動
			指 導 内 容
			指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・仮清書 ・作品制作 ・現象を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標確認 ・効果的な表現を考察する。 ・本時の目標を明確に理解し、表現と鑑賞活動の繋がりを理解する。 ・効果的な表現についてペアで考察し、導き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠点呼 ・前時の復習 ・出欠点呼 ・前時をじっくり振り返るようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・清書(まとめ書き) ・用具・用材の特性を生かして意図する表現を工夫する。 ・清書直前の仮清書であることを理解するようにする。 ・仮清書作品を鑑賞し、分析的な鑑賞を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特性を生かして意図する表現を工夫する。 ・清書直前の仮清書であることを理解するようにする。 ・筆の大さく、墨の濃淡などの視点を適宜、助言して意欲的な制作活動を促すようになる。 ・制作に集中させるために必要最小限の声かけに留めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を明確に理解し、鑑賞を表現活動に繋げていけるようにする。 ・書作品を構成する要素のどの観点に着目すべきかを具体的に理解できるようになる。 ・書作品を構成する要素を理解しながら、創造的に鑑賞しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の成果と課題をまとめるようにする。 ・次時は本時の学習を受け、鑑賞会を行うことを周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習状況を振り返り、成果と課題を具体的に書き記すようとする。 ・再度、書作品を構成する要素を示し、確認するようになる。 ・作品を完成させ、提出の準備を促すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの感性や意図に基づき客観的、分析的に鑑賞しようとしている。 	<p>評価の観点・評価基準</p>
ワークシート		ワークシート 作品	資 料

教 科	芸 術	科 目	書 道 I
单 位 数	2 单 位	使用教科書	光村図書 書 I
【学習目標】			
(1) 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 (2) 感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。 (3) 書の伝統と文化についての理解を深める。			
【学習の留意点】			
(1) 作品制作における準備・片付けは手際よく協力して時間内で行う。 (2) 学校の備品は公共物として大切に扱い、消耗品も儉約の精神で取り扱う。 (3) 毎時間の記録は「書の友」に記載し、自ら振り返っても把握できるようにまとめる。 (4) ワークシートや作品などの提出物も評価物として加算するため、提出を徹底する。 (5) 各単元の学習が断片的にならず、発展的な繋がりを意識したものにしていく。			
【評価の観点と方法】			
(1) 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 [書への関心・意欲・態度] (2) 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫している。 [書表現の構想と工夫] (3) 創造的な書表現ために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技法を身に付け表している。 [創造的な書表現の技能] (4) 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 [鑑賞の能力]			
上記の観点に加え、授業態度、提出物、提出状況、自己評価、相互評価、出席状況を総合的に評価する。			

学 期	月	学 習 内 容	学習のポイント	観点別評価			
				A	B	C	D
1	4	1 オリエンテーション 2 仮名の書の学習 仮名の成立、書体の変遷 単体 連綿 古筆の臨書「蓬萊切」	• 書写と書道の違い、用具・用材の扱い方を知る。 • 書体の変遷や仮名の歴史的背景を理解する。 • 基本的な仮名の用筆法やを習得する。 • 仮名のリズムをつかんで様々な連綿の技法を習得する。 • 古筆を鑑賞し、作品を構成する様々な要素を理解して表現する。	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○
	5	6 散らし書き	• 散らし書きによる紙面構成の美しさや余白の生かし方を感受して表現する。		○		
	6	3 実用書の学習 硬筆	• 日常生活に生かせるよう、実践的な硬筆力を身に付ける。	○		○	
	7						
2	9	4 漢字の書の学習（行書） 「蘭亭序」 少字数創作	• 行書の古典を鑑賞し、字形や用筆などの特徴をつかんで表現技法を理解、習得する。			○	
	10	5 漢字仮名交じりの書 P R ポスター制作	• 書風の違いを理解し、自らの感性や意図に基づいて表現を構想し、工夫する。 • 自国の文化に目を向け、よさや特徴を味わい、キャッチフレーズとしてまとめる。	○	○	○	
	11		• P R ポスターとしての視覚的効果を探り、書を効果的に表現する。 • 協働作業や鑑賞会を通して、自他を尊重する心情を持つ。		○	○	
	12	6 漢字の書の学習（楷書） 「九成宮醴泉銘」	• 楷書の古典を鑑賞し、字形や用筆などの特徴をつかんで表現技法を理解、習得する。			○	○
3	1	「孔子廟堂碑」「顏氏家廟碑」	• 楷書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し、工夫する。	○			
	2	「牛橛造像記」	• 表現活動を通して、意図的、主体的に表現の構想から完成までの充実感や喜びを味わう。	○	○		
	3	7 篆刻の書の学習 姓名印	• 篆刻の特性を生かした表現を習得する。 • 篆刻の用具・用材の扱い方や意義、手順について理解し、姓名印を刻す。 • 篆刻に興味を持ち、意欲的に取り組む。		○	○	○

A関心・意欲・態度 B書表現の構想と工夫 C創造的な書表現の技能 D鑑賞の能力



分科会および研究協議

郷土の歌人 若山牧水の短歌を生かした 漢字仮名交じりの書の制作

宮崎県立延岡高等学校 教諭

木佐貫 弘志

一はじめに

宮崎県の高校書道部会では、平成二十七年度より三年間にわたり、芸術教育総合支援事業として「宮崎県伝統文化教材の研究・開発」に取り組んできた。音楽・美術・書道の各部会でそれぞれ三名が担当者となり、次代を生きる子供たちが、故郷の豊かな文化資源を見つめ、

育み、つなげができるように、宮崎に関係する教材の掘り起こしを行った。具体的には、本県の民謡や神楽、県ゆかりの画家の作品、郷土の歌人の詠んだ歌などを授業で利用できる教材として整理し、その活用法等を探るという内容となつていて。

生徒が主体的に授業に向かう姿勢を育てるために、適切な題材を設定してゆくのは、我々に求められた大きな課題である。その内容が身

近で地域に根差した親しみやすいものであれば、自ら感じ取った気持ちを素直に表現できる機会が拓がるのではないか。そして、制作の過程を通じて、生徒は書で自らの性情を表現することの喜びや難しさ、達成感等を味わいながら、感性を高めてくれるのではないかと考える。

書道部会では、郷土の歌人若山牧水の短歌を題材とした漢字仮名交じりの書を取り上げることになった。牧水は自然に率直に向き合い、故郷に寄せる思いやあこがれの心情を、親しみやすい調べにのせた数々の名歌を残しており、現代を生きる高校生にも共感できる部分は多い

と思う。

二 宮崎県伝統文化教材の研究・開発

(一) 主題

郷土の歌人 若山牧水の短歌を生かした漢字仮名交じりの書の鑑賞教材の作成

(二) 主題設定のねらい

表現

書を生活に生かす態度の育成を図るために基本分野として漢字仮名交じりの書を捉え、身近で親しみやすい短歌を題材とすることにより、生徒の主体的な活動を引き出し、表現の能力を高める。

鑑賞

本県を代表する歌人である若山牧水は、自作の短歌を題材に多くの書を揮毫している。歌の調べと一体化した書の表現に触れるにより、自らを取り巻く文字環境から書の美を発見し、深く味わう心情の育成を図る。

(三) 関連する部会行事

■指導者向け

①高等学校芸術科書道部会実技講習会

平成二十八年十月六日（木）・七日（金）

大東文化大学より永守蒼穹先生を講師にお招きして、漢字仮名交じりの書の講習会を実施した。講師による講話や実技の後、牧水の歌を受講者全員で揮毫（半切1／2以内）講師による講評をいただいた。

②第四十七回 宮崎県高等学校書道教員展

平成三十年一月十七日（水）～二十一日（日）

会場：宮崎県立美術館

毎年実施している展覧会で、県内で書道を担当する教員が参加。通常は作品のテーマは出品者の自由であるが、この回のみ牧水の歌を題材とした作品を一人一点出品した。出品者による批評会を実施。七月から八月にかけて牧水を題材にした作品のみを若山牧水記念文学館にて移動展示。

■書道部会研究大会

例年十一月に書道部会の研究会を二日間にわたり実施している。一日目は研究授業、二日目は各校の授業作品を持ち寄つての情報交換・協議という日程である。平成二十八年度および二十九年度は、以下のような内容で取り組んだ。

- 漢字仮名交じりの書の単元の中で、牧水の短歌を題材とした授業を実施（課題は指定された十首の中から選択）
書道I・書道IIのどちらでも可
- 作品とレポートを持ち寄り意見交換 各校での実践を発表

白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ
うすべに葉はいちはやく萌えいで咲かむとすなり山桜花
幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅ゆく

ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ秋もかすみのたなびきて居り
わが庭の竹の林の浅けれど降る雨見れば春は来にけり
日向の国都井の岬の青潮に入りゆく端に独り海聴く
若竹の伸びゆくごとく子ども等よ真直ぐにのばせ身をたましひを
納戸の隅に折から一挺の大鎌あり汝が意志をまぐるなどいふが如くに
海よかげれ水平線の黝みより雲よ出で来て海わたれかし

石越ゆる水のまろみを眺めつつこころかなしも秋の渓間に

三 鑑賞教材「牧水の歌を書く」

芸術教育総合支援事業での取り組みを踏まえ、平成二十九年度末にパワーポイント教材を作成し、県内各校に配布した。内容は、若山牧水の歌や書を紹介する部分と、牧水の歌を題材とした作品例によつて構成されている。これまでの実践を振り返り、今後の漢字仮名交じりの書の単元で資料として活用したいと考えている。（スライドは全八十枚 別冊資料「牧水の歌を書く」を会場にて配布予定）

内 容

鑑賞編	牧水の生涯	牧水の歌の特徴	牧水の書作品
表現編	牧水の歌碑	牧水のふるさと	
硬筆・小筆による表現 県内高校生の作品			
県内の先生方の作品			

四　自校における取り組み

宮崎県高等学校書道部会研究会では、二年にわたり漢字仮名交じりの書の単元で牧水の歌を取り上げた。そのうち平成二十九年度の延岡高校での実践を報告したい。

延岡高校は旧制延岡中学校として一八九九年（明治三十二年）に開校し、来年度創立一二〇周年を迎える伝統校である。現在各学年とも普通科四学級、メディアカル・サイエンス科二学級が設置されている。旧制中学の時代の第一回卒業生に若山牧水があり、在学中から短歌を発表していたことが知られている。校内に「うす紅に」の自筆の歌を刻した歌碑が建てられている。また、毎年命日には「牧水忌」が学校行事に組み込まれているなど、牧水は母校の先輩として、生徒たちにとって親しみのある存在である。

平成二十八年度は、課題の十首より「白鳥は」「日向の国」「海よかげれ」の三首を指定し、その中から好きな一首を選んで創作させた。行書の学習の単元後に実施し、行書を生かしながら漢字仮名交じりの書の表現の諸要素を工夫させようと試みたが、授業を振り返ると以下のような点が反省として浮かび上がった。

- ・題材とする短歌の鑑賞の時間を十分に設定していかなかったため、「言葉を書いている」という意識の定着がはかれなかつた。
- ・創作の参考のための鑑賞作品を提示したが、いざ作品を書く段階になると、自作に取り入れるところまでは結びついていなかつた。
- ・二十九年度はこのような前年度の改善を視野に入れながら、授業に臨んだ。

(二) 単元名

書道Ⅰ「漢字仮名交じりの書の学習 牧水の歌を書く」

(二) 単元設定の理由

これまでに学習した行書の古典を生かしながら、漢字と仮名の調和を図る表現方法を学んでいく。はじめに若山牧水の短歌や書作品の鑑賞を通して、創作意欲を引き出し、制作にあたっては、字形、線質、墨量、紙面構成などの要素を各自が工夫することにより、自らの心情を表現する喜びを本単元を通して体験する。これらの学習では構想から完成に至るまでの過程を重視し、友人の作品の鑑賞や相互批評の場面も設定し、対話的な視点も取り入れながら学習を深めていく。

(三) 単元の目標

- ①漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持つて、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組む。
【書への関心・意欲・態度】
- ②漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
【書表現の構想と工夫】
- ③創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表す。
【創造的な書表現の技能】
- ④日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。

【鑑賞の能力】

(四) 単元の評価規準

書への表現 関心 意欲 態度	書表現の構想と工夫		漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持つて、主体的に表現の創造的活動に取り組む。
	鑑賞	鑑賞	
書表現の構想と工夫	【関①】 漢字と仮名の文字や字形について関心を持ち、自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動を行おうとしている。 【関②】 書の美しさと表現効果を味わい、見ることを楽しむことで、書への関心を高めようとしている。	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けます。日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。	漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
書への表現 関心 意欲 態度	鑑賞	鑑賞	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、 主体的に鑑賞の創造的活動に取り組む。

(五) 単元の具体的評価規準

書表現の構想と工夫	【構①】 構想のよさや美しさを感じ取り、表現を工夫している。
書表現の構想と工夫	【構②】 自己の表現の狙いを達成するために、自らの表現意欲を高め、字形、線質、文字の大きさなどについて工夫している。

(六) 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価方法	鑑賞の能力		創造的な書表現の技能	
			第一次 (一時間)	第二次 (二時間)	第三次 (二時間)	第四次 (二時間)
第一次 (一時間)	・牧水の歌の鑑賞（三首）	観察	【鑑①】 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、成を考えた表現の技能を身に付け表している。	【鑑②】 表現した作品を相互に鑑賞し、お互いのよさを認めながら、意見交換することができる。	【技①】 名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付け表している。	【技②】 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。
第二次 (二時間)	・牧水の書作品の鑑賞	観察	【鑑①】 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、成を考えた表現の技能を身に付け表している。	【鑑②】 表現した作品を相互に鑑賞し、お互いのよさを認めながら、意見交換することができる。	【技①】 名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付け表している。	【技②】 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。
第三次 (二時間)	・半紙による草稿の作成	学習プリント	【鑑①】 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、成を考えた表現の技能を身に付け表している。	【鑑②】 表現した作品を相互に鑑賞し、お互いのよさを認めながら、意見交換することができる。	【技①】 名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付け表している。	【技②】 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。
第四次 (二時間)	・自己評価	作品	【鑑①】 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、成を考えた表現の技能を身に付け表している。	【鑑②】 表現した作品を相互に鑑賞し、お互いのよさを認めながら、意見交換することができる。	【技①】 名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付け表している。	【技②】 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。
第五次 (二時間)	・制作Ⅰ（半切1／3）	自己評価票	【鑑①】 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、成を考えた表現の技能を身に付け表している。	【鑑②】 表現した作品を相互に鑑賞し、お互いのよさを認めながら、意見交換することができる。	【技①】 名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付け表している。	【技②】 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。

(七) 単元の評価

①郷土の身近な先人の歌や書を大切にする態度を身に付け、書道に対して興味・関心を深める。

【書への関心・意欲・態度】
②自らが表現したい作品のイメージや意図を明確にし、用具・用材の特性を理解しながら、効果的に表現する。 【書表現の構想と工夫】

③字形や文字の大小、線質、墨量の変化、余白、紙面構成等を工夫し、書表現の様々な要素を理解する。 【創造的な書表現の技能】

④書の伝統と文化について幅広く理解し、様々な表現のよさや美しさを創造的に味わう。 【鑑賞の能力】

(八) 授業の流れ (八時間)

■第一次

《牧水の歌の鑑賞》

今回は以下の三首を指定し、その中から好きな一首を選んで鑑賞し、創作活動に結びつけるよう指示した。

- ① 白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ
- ② うす紅に葉はいちはやく萌えいで咲かむとすなり山ざくら花
- ③ 幾山河越えさりゆかば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅行く

情けが深い
孤独で寂しい

自然に向かつて心が開いている

く悲しさや喜びだけではなく悲しさや寂しさも表現する心豊かな人

《牧水の書作品の鑑賞》

・牧水の書から受けるイメージ (生徒記入例)

読みやすい
字の大きさや間隔が一定

柔らかい線 丸っこい
ぼてつとした字形
抑揚が少ない
統一感がある

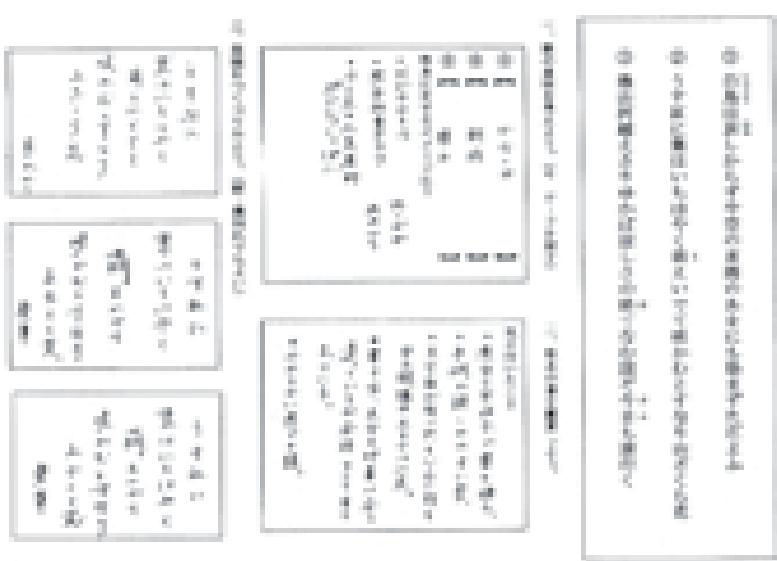
■第二次

《半紙による草稿の作成》

●配布資料 漢字・・・王羲之・顔真卿の行書を中心にして集字

仮名・・・藍紙本万葉集より集字した平仮名一覧

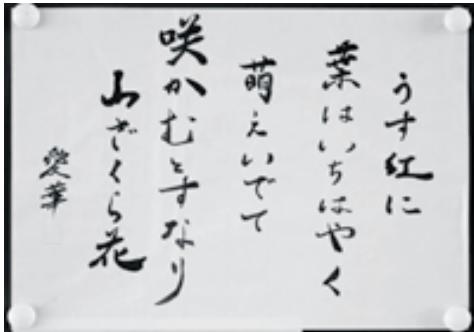
- ・鑑賞文を読んだ後キーワードを記入 (生徒記入例)
 - ①かなしみ 愛しさ 孤独 強さ 対照 青春 ひとりぼっち
 - ②愛する山桜 春 未来 開花 期待 延高 明るさ
 - ③寂しさ 憧れ 旅 放浪 若々しさ 漂泊 山河 故郷
- ・牧水に対するイメージ (生徒記入例)
 - おだやか 偉大な先輩 真面目
 - 感受性豊か 自然を愛して心優しい



作品を構成する要素を以下のように示した。

要素	キーワード
①イメージ	歌から受ける印象
②字形	情感
③線質	外形の変化
④全体構成	行書と仮名の調和 太細 遅速（運筆のスピード） 強弱 潤渴（にじみ・かすれ） 行の高低 行間のあけ方 文字群 余白 字間のあけ方 落款
	大小 曲直 氣持ち 長短

《自己評価》



項目	自己評価	目標
①イメージ	いい感じ	上手い
②字形	いい感じ	上手い
③線質	いい感じ	上手い
④全体構成	いい感じ	上手い

■第三次

《制作I》半切1／3

草稿をもとに画仙紙に書く

■第四次

《相互批評》

四名でグループを作り、相互批評

・自作の説明

・付箋の記入・交換

（付箋に良い点と改善点を記入）

•振り返り

各グループ代表（一名）の作品を紹介し全体で共有

《制作II》半切1／3



記入後数名による発表
全員の作品を三回に分けて掲示し、好きな作品二点を選び批評文を

《鑑賞》
〔自己評価〕

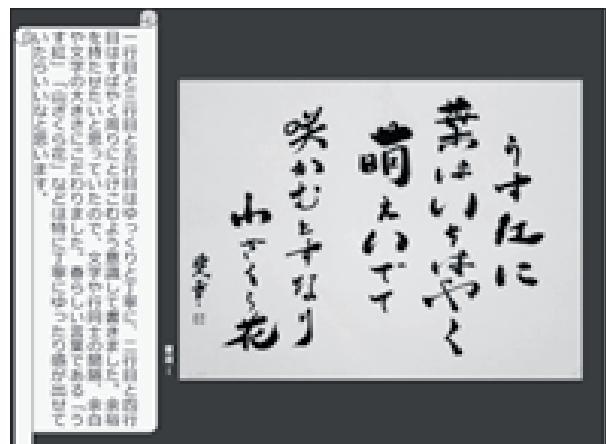
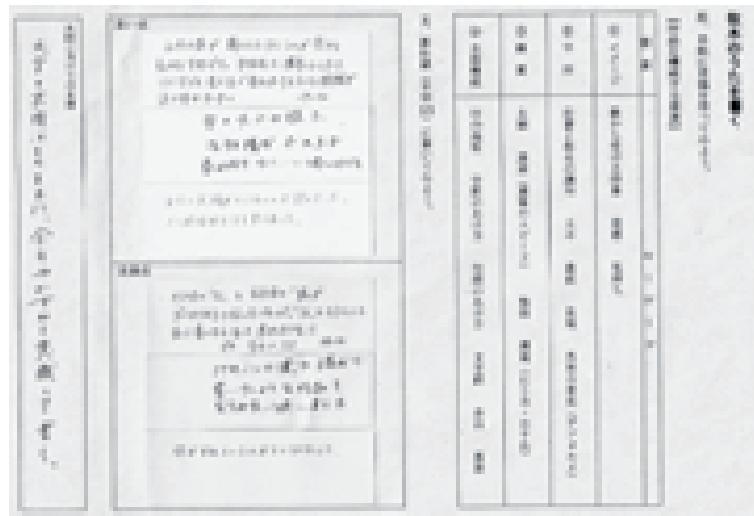
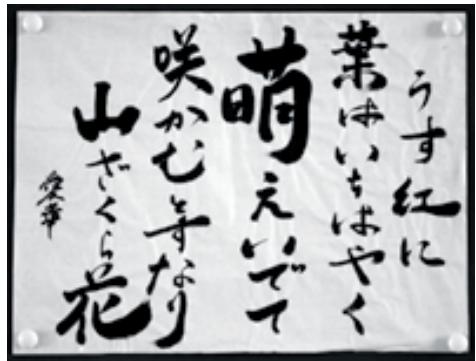
作品票の記入

「単元のまとめ」の記入

〔鑑賞〕

《県内高校生作品の鑑賞》
昨年度研究会に各校から提出された県内高校生の作品を鑑賞
《制作Ⅲ》半切1／3
作品を構成する四つの要素を振り返りながら書く

■第五次



☆牧水や県内高校生の作品等を鑑賞する時間を作った。グループで相互に批評しながら自作を振り返るよう促した。

○歌の内容を理解した上で、自分なりのイメージを持ちながら作品に向かう姿が見られた。

●言葉で理解した事項をどのように表現に結びつけてゆけばよいか具体的に伝える方法を探ってゆきたい。

□は指導者の言葉 ☆工夫した点 ○成果 ●課題

- (八) 生徒の感想より
- ・同じ歌を書いても、それぞれ感じ方が違うため、書き方がバラバラになることに感動した。
 - ・みんなの作品を見たとき、様々な工夫があつて、自分にも取り入れていけたらと思った。
 - ・牧水の歌にどのような感情が込められていて、それをどう表現するかが難しかった。
 - ・牧水は卒業生で有名な歌人であり、歌もいくつかは知っていたが、書で表現することで、より深く味わうことができたと思う。
 - ・いろんな要素を考えながら一度にまとめるのは大変だったが、何とか自分らしさを出せるよう頑張った。
 - ・自分の思いを歌で表現したり、書として形にできるような人になりたい。

(九) 成果と課題

成果

- ・歌の内容を理解した上で、自分なりのイメージを持ちながら制作する姿勢が見られた。
- ・相互批評や生徒による作品紹介を通じて、お互いを尊重しながら鑑賞を深め、自作に取り入れようとする姿勢が見られた。

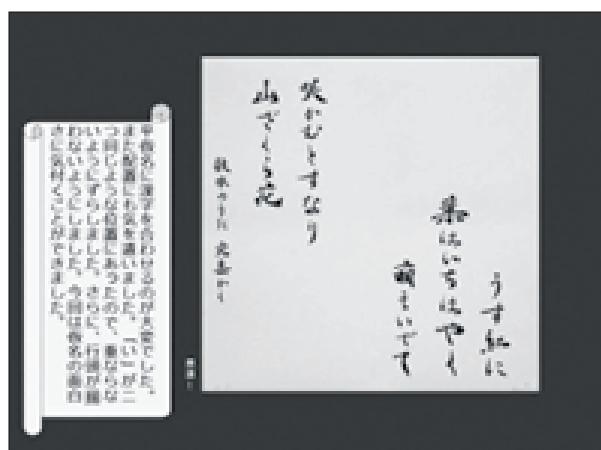
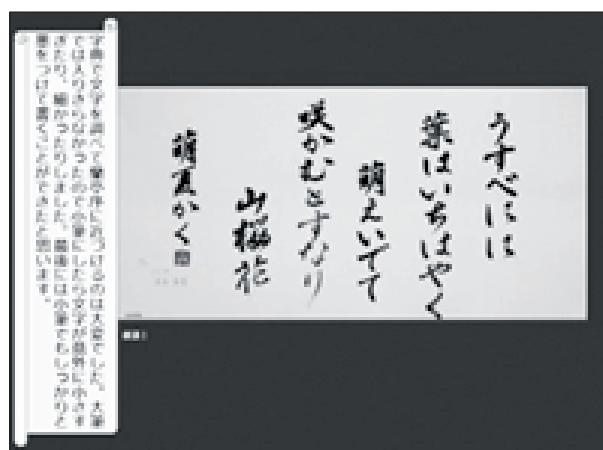
課題

- ・表現や鑑賞の目安としてキーワードを提示して、批評や評価の際に的確に用いるよう促したが、定着が不充分であつた。
- ・作品を構成する要素を理解しようと努力する姿は見られるものの、実際の表現とはなかなか結びつかない。

四 おわりに

牧水の歌を題材とした教材を作り上げてゆく中で、県内の先生方と同じテーマで授業を実践する機会に恵まれた。二年にわたりお互いに作品を持ち寄り、発表する機会を得たが、どこにポイントを置くかは指導者により多様であった。ここで学んだ経験や資料を生かしながら、今後更に内容を深めていきたいと思う。

今回、自らの授業で作品を構成する要素を四つ（イメージ・字形・線質・全体構成）に分けて示したが、内容を整理し生徒に正確に伝えるのは難しいと感じた。生徒がしつかりと理解し、評価や話し合いの場で上手に使えるように定着させていかなければならない。今後は、鑑賞や創作などにおける書道用語の意味を掘り下げて考え、実際の表現との結びつきを捉え直し、効果的に目に見える形で提示していく必要があると感じている。



★蘭亭序の学習の後に漢字仮名交じりの書を取り組んだ。「表現を優先にした構成」と「言葉を優先にした構成」について考えさせた。

○言葉と表現の優先で構成が変わることについて理解を深めさせることができた。

●紙のサイズに慣れさせ、紙面構成を考え実践させることが課題。推敲の時点での問いかけに工夫の必要性を感じた。

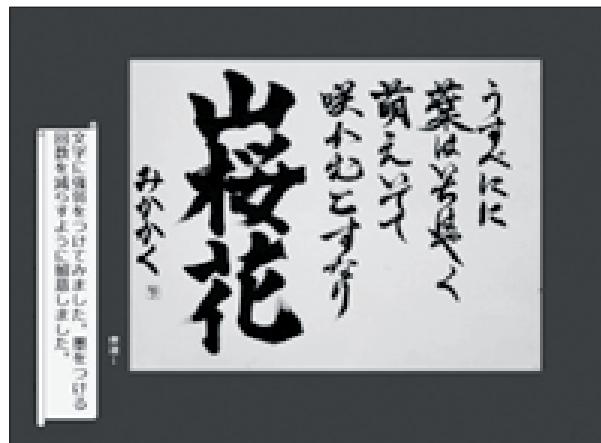
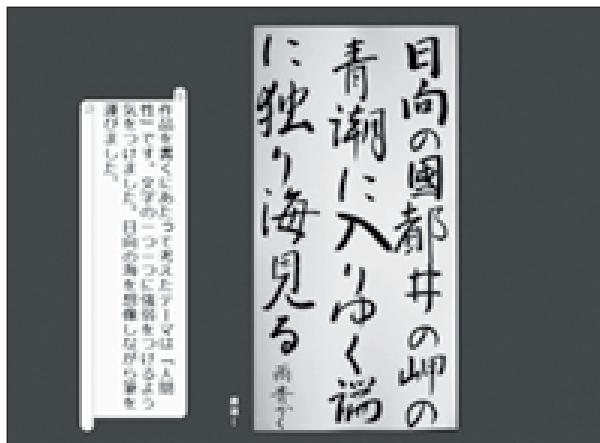
★グループ鑑賞を行い課題を考えさせた。短歌5首に絞り意味が解るようにした。プリントには自分の言葉で記入するよう指示した。

○付箋を使ってKJ法による鑑賞を実施したが、積極的で丁寧な意見交換を行っていた。

●墨量、濃淡に意識を持たせるべき。硬筆にまで意識をつないでゆきたい。

県内の高校生の作品（平成二十九年度授業作品研究会より）

□は指導者の言葉 ☆工夫した点 ○成果 ●課題

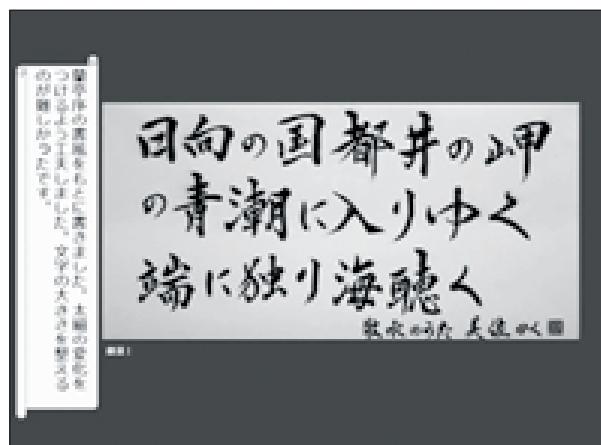
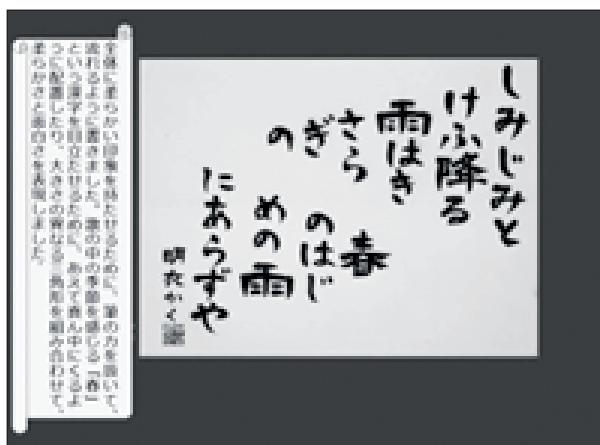


☆課題を二首に絞り、漢字と仮名の字形を載せたものを資料として配布した。指導者が書いた参考作品を提示した。

- 短い期間で半切練習に入り、昨年度より出来がよかったです。文字も小さくなり紙面に上手に収まつた。
- 運筆、行の流れ、潤渴等の指導を充実させてゆきたい。

☆4、5人のグループを作らせた。歌5首の中から選択させた。同じ歌を書いた生徒でグループを再結成させ鑑賞・発表させた。

- グループを再結成したことにより同じ歌を書いた人の意図や表現を知ることができ、新たな気づきが生まれた。
- 多くの古典を学ばせた後にこの単元を実施すれば表現に幅が出ると感じた。

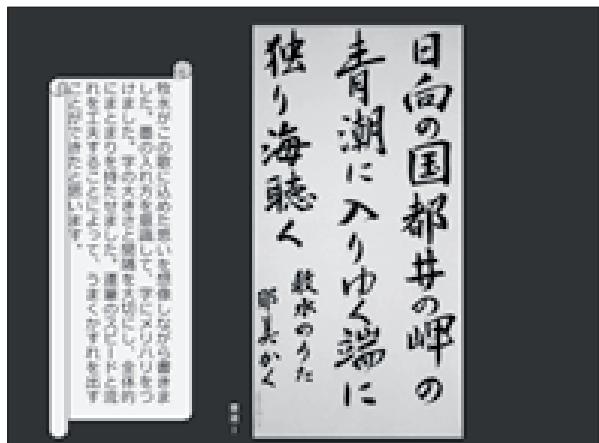
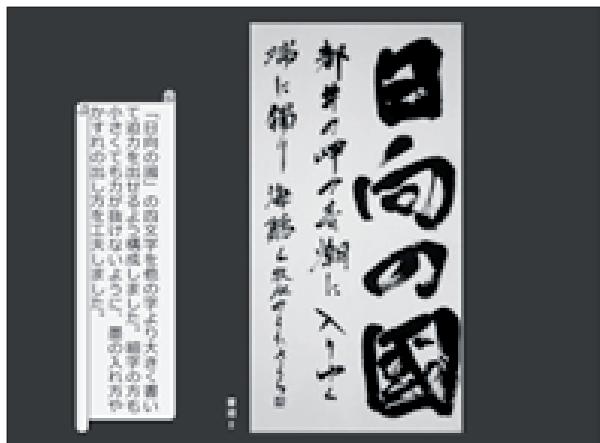


☆丸、三角、四角、楕円などの図形を色々と準備し、その中に文字を書き込んでいく方法を提示した。

- まとめのある文字群ができあがり、生徒は楽しんで色々な図形に挑戦していた。
- 漢字と仮名の大きさの調和に気を配る必要があった。もう少し平仮名の古典を学ばせたい。

☆名筆として取り上げた古典の中から選択させ、一節を漢字と仮名を調和させながら制作させた。構成例を鑑賞させながら配置の方法を学べるようにした。

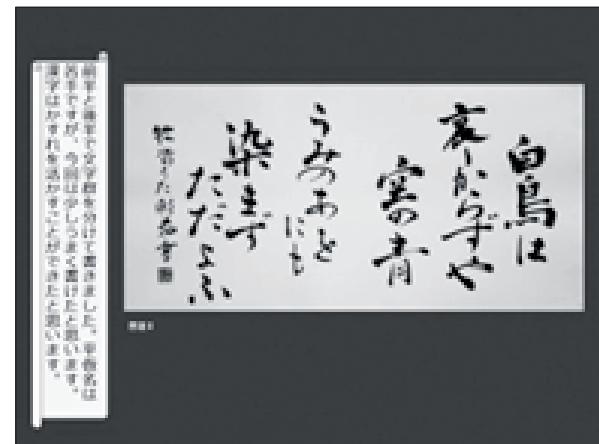
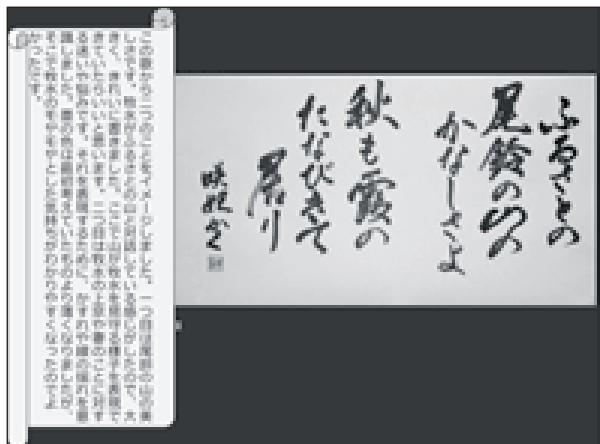
- 生徒の主体性を引き出すことができた。
- 調和や古典の特徴を生かした表現は難しい。言葉の意味を踏まえて表現させたい。



- ★4首に絞り込み歌についての理解を深めるため解説をつけた。蘭亭序の書き下し文を制作させた。配置や構成の方法を学ばせた後、鉛筆で作品完成図を作らせた。
- 制作の過程を通して、自ら工夫し主体的に取り組む姿勢が見られた。
- グループによる作品鑑賞を取り入れたが、深まらないところがあった。普段から鑑賞力を高めておく必要がある。

☆太細や大小、潤渴をつけた作品例をいくつか提示し、表現の多様性を感じてもらう工夫をした。

- 3行書きに限定することで、大小、気脈、潤渴などに留意しながら表現することにポイントが絞られた。
- 変化に乏しい作品が多くなり面白みに欠けた。漢字と仮名を調和させるのが難しい。



- ★言語活動を充実させるために、クラス全体で作品を鑑賞し自由に発言させた。墨色や構成など観点を絞って発問するよう工夫した。
- 作品制作カードを用いて段階的に草稿を練ったことで、意図と表現の工夫を明確にすることことができた。
- グループ批評会を行い、お互いに高め合う意識を育成したい。

☆紙面構成や書風の調和において指導した。

- 紙面構成については始めに半紙で学習させたので理解が早かった。条件や目標を生徒の実態と字数に合わせたので設定した時間で終わることができた。
- 鑑賞の時間などにアクティブラーニングを活用できなかった。

「指導案の共有化」に向けて

～書道Ⅰにおける漢字仮名交じりの書の授業実践～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭
佐藤 瞳

一 はじめに

宮崎県での全日本高等学校書道教育研究会の開催にあたり、大分県に研究発表の依頼がありました。本県でも「漢字仮名交じりの書」に関する、各校各自の取り組みや指導案を持ち寄つての協議や研究授業の実施など研修を行つてきましたが、情報交換に留まつていきました。

今回この依頼を受けて、この発表を好機と捉え、大分県高等学校教育研究会書道部会ではテーマを「書道Ⅰにおける漢字仮名交じりの書の研究」とし、授業改善に向けて会員全員で取り組むこととしました。

また、社会の変化に伴い、書道の授業においても、「主体的・対話的で深い学び」を育成するためにICTの活用やアクティブラーニングなどの手法を取り入れることが必要になつてきました。しかしながら、本県においても教諭の兼務の増加等、人的配置の厳しさや、常・非常勤講師の研修機会の不足等、研修を全会員で十分に行なうことは難しい状態です。そこで、今回の研究では「書道Ⅰにおける漢字仮名交じりの書で、共通の指導案のもと全会員が授業実践することが一つの指針になるのではないか」という仮説のもと、「共通の指導案」完成を目標に、実践・検証・検証授業・まとめを、研修部を中心に行いました。

今回の発表に向けての準備は、全会員が一つのテーマに沿つて研鑽を積む良い機会になりました。授業を通じて『主体的・対話的で深い学び』への授業改善を図る」という観点で進めてきた大分県での「指導案の共有化」に向けての取組と「その取組によつて生まれた指導案

を用いての授業実践」を分科会で報告させていただきます。

二 大分県における教員配置等大分県の状況

① 教員配置状況（平成二十九年度）

教諭数（人）	時間数（時間）	複数校兼務している教諭数 六人						合計
		学 校 数	県 日 制	県 定 時 制	県 通 信 制	私 立		
書道開講校数	専任教諭数	再任用教諭数	臨時講師数	非常勤講師数				
13	1	1	17	41	41	4	4	県立
4			0	4	4	1	1	通信制
			1	1	1	6	15	私立
17	1	1	19	52	61			合計

② 国公立全日制書道専任教諭の書道授業持ち時間数

教諭数（人）	時間数（時間）
2	10
0	11
2	12
1	13
4	14
0	15
3	16
0	17
2	18
1	19

③ 大分県における「書道Ⅰ漢字仮名交じりの書」の実施状況
（別添資料『漢字仮名交じりの書に関するアンケート』参照）

表の通り、ほとんどの学校が三学期末に大単元として実施しています。

その他に数時間ですが、年度始めの書道への導入

・実施時期
1 学期 始 63%
未 38%
2 学期 始 58%
未 21%
3 学期 未 92%

*複数回答可

・実施時間数 (総計)
10時間以内 32%
10~15 41%
15時間以上 28%

実施する学校が多く見られました。実施時間は、平均して十四時間程度でした。

〈題材・教材・ワークシート等〉

- ・毎年同じもの 28%
- ・毎年変える 33%
- ・勤務校によって変える 33%
- ・独自の資料がある 52%
- ・教科書に付されているもの
(それを変化させたもの) 33%

*複数回答可

大まかな調査ですが、約半数が独自の資料やワークシートを作成し、授業で使用している状況が分かりました。さらに約六割が「毎年変えている」あるいは「勤務校によって変える」にもかかわらず、それらを検証する場が持てず、苦労しながら試行錯誤を繰り返していることが窺えました。そこで、今回の共通指導案の作成についても、ワークシートや題材についての汎用性も視野に入れて取り組む必要性を感じました。

〈共通の指導案を作成することについての利点〉

- ・県の書道担当教員全員で指導案を検討する場を多く設けることができ、それれにとつて研修ができ有益である。
- ・一つの指針として共通の指導案が存在するのはよい。特に新任者にとっては、役に立つのではないか。
- ・自分の指導案作成にも役立つ。
- ・相互評価など自分だけではなかなか取り組まないことなどにチャレ

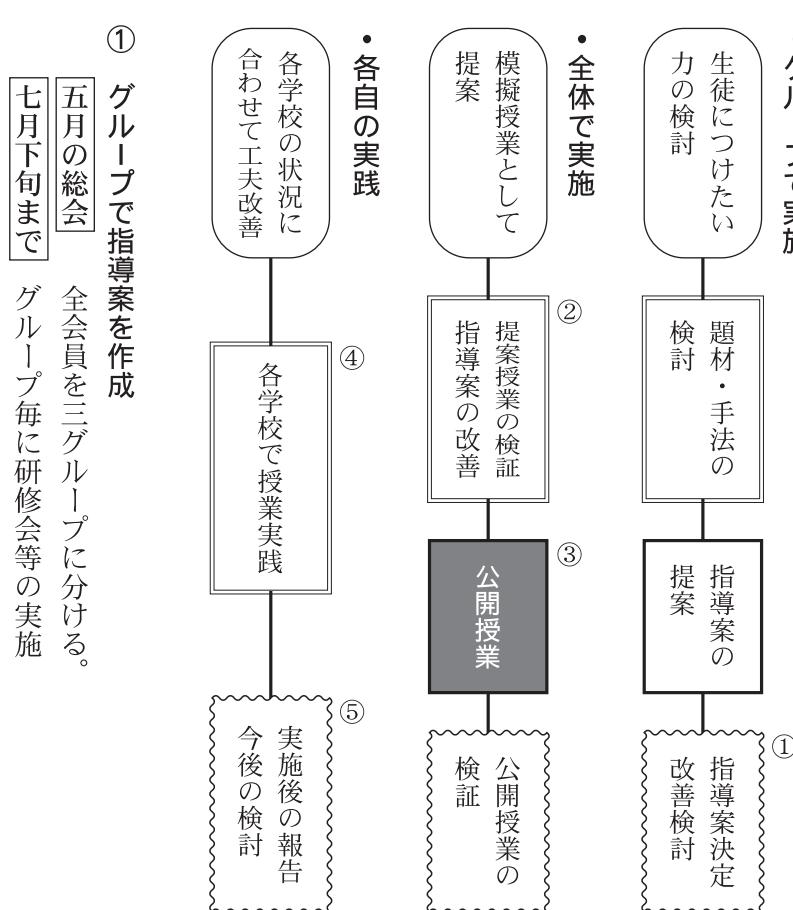
ンジでき、指導法の幅が広がる。

- ・多くの方の意見を取り入れながら作成できる。それを各学校の事情に合わせて使える。

三 研修の取組

本研修は、まずは日頃の授業実践を振り返り、生徒に「何の力をつけたいか」を考え、まとめていくことからのスタートとなり、左図のように進めていくことになりました。

・グループで実施



② 模擬授業での提案

八月の夏季研修会

模擬授業で授業提案（二グループから）
模擬授業後に検証・協議

〈Aグループの提案〉

「～生かそう 想像力・発想力 感情を効果的に書表現する工夫を理解し、表現しよう」

感情の表現について生徒の言語活動を補助する教材（思考ツール）を用いた授業に着目し、Aグループで審議した指導案の授業を実施しました。仮説を「自分の抱いた感情を自由な発想で表現するためには、生徒自身の思考の深まりが必要である。そのためには、表現意図を明確にすることや、他者の意見を参考にして考えることが重要である。それを目的とした主体的な言語活動ができれば、思考が深まり、より効果的な表現方法や作品の工夫が生徒自身で見いだせるのではないか。」という論を立てて、授業を考えていった取組でした。生徒の興味関心を高めるために、「A-Iに関する資料」を提示することや、思考ツールとして感情と線質で表現意図を可視化する「座標軸」を活用したことについて検討しました。

授業後の研究・協議では、「古典を利用した漢字仮名交じりの書の王道の授業」という意見がありました。課題としては、学校の行事や展示方法、予算面等、全ての学校で取り組むことができるかという問題が挙げられました。

二つの授業の提案を受けて、今後の研究の取組にむけて研究協議を進めました。その中で、藤本指導主事から①学習指導要領（表現）による授業研究が大切であること②「座標軸」を用いた相互評価をより有効にするために、生徒が自分の考えを言語化する場面の設定を持つことで「思考・判断・表現」の授業に繋がるのではという助言をいただき、次のように方向性を確認し、公開授業研究会へ繋げることとしました。

授業後の研究・協議では、「擬音語・擬態語」という素材について贊否の意見や、小グループで行う相互評価を可視化するシート「感情の座標軸」の有用性への意見が多く出され、改善策を検討していくことができました。

〈Cグループの提案〉

「～文化祭作品を制作しよう」

校内の文化祭に展示する団扇の制作に漢字仮名交じりの書を取り込

- 教材の工夫として、思考を可視化できるシート、「感情の座標軸」を活用する。
- 素材（題材）として、擬音語・擬態語などのオノマトペの利用などを引用する言葉について検討する。
- 模擬授業と研究協議を踏まえて学習指導要領のA表現「才、意図に基づいた表現を工夫すること。」の授業の提案を中心に研究を進める。



んだもので、学校行事とリンクすることで生徒への意欲喚起と作品の鑑賞という観点も含んだ提案でした。一学期までに学習した古典を利用した漢字仮名交じりの書の授業なので、新学習指導要領に沿った授業でもありました。また、団扇という素材が、伝統的な日本文化としても学べるものでした。

授業後の研究・協議では、「古典を利用した漢字仮名交じりの書の王道の授業」という意見がありました。課題としては、学校の行事や展示方法、予算面等、全ての学校で取り組むことができるかという問題が挙げられました。

③ 模擬授業を受けての公開授業

九月下旬

公開授業の実施

模擬授業でAグループから提案された指導案を修正し作成した「共通の指導案」を用いての検証授業の実施（資料1①共通の指導案②生徒のワークシートと作品）模擬授業を実施して検討された①題材を生徒がイメージしやすい言葉の選択②相互評価で用いる思考ツール「感情の座標軸」の言葉をわかりやすく改善③表現の工夫を「紙・墨・筆・構成」の四点に押さえ、共通理解を得やすくする改善がされました。

研究・協議の中で出てきた、成果と課題は次の通りです。

「鑑賞」

- ・ワークシート、相互評価シート（感情表現を可視化した思考ツール）が有効。
- ・作品を別の視点で見ることができたが、根拠の希薄なものがある。「表現」
- ・相互評価することで作品に変容が見られたが、表現の幅は狭くなつた。
- ・人に伝えようと努力していた。

「全体を通して」

- ・文学作品（文学作品からの擬音語を利用）と芸術の表現をつなげたことは、生徒に理解されていた。

- ・時間配分と最終的な作品の比較、評価の検討が必要。
- ・個から全体へそしてまた個の活動になつていて、思考が広がる構成。
- ・他者の言葉によって作品が変わることの功罪の検証が必要ではないか。

検証としては、「『主体的で対話的な授業』は『深い学び』に繋がる

ということ」であり、生徒が自分の考えを書いてまとめて発表すること、対話的な学びとして他者を受容し、自分の意見を述べること、それらは自分の考えを深く掘り下げることができ、自分の表現を高めることができることが分かりました。

そのために有効であったものは①思考ツールであり②抽象的な言葉としての学習課題（擬音語・擬態語）でした。この二点のいずれかを盛り込んだ授業を各学校での実践へ繋げ、各々ワークシートの活用・改善を進めていく確認をしました。

④ 公開授業「共通の指導案」を用いての授業実践

十月以降

各学校での実践

（資料2 ①実践例A校 ②実践例B校）

「共通の指導案」を基にそれぞれの学校の特性や生徒の実態に即して各学校で授業実践を行いました。実践後、①漢字仮名交じりの書での教員の困り②実施にあたつての工夫③実施の状況④授業を振り返つて良かった点（有効であつた点）⑤授業を振り返つて改善すべき点等についてアンケート調査を行いました。（別添資料「共通指導案での授業実践を終えて『報告書』」参照）

「全体を通して」

⑤ 全体のまとめ

「共通の指導案」作成にむけて、まだ一年間目の取組ではありますが、本研修を通してその第一号が完成しました。それを基に各学校の生徒の実態に合うよう工夫し各会員が授業実践を行い、様々な成果と課題が整理されたことは大きな収穫です。

本研修の成果は、①思考ツールの有効性（『主体的・対話的で深い学び』へ導くための手法として）②「共通の指導案」という文化として継承されることです。課題として①学習課題の選定（感性を高めるこができる課題や、自己表現することは面白い、創造することは楽し

いと思える動機付けが生徒の主体的に学ぶ力となる) ②将来に生かせる学びになつているか(書を愛好し活用できるように) 等が浮かび上がつきました。この結果を受け、今後は「主体的・対話的で深い学び」に導くための学習課題について、研修を行つていきたいと思います。

五 終わりに

新学習指導要領では、子どもたちに「何ができるようになるのか」を重視し、育成を目指す資質・能力の三つの柱として、「学びに向かう力、人間性等」の涵養、生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成をそれぞれ関連づけながら「主体的・対話的で深い学び」へと授業改善を図ることが必要とされます。今回の取り組みがその点においても意義あるものとなりました。本研修を通して確認したことは「主体的に学ぶこと、互いを受容する心、生き抜く力」を育むことの大切さです。その力が、豊かな心、学びに向かう力を育成し、これから社会を生き抜く力に繋がればと願っています。

今回、会員全員で一つのテーマに沿つて「共通の指導案」作成に携わり、課題を共有し、解決に向けて研修を重ねられたことは、これからの大分県高等学校教育研究会書道部会の第一歩と感じています。今後も会全員の繋がりを大切にして研鑽を積みたいと思います。

*参考文献

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説（芸術音楽美術工芸書道）編』音楽編・美術編（二〇〇九）
- 大分県教育委員会『教育だより おおいたNo.九十二』広報誌（二〇一八）
- 田村学・黒上晴夫著 滋賀大学教育学部附属中学校編『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』小学館（二〇一四）

(資料1 ① 共通の指導案)

〈 資料1 〉芸術科（書道）学習指導案 大分〇〇高等学校				
日時	平成〇年〇月〇日(〇)限目	場所	書道教室	
対象クラス	普通科1年〇組(書道選択者)〇名			
教科書	書	授業者	〇〇 〇〇	
単元名	漢字仮名交じりの書の学習			
科目的 つけたいか	○前半の学習内容を振り返る。 〔擬音語〕「擬態語」に自分のイメージ・感情を込めて書いてみよう	○前半のワークシートと作品を配布する。 (前半内容) 言葉を選び、その言葉を表現するイメージ・構思(座標軸)をワークシートに記入し、証書している。	○教師の活動 評価の観点 評価の方法	
導入 (3分)	●表示された言葉に指す。イメージや感情を、ワークシートを利用して、工夫して表現する。 ○自分の考える表現に適した用具・用材を準備する。 ○揮毫する。 相互評価するために1枚作品を残す。	●前半で言葉を提示する。 <提示する言葉> 「どっどど どどどど どどうど どどう」 「ゆあーん ゆーん ゆやゆよん」 「ぎやわらっぎやわらっぎやわらろろりり」 ○多様な用具・用材を準備をし、それぞれの表現に合せた揮毫ができるよう促す。 ○次の展開で相互評価をすることを伝え、作品を1点、残しておくことを伝える。	○教師の活動 評価の観点 評価の方法	
展開 1 (12分)	●自己の表現の弱いを達成するために、相互評価を通して、用具・用材、線質、字形、全体の構成などについて工夫して揮毫する。 ○底ごとに、相互評価する。 思考ツール(感情の座標軸)を用いて、他の者の意見の意図(イメージ・感情)について考え方。 ○他の者の作品の表現について良い点、改善点について話し合う。 ○作品の意図を説明し提示する。 ○底の意見を開いた後、ワークシートに自分の工夫改善点を記入する。 ○ワークシートをもとに、工夫改善し、作品を完成する。 ○出来上がった作品をいくつか掲示する。 ○本日の活動を振り返り。揮質と表現が相互に関連していることを知る。 ○引用した擬音語・擬態語の出典と日本の近代文学の言葉について知る。	●他の者の作品についての発表 ○自分の作品についての発表 ・個人	○発表しやすい紙を構成する。 ○思考ツール(感情の座標軸)を用いて、活動する手順を説明する。 ○自分の意見を述べて、積極的に話し合いをするよう促す。 ○自分の意見で考えた工夫、改善する点を、ワークシートに記入するよう促す。 ○工夫改善しながら、表現できるよう支援する。 ○作品制作において、その意図の重要性を考えるよう促す。 ○作品の変化を通して、揮質と表現が相互に関連していることを確認する。 ○今回は近代文学の中の「擬音語」「擬態語」を引用したことを伝え、文章の本義の意味を加り、言葉と表現の関連について考えるよう促す。	○揮質と表現は相互に関連していることを理解し、書の良さや楽しさを感じ取っている。 (横)i-pad、觀察 (横)ワークシート作品、觀察 (横)ワークシート作品、觀察 ・自己的表現の弱いを達成するために、用具・用材、線質、字形、全体の構成などについて工夫している。
展開 2 (30分)	各学校の状況に応じて	教材範 生徒範 指導範	私たちが日常生活の中で一般的に用いる言葉や文章は、漢字仮名交じり文である。書道の三分野(漢字、仮名、漢字仮名交じり)の中で、今回の単元が最も現代的、日常的な言葉の持つ意味を理解しやすく、生徒が作品の制作において思いや感情を込め表現し易いと思われる。また、漢字の書の学習で得た表現技法を応用しながら、素材となる言葉について深く考え(思考)、言葉から感じた思いを伝えるための表現方法を模索し(判断)、作品化(表現)することができると言える。	
展開 3 (5分)	漢字に思いを込めて書こう～団扇の制作～前章～（1時間） 好きな言葉を書こう～墨絵の制作～2～（1時間） ～テーマ（重い・軽い）を表現しよう～言葉と表現～（2時間） ～言葉にイメージを重ねて表現しよう～イメージと表現～（2時間） ～擬音語に感情を込めて表現しよう～近代文学の言葉から～（2時間） 本題	単元の指導計画	生徒がイメージや感情を隠らせない、身近な言葉や文章を段階的に提示(テーマから、言葉から、著名な文学作品から)して用いることで、意図に応じた表現の方法を考えさせたい。また、互いの作品の揮質を通して、多様な表現方法を知ることで、より創造的な作品の制作につなげたい。揮質の面では、完成した作品の揮質に加え、作品制作の途中で思考ツール(感情の座標軸を用いたシート)を用いた相互評価を取り入れることで、より表現の幅を広げたい。漢字仮名交じりの言葉と向き合い、自分自身の感情を込め、意図に応じて表現を工夫しながら作品を制作する中で、考えて表現することの難しさと面白さを感じさせ、作品の多様性を認める意識も育てたい。	

「学習活動に即した評価規準」及び「十分満足できる」状況（5）の具体例と「努力を要する」状況（2）とした生徒への指導（授業中）の支援

書表現の構想と工夫	
学習活動に即した評価規準	◎「十分満足できる」状況（5）と判断した具体例 △「努力を要する」状況（2）と判断した生徒への支援
自己の表現の狙いを達成するために、自らの表現意欲を高め、用具・用材、線質、字形、全体の構成などについて工夫している。	◎言葉に対して考察した上で、意図に応じて、多面的に工夫をし豊かに表現している。 △言葉に対して具体的な考察が進むよう助言し、多様な表現の工夫ができるよう促す。
鑑賞の能力	
学習活動に即した評価規準	◎「十分満足できる」状況（5）と判断した具体例 ◇「努力を要する」状況（2）と判断した生徒への支援
鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書の良さや美しさを感じ取っている。	◎鑑賞と表現は相互に関連していることを十分理解し、思考ツール（感情の座標軸）を効果的に用いながら、良さや美しさを感じ取って表現している。 △鑑賞と表現は相互に関連していることへの理解を促し、積極的に思考ツールを利用し、鑑賞できるように助言する。

参考資料

- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 芸術〔書道〕】
～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～
国立教育政策研究所・教育課程研究センター（2014年）

ワークシート思考ツールの例（感情の座標軸）生徒記入例

書道ワークシート⑩ 曲字仮名交じりの書の学習③

一、言葉（絶言語・絶語語）に感情を込めて表現しよう

①選んだ言葉

IPあーん やーーー やややこん

アラニン にーーー ゆめしく 伸ーーー ハトリヨ。

②言葉のイメージと表現したい感情（静・動・強・弱など）を書きなう

静、

③表現の工夫（墨・筆・線・構成など）を書きなう

○墨：うすい青けはなし
○筆：細く、やや太め
○線：直線
○構成：わなめに 3つ並べる
○工夫点：ランク一二三四五六七

④表現したい感情を座標軸に書きなう

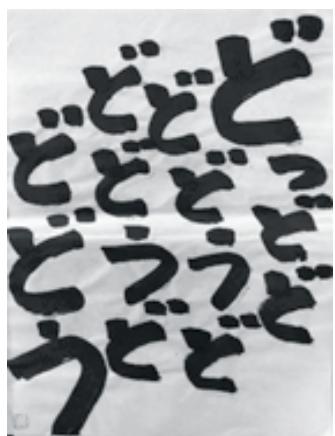
明 強

暗 弱

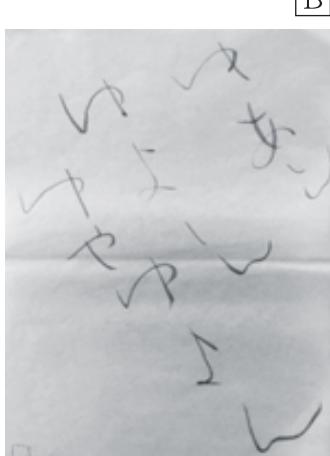
① 表現したいイメージ

- ・明暗は中くらいで強く。
- ・何かが迫つてくる感じ。
- ・勢いがある感じで書きたい。

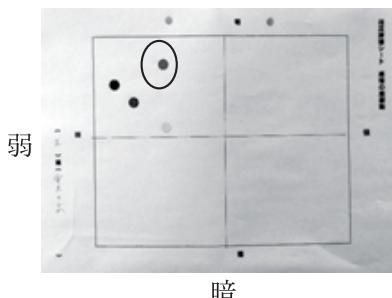
② はじめの作品



③ 相互評価



明

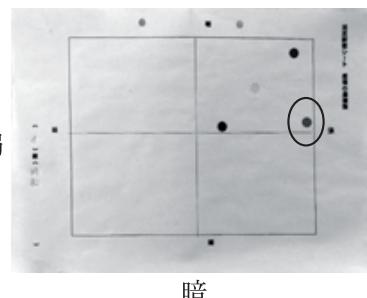


① 表現したいイメージ

- ・明るく軽い感じ。少し弱め。
- ・ブランコに乗つて楽しい感じ。

② はじめの作品

③ 相互評価



明

④ 最後の完成作品



<みんなからの意見>

「ん」の形を注意する。空間があった方がよい。
スタートの位置をずらす。ゆれた感じにする。

<自分でまとめた改善点>

字を崩し過ぎずゆれている感じを出すため、文字の並びに動きをつける。軽さを出すため墨・線はそのままで空間をあける。

<みんなからの意見>

思ったより明るく見える。もっと字を崩す。半紙いっぱいに書くとよいのでは。

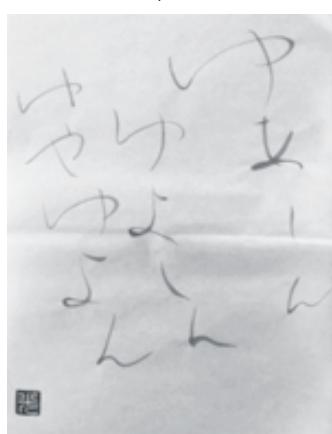
<自分でまとめた改善点>

字を崩してもっと激しい感じを出す。
墨はそのまま、線質を変えてみる。

⑤ 自己評価（生徒の感想より）

擬音語は文字数が多くて構成が難しかった。相互評価の時、相手の作品がどうしたらイメージしたものになるかを主に伝えた。自分の作品にアドバイスをもらうときしつかり「自分はこうしたい」と明確に伝えることができ聞きたいことが聞けて良かった。

④ 最後の完成作品



⑤ 自己評価（生徒の感想より）

相互評価では自分の作品について客観的な意見をもらえて改善しやすかった。班の人のアイデアは自分とは違った発想もあり面白かった。それを参考にして作品を仕上げたが、みんなと似た表現になりそうで危ないという面もあつた。

(資料2 ①実践例A校)

十月以降
各学校での実践

* 工夫と生徒の変容

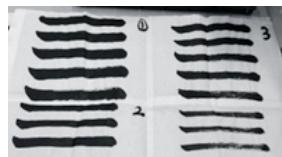
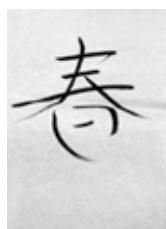


共通の指導案を使用し、特に「擬音語・擬態語」から受けるイメージを言語化させる活動に時間をかけた。その感じ方を授業の中で発表させることで、生徒は様々な感じ方を共有することが出来た。擬音語・擬態語を素材に扱うことは、生徒のイメージに多様な広がりや深みを持たせることが出来た。（言語表現の文字数が一～二時間目より増加した。）

（資料2）②実践例B校

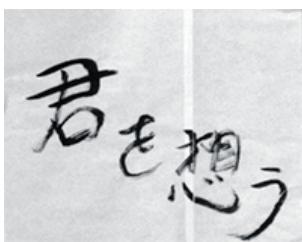
* 工夫と生徒の変容

- ・グループ学習を行い、「座標軸」を筆圧と墨量として使用制作。



座標軸

・グループ学習後、好きな言葉を制作



生徒感想

- グループ学習・・自分が思いつかない意見が聞けて面白かった。
 - 一人一人の工夫が見られてよかつた。
 - 思うように表現できなかつたが、メンバーから刺激をうけて、主体的に取り組めた。

グループで表現意図を考えて制作したことでの刺激を受け、主体的に取り組めた。

改善するべき点は慎重に書く生徒や、自分で自分のよい作品を選ぶことに戸惑う生徒がいるので、生徒への言葉かけとともに、課題の選定が大切だと感じた。

感性を磨き、書への愛好心を育む書道教育

～直感的鑑賞から分析的鑑賞、そして表現へ～

宮崎県立日南高等学校 教諭

南 裕 之

一はじめに

宮崎県立日南高等学校は、宮崎県の南部にある日南市に位置し、春は桜の美しい竹香園の高台に隣接している。本校の西には九州の小京都と言われる飫肥の武家屋敷の街並み、東には日南海岸国定公園の美しい海岸線など歴史と豊かな自然と観光資源に恵まれた土地である。また、二〇二〇年に

は創立一〇〇周年を迎えるとしている県南を代表する伝統校であり、一年学年四クラス（普通科三クラス、探求科学コース一クラス）定員百六十名、全校で十三クラスの普通科高校である。

二 授業を取り巻く環境

明るく素直で素朴な生徒が多く、与えられた課題に真摯に取り組む雰囲気を持った生徒が多い。

芸術は一・二年生が必修で、音楽・美術・書道の中からの選択となつていて、一年次の単位数は二単位で、二年次の単位数は文系が



三 実践報告

《テーマ設定の理由》

書における鑑賞と表現は車の両輪であり、同時並行で進歩していくものだと考える。つまり、表現と鑑賞は相互に関連し合いながら、表現力も豊かになり、鑑賞する目も感性も磨かれていくものであろう。

しかし、生徒の表現活動では、書の古典の形式美や用筆の規準どおりに書けるかどうかという表現技法の部分が最大の関心事であり、書の名筆と位置付けられる古典それぞれの表現の背景となる「書の見方・考え方」や鑑賞の仕方については、あまり指導に重点を置いてこなかつたようだ。

そこで私は、様々な古典の鑑賞や表現を通じて感性を磨き、「書の見方・考え方」を系統立てて学ぶことがその後の生活や社会において書との関わりを生み、書への愛好心を育み、生涯にわたつて書に関心を持ち、書と関わりながら豊かな生活を送る生徒を育てることに繋がるのではないかと考え、今回のテーマを設定した。

二単位、理系と探求科学コースが一単位である。三年次には総合コースという類型の中で芸術三科目に加え、家庭（発達と保育）、体育（進学を考えているものへの開講）からの選択となつていて。

今回の実践においては、高等学校芸術科書道Iの授業の比較的に初期段階における「鑑賞」について、自分の直感で感じた古典の印象やイメージである「直感的鑑賞」が「分析的鑑賞」の結果とどのように関連しているのかを学習し、その理解が「書の見方・考え方」に結びついていくことに繋がっていき、その学びが以後に学習する様々な書の古典の臨書や創作活動に応用され、引いては自分の意図する表現の気付きに繋がるのではないかと考えた。

四 単元名

「漢字の書 孔子廟堂碑の臨書・九成宮醴泉銘の臨書」

五 単元設定の理由

- ① 楷書の学習を通して基本的な点画や線質・用筆、運筆を理解し、表現技法を身につける。
- ② 古典の臨書・鑑賞を通して、同じ書体の中での書風の違いや多彩な美しさを鑑賞する。
- ③ 古典の美しさとその技法について学び、字形、線質、全体構成を意識して、意図に基づく表現を工夫する。

六 単元の学習目標

- ① 孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘の持つ表現技法に関心を持ち、主体的に書写能力の向上に取り組む。（書への関心・意欲・態度）
- ② 孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘が持つ伝統的な美を甘受し、字形の構成や全体の構成を工夫する。（書表現の構想と工夫）
- ③ 孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘の表現とその良さを感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。（創造的な書表現の技能）

④ 孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘の美しさや表現効果を味わい感じ取る。（鑑賞の能力）

楷書の古典の中で比較的特徴をつかみやすい孔子廟堂碑の臨書学習から入り、難易度は高いが孔子廟堂碑と比較対象にしやすい九成宮醴泉銘の臨書学習を通して、両者の比較を重点とした鑑賞活動を進めながら、二つの書の古典の特徴的な用筆や字形・全体構成を配慮した作品制作に取り組むことを目標に本単元を設定した。

七 内容

《学習の流れ》

(一) 一週目（第一次）の学習

- ① 古典に関する周辺知識の学習
- ② 直感的鑑賞（グループ学習）

一言で「直感的鑑賞」と言つても生徒にとつては初めて耳にする言葉であり、どんな言葉で表現すれば良いのか分かりにくいところがあるので、「〇〇な感じ」や形容詞、形容動詞で表現するなど出来るだけ平易な言葉で表現をするように試みた。また、比較の対象がない状態ではそれぞれの古典特有の印象を捉えにくないので、教科書の図版を参考に比較しながら鑑賞を行った。

書に関わってきたキャリアに影響を受ける鑑賞という学習活動において、その感性の差異を補完する手段としてグループ学習を設定し、安心して学習へ参加できるように配慮した。

また、今回の学習活動には多くの気づきが予想され、その気づきが生徒同士の主体的な学習へと発展していく可能性を秘めていることから、グループ学習という形態をとつた方が、生徒

の考えを深めたり広げたりすることに繋がると考えこのようないいな

学習形態で行つた。

③ 直感に基づいた臨書

この段階の臨書は、生徒の捉え方に出来るだけ任せての臨書とした。生徒の中には最初から特徴をつかんで直感的鑑賞の成果を生かした作品制作を行うものものあつたが、一方では直感的鑑賞を十分に活かせていない作品も見られた。

作品①



作品②



(1) 二週目(第二次)の学習

① 分析的鑑賞と鑑賞シートの作成(グループ学習)

鑑賞シートの作成では生徒の活動に要する時間の目安が立てにくく、教師の助言や支援の加減などの工夫も必要なことから、適宜ヒントとなる注目すべき点の提示や直感的鑑賞において出てきた言葉の平易な言葉への言い換えを促すなどの支援をしながら鑑賞シートの完成をみた。

(資料1) 鑑賞シート
(元手写書)の鑑賞(一回目) HAN NO SHO (

鑑賞の整理	分析的鑑賞	直感的鑑賞
筆記の整理 ヤスニル・整然	文字の大きさ 文字の範囲 字形の読み方(右勢・左勢) アーチカル 文字の重心・横手の範囲 書体の連続性 直線的な美しさ	筆記の整理・記述 直線の読み方(右勢・左勢) 直線の範囲・範囲の範囲 直線の連続・直線 直線の範囲・範囲 直線の読み方(右勢・左勢) 直線の範囲・範囲の範囲 直線の連続・直線 直線の範囲・範囲 直線の読み方(右勢・左勢) 直線の範囲・範囲の範囲 直線の連続・直線
見立	筆記の範囲 筆記の大きさ 筆記の読み方 筆記の範囲 筆記の連続 筆記の読み方	筆記の範囲 筆記の大きさ 筆記の読み方 筆記の範囲 筆記の連続 筆記の読み方
見立	筆記の範囲 筆記の大きさ 筆記の読み方 筆記の範囲 筆記の連続 筆記の読み方	筆記の範囲 筆記の大きさ 筆記の読み方 筆記の範囲 筆記の連続 筆記の読み方
見立	筆記の範囲 筆記の大きさ 筆記の読み方 筆記の範囲 筆記の連続 筆記の読み方	筆記の範囲 筆記の大きさ 筆記の読み方 筆記の範囲 筆記の連続 筆記の読み方

【鑑賞シートの見方】

この鑑賞シートは四段で構成されていて、一段目が直感的鑑賞、二段目から四段目が分析的鑑賞で、分析的鑑賞の内容を①字形、②線質・用筆・運筆、③全体構成の三つに細分化している。

『感じたこと・気づいたこと』の列には、一段目に古典を見て直感的に感じたことを思いつくままに記入し、二段目から四段目はそれぞれの観点に基づいて、①字形、②線質・用筆・運筆、③全体構成の三項目に分けて記入を行っている。

『鑑賞の整理』の列には、『感じたこと・気づいたこと』で記入した内容についてグループ分けを行って、思いつくままにランダムに記入した鑑賞内容を整理して表にまとめている。

こうすることによって、直感的鑑賞と分析的鑑賞の内容が関連していることが視覚的に分かるだけでなく、それぞれの鑑賞活動の中に気づいていない箇所がないかを再確認されることにも繋がる。

【第二次の鑑賞シートの作成手順】

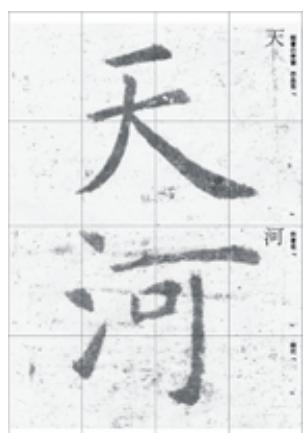
(一) 最初に、第一週(第一次)の学習で行つた直感的鑑賞を基にして記入を行つた。

(二) 配付した教科書の図版の拡大プリント(資料2・3)や教科書

の図版資料を基に①字形、②線質・用筆・運筆、③全体構成の三つ観点で古典作品の分析的鑑賞を行つた。プリントの右上に明朝体活字を提示した孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の教科書図版の拡大プリントを比較鑑賞の材料として鑑賞を進めた。この時間の学習

では、出来るだけ生徒が書き出した言葉としての鑑賞を否定せず、仮に的外れな答えでも、具体例な適切な言葉を提示し導いていくようにした。資料では前時の授業で行つた直感的鑑賞と分析的鑑

(資料2)



(資料3)



賞の結果を教師側が入力し、表に反映させている。

と「分析的鑑賞」との繋がりに気づくので、その気づきを鑑賞文作成に即座に反映させることが出来るからである。

※鑑賞文の中には起筆・向勢・転折・運筆・臨書などの書道に関する専門用語が使用されている。

鑑賞活動を通じて理解したことを文章として「書くこと」は、

「考えること」であり、どんな鑑賞文を作成していくかは生徒一人ひとりの考えの深まりを示すものである。しかしながら、鑑賞文といつてもどう書けば良いのか難しい部分もあるのでが、いくつかポイントを絞つて記入することとした。

【鑑賞文記入上の注意点】

- ① 根拠に基づいて鑑賞すること。
- ② 鑑賞による新たな気づきについても触れること。
- ③ 書道の専門用語を積極的に活用すること。

(資料4)

（孔子廟堂碑）の鑑賞文
（12月10日） 氏名（ ）

孔子廟堂碑を見て、まず温かい、ぬくもりを感じる、穏やかなどの印象を受けます。これは、字形が向勢で起筆がゆるやか、伸びやかな点画だからです。また、転折がなめらかや曲線的な横画になっていることからも温かいやぬくもりを感じると言えます。やさしい、やわらかいという印象も同じことが言えます。ゆっくりと丁寧、きれいで読みやすいは、字形や文字の大きさがそろっていて、横画の間隔が均等だからそのよさなことを感じます。起筆が鋭く、画の長短は、きりしているので読みやすく感じます。文字の印象に、起筆や転折、運筆が関係しているので、臨書などをする時はそのような所に気をつけたいです。

- 鑑賞上の注意点
- ①根拠に基づいて鑑賞すること。
 - ②鑑賞による新たな気づきについても触れること。
 - ③書道の専門用語を積極的に活用すること。



（三）第三次（三週目）の学習

① それぞれの古典の用筆法の確認と直感的鑑賞・分析的鑑賞に基づいた臨書

事前に配付しておいた教科書図版の拡大プリント（資料2・3）に、活字との比較を通して気付いた内容についてプリントに書き込みを行うことによって、臨書していく上での着眼点を明確化した。

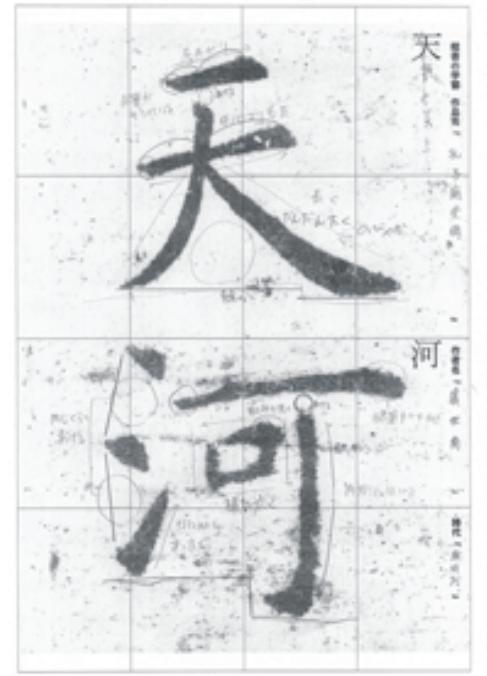
グループ内で書き込み資料（資料5・6）を共有することによってして、自分が気づかなかつた実際の表現活動においても

鑑賞の結果を反映することとした。特に文字のイメージに影響を与えることが分かっている字形の取り方、起筆、運筆の仕方、転折の形に注目することを促した。

(資料5)



(資料6)



② 提出作品の完成と作品批評会（学びの振り返り）

鑑賞内容を基に行つた臨書活動では、臨書作品完成後に初期の臨書作品と今回の学習で完成した臨書作品とを比較して、鑑賞の結果を生かしてどのような意図を持ってどう表現したのか、どのようなことが出来るようになったのかについて説明を行つた。自分自身の作品の変化を客観的に見つめたり、他者の振り返りを聞いて他者の考え方や価値観に触れたりすることによって学びの振り返りが深まり、次の学びへの具体的行動が期待できた。

作品①



清書



作品②



箭木
あいか

八 成 果

(一) 字形・線質・全体構成の視点で分析的に鑑賞した結果、直感的に古典から感じた印象やイメージが、書の美を構成する要素と結びついていることに気付き、なんとなく抱いていた古典への印象やイメージにも根拠があることを発見することが出来た。



作品③



作品④

風景

希望

清書

風景

れい奈

- (一) 初期段階にあつては、鑑賞の視点について正確に理解できていないことや語彙力不足、感性の成熟度の差異のために的外れな回答が見られ、スマーズに鑑賞が進まない生徒がいる際には、教員側の個別のアプローチが必要になること。
- (二) 従来の授業よりも鑑賞活動に重点を置いた授業になるので、1回2時間連続授業の中で生徒の揮毫時間を十分に確保できず、筆で文字を書くことを楽しみにしている生徒に筆で書けないことへの不満が溜まってしまうこと。

九 課 題

- (五) 鑑賞文の作成時に鑑賞上の注意点に基づいて記入することによつて、鑑賞文の中に根拠に基づいた鑑賞とそこからの新たな気付きを導くことができたこと。
- (四) 生徒個々の目標や克服すべき課題が明確になり、教師の支援で学習ポイントの焦点が絞り込めた点。
- (三) 鑑賞シート記入の経験を重ねることによって、鑑賞シート作成の要領をつかんで作成時間に短縮の傾向が見られたこと。
- (二) 直感的鑑賞を基に分析的鑑賞の内容を整理する作業の中で、書の「見方・考え方」に気付き、自分の意図する表現をするために、具体的にどうすればいいのかを明確に意識することが出来たこと。

(三) 主体的、対話的、深い学びを実現していく上で、学習の注意力が欠けると鑑賞の言葉の紡ぎだしが疎かになつたり、集団に依存して主体的な学びに繋がらない事があること。

十まとめ

今回の実践では、直感的鑑賞と分析的鑑賞の結果を基に、両者の結果がどう関連していくのかを探る活動として、生徒達の気づきや感動を起点としそれを働かせながらより主体的に対話的な鑑賞活動が体験できればと考えてきた。

そうした活動の中で「書の見方・考え方」に気づき、日常の生活や社会における書への興味・関心を生み出すことに結びつくのではないかと考える。

このような授業を様々な古典の臨書や創作の活動に広げ学習を進めしていくことによつて、「書の見方・考え方」はより広がり、それが引いては書への愛好心を育み、生涯にわたつて書に関心を持ちながら心豊かに生活することに繋がるのではないかだろうか。

生徒が思考・表現することでの理解を深める教科指導法の改善

熊本県立玉名高等学校 教諭

仲 原 幸 代

一 はじめに

本校は熊本県の北部に位置し、今年で創立百十五年目を迎える熊本県屈指の伝統校である。「白亜の殿堂」と呼ばれる本館建物は、国の登録有形文化財に指定されている。マラソンの父と称される金栗四三も本校の卒業生である。本校の三校訓「至誠・剛健・進取」のもと、生徒達は日々、授業、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、生き生きとした学校生活を送っている。また、全日制・定時制の二つの課程を有し、中学校を併設した併設型中高一貫教育校でもあるという、県下でも特色ある幅広い教育活動を展開する進学校である。

本校の芸術科は、一年次に二単位が開講されており、音楽・美術・書道三科からの選択必修である。三科ともIを付す科目のみが開設されており、書道においては「書道I」のみとなる。

二 授業の展開

一 単元名 書道I 「漢字仮名交じりの書」

二 単元設定の理由

これまでの授業は古典の臨書活動と鑑賞活動が中心であつたため、創作活動の指導において不安があつた。生徒も創作活動は「どう書けばいいか分からない」と、不安を持っていたこともあり、今回のもうとする。

漢字仮名交じりの書による創作では、多字数作品の全体構成を考えること、漢字と仮名の調和を理解することの二点に焦点を絞ることとした。

仮名の三色紙の構成美を土台とし、自作の和歌を題材とする。文字数を同じにすることで文字の大小や間を理解させること、また、余白や墨色の変化によつて立体感を想像することを狙いとして設定した。生徒達が試行錯誤しながら創作作品を作り上げていく過程において、思考を積み重ねて表現することの喜びと達成感を体験させたい。

三 単元の目標

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	書表現の創造的な技能	書表現の鑑賞の能力
漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもつて、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

四 単元の評価規準

書への関心・意欲・態度	
【表】漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもつて、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書表現の構想と工夫
【鑑】漢字仮名交じりの書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	創造的な書表現の技能
参考とする古典のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、表現を工夫している。	鑑賞の能力

五 学習活動に即した評価規準

A 書への関心・意欲・態度	
【表】①書の美の要素に関心をもち、表現を高めようとしている。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値をと考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
【表】②自作の和歌の表現に関心をもち、意図に応じた表現を自ら楽しんで主体的に活動を行っている。	①参考とする古筆のよさや美しさを感じ取り、自らの感性を働かせながら、表現を工夫している。
【鑑】③名筆の鑑賞を通して、書への関心や書のもつ美しさを感受しようとしている。	①参考とする古筆の表現を理解し、全体構成を考えた表現技能を身につけ表している。②作品から感じたことを相手に伝え、互いに高めあいながら理解を深めようとしている。

六 指導と評価の計画

時間	■学習のねらい		
	□学習活動	■三色紙の構成美を理解し、作品のよさを見出す。	■三色紙を鑑賞し、構成と作品の印象について学習する。
1	□自作の和歌を詠む。	□小倉百人一首から一首を選択し、鑑賞したのち、自作の和歌を詠む。	□グループで創作和歌の鑑賞をし、文意を深める。
3-2	②	②	②
7-4	① ②	① ②	① ③
8	① ②	① ②	A B C D
観察	ワークシート	作品観察	ワークシート

七 本時までの学習過程の状況

《第一時 三色紙の鑑賞における生徒の気づき》

『升色紙』（いまははやこひしなましをあひみむとたのめしことぞいのちなりける）

- ・墨の濃いところは、歌意の力強く相手を思つていることを表現していて、薄いところは、寂しい気持ちを表しているように感じる。

- ・他の色紙より、墨の濃淡がはつきりとしている。後半部分が重なっている。読みににくい。

- ・整っている印象。余白が多くシンプルで寂しい感じ。
- ・左に進むにつれて、だんだん線が細く、筆圧も弱くなり、薄くなっている。

『寸松庵色紙』（梅の香をそでにうつしてとめたならば春はすぐともかたみならまし）

- ・春が過ぎていくのを悲しむ感じがする。
- ・行が散らばっていて、紙面の広がり、空間が詰まつた印象。
- ・縦長で伸び伸びしている感じ。
- ・升色紙に比べ、線が細く斜めになつてているから、自由気ままに書いたようだ。

『継色紙』（こひしさにみにこそきつれかりごろもかへすをいかがうらみざるべき）

- ・余白がとても広く使つてあって、素つ気ない感じがする。
- ・余白部分が広い。心にぽつかり穴があいたような寂しい、悲しい気持ちがする。
- ・周囲に余白が多いことにより、柔らかく感じる。
- ・余裕がある。優しい感じがする。

《第二～三時 自作の和歌の作成》 *各生徒作品を参照

《第四時 草稿作りにおける生徒の様子》

- ・字書を用いて、漢字の崩しや連綿などを熱心に工夫している。
- ・三色紙の構成に合わせて、文字を配置することができている。
- ・三色紙の墨色の変化に合わせて、線の太細の変化をつけたり、含墨の場所を設定したりしている。
- ・強調したい文字（フレーズ）を大きく書くだけでは面白くないと考えて、奥行きや余白を意識した構成を工夫している。
- ・ワークシートの「ねらいと工夫」について、言葉で表現することを難しく感じている生徒が多く見られた。その代替の策としてデッサンで表して良いこととした。

八 本時（第五時）の学習指導案

導入5分	
・第一時の構想図を振り返り、本時の目標を確認する。	（二）本時の指導目標
三色紙の構成美を活かして、毛筆で表現しよう。	指導内容

指導上の留意点

評価の観点

まとめ5分	展開 40分	学習活動
・次時の学習内容を確認する。 ・本時の振り返りを行う。	・作品制作を行う。（半紙・小筆使用） （三）本時の展開	・古筆を振り返り、書美を明確化する。 ・パワー・ポイントを用い、構成美（墨色・文字群・配置・行幅）について確認する。 ・新たな気づきはようによる。
・一枚目の作品からの変化を確認させ、作品の質の向上を感じるようにする。	・漢字と仮名の調和を意識するようにする。 （二）本時の評価	・パワーポイントを用い、構成美（墨色・文字群・配置・行幅）について確認する。 ・新たな気づきはようによる。
・変化させた点が作品全体にどう影響しているかを考えるようにする。	・字書を活用し、書体の工夫も促すようにする。	・一斉指導を行い、気づきの多い生徒に発表するようする。 ・三色紙ぞれぞれの構成に気づくことができているか。

九 生徒作品の変化

(一) 第五～七時の制作における生徒の変化

① Aさんの作品

参考和歌……君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな

自作の歌……命さえ惜しくないと手に入れた恋いつまでも続けと願う

Aさんの意図：あなたのためなら命さえ惜しくないと思つても、恋が叶うとそれが長くあって欲しいと思う。

Aさんの歌に対する他者の感想

- 恋愛についてよく解釈していて、とても口マンチックだと思いました。

- 命は長くは続かないけれど、相手への思いは続いて欲しいという気持ちが分かつた。

『第五時 作品とその感想』

命さえ惜しくは

なまこ手に入れた恋

命さえ惜しくは
なまこ手に入れた恋

『升色紙』の構成にあてはめてみた。重ね書きと奥行きはこのように出してみたい。左上の「いつま」を風船のようにふわっとさせ、切なさを表現したい。全体的に少し小さいので、紙面全体を考えてみたい。

《第六時 作品とその感想》

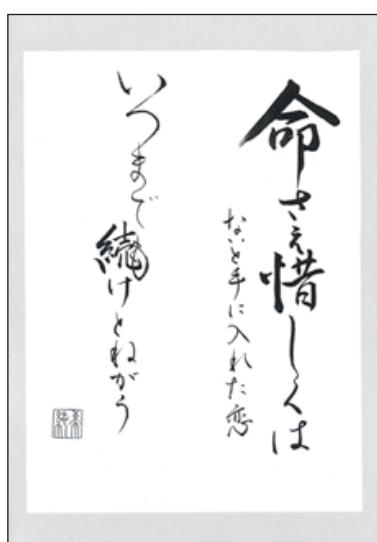
命さえ惜しくは
なまこ手に入れた恋

いつまで続けともがう

命さえ惜しくは
なまこ手に入れた恋

『第七時 完成作品とその感想』

全体的に広げてみた。文字は大きくなつたけれども、墨色の変化を出せていない。少し、強い印象がある。無理に変体仮名を用いずに書いてみようと思った。



② Bさんの作品

参考和歌……人もをし人も恨めしあぢきなく世を思ふゆゑに

物思ふ身は

自作の歌……こんなにもあなたを愛しく思うのにつまらないと思ふ悩む日々

Bさんの意図：政争のせいで恋愛が全然面白くない。だからもう恋愛なんてどうでもいいと思っていることを

詠んだ。

Bさんの歌に対する他者の感想

- ・面白みのない恋愛で、つまらないと思い悩む辛い日々が浮かびました。意味が分かりやすくていい歌だと思いました。
- ・作者の感情がよく分かる歌だと思いました。
- ・人それぞれで人を思う感情が違うことを改めて実感しました。

《第五時 作品とその感想》

こんなにもあなたを
愛して思ふのに
思ひも
日々

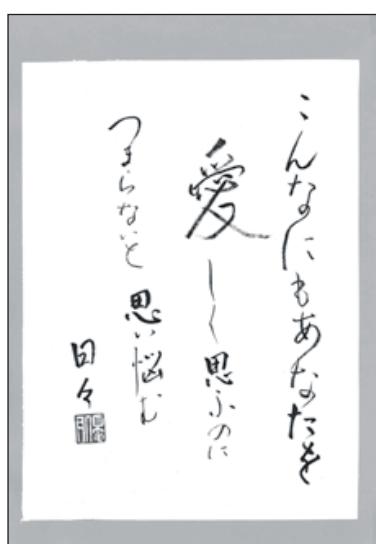
《第六時 作品とその感想》

こんなにもあなたを
愛して思ふ
日々

「愛」を強調したいと思い、「愛」だけ大きく書くのは不自然に感じたので、周りの文字も少し太い線で書いた。「つまらない」とのフレーズを下の「思い悩む」にくつつけた。

『寸松庵色紙』をもとに書いてみた。斜めに文字を入れるのが難しい。『升色紙』のように上方に小さく入れて奥行きを出してみた。

《第七時 完成作品とその感想》



悲しい歌なので、悲しさを表現するために、あえて「愛」を薄くした。字と字を繋げることを工夫した。

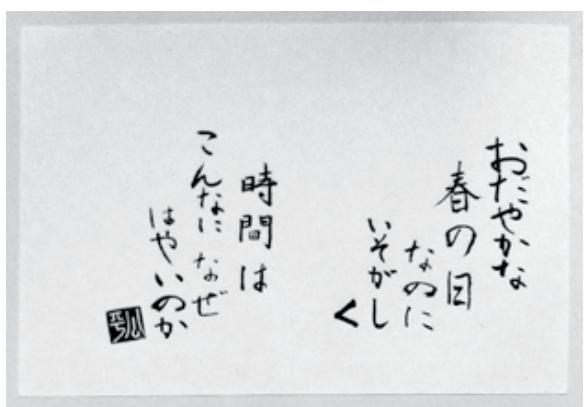
ここに挙げた二名は理解の高い生徒である。三色紙を鑑賞した際にも文字をとらえるだけでなく、余白から余韻や感情を想像していた。

A・Bどちらの生徒も漢字は行書、仮名は連綿を活かして漢字と平仮名の調和を図っている。『寸松庵色紙』と『升色紙』の構成に自作の歌を配置し、墨色の変化を大胆に表現している。紙面に思い切って大きな空間を設けたり、文字群や行の変化を取り入れたりもしている。第五時では線の弱さが目立ち、紙面の余白も多い状況であつたが、第六時には紙面全体の広さと文字や線の太さ等を考えて表現した。墨色の変化と線の太細の変化によって奥行きや間を表現できている。

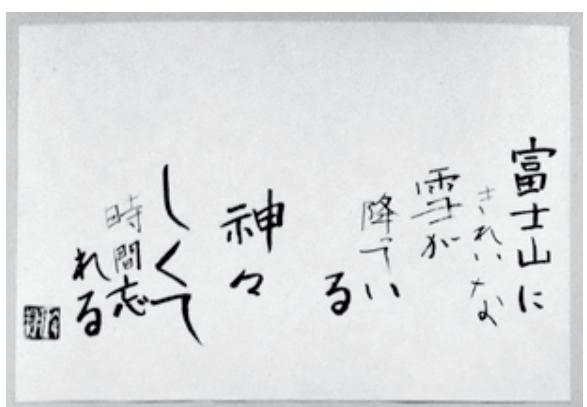
一方で、理解が十分でない生徒は、三色紙の鑑賞の際、気づきを言葉で書き出すことができなかつた。しかし、鑑賞の段階では気づきが未熟だった生徒も、作品を制作する過程で配置や墨色の効果などに気づくことができた。

《第八時 作品鑑賞》

Cさんの作品



Dさんの作品



④Dさんの作品

り書かれていて、いいと思いました。

参考和歌……田子の浦にうちにでみれば白妙の富士の高嶺
に雪は降りつつ
自作の歌……富士山にきれいな雪が降っている神々しくて時
間忘れる

Dさんの作品に込めた思い

修学旅行で見た富士山が思い浮かんだ。富士山
に雪が積もっていて、その光景が神々しく輝
いていて、時間を忘れるのを想像して書いた。
かすれを工夫した。

他者の感想……余白もしっかりと取つてあって良い感じです。
かすれの部分は儂い感じがしました。

十まとめ

「漢字仮名交じりの書を創作する」ことを課題とし、課題解決方法と
して「三色紙の構成を活用すること」「漢字と仮名の調和を図ること」
を提示した。作品制作には手本のない不安があるがその一方で、自分
の思いを筆にのせ、呼吸や間などその作者にしかない感性をいかすこ
とができる魅力がある。

臨書学習によって用筆・運筆、表現効果などの表現技能を習得する
ことができる。古典や古筆の作品は伝統に根差した普遍的な表現美で
ある。それらの表現を活用して創作活動を行うことは、学びの集大成
ともいうことができる。習得された知識や技能が思考・判断・表現に
おいて活用されると考えるからだ。私は、その方向性をもつて授業を
計画した。しかし、振り返ってみると、三色紙の鑑賞では表現美を感
じた。なぜはやいのか
春は学年が変わるなど色々と忙しい感じを表した。
Cさんの作品に込めた思い
春は学年が変わるなど色々と忙しい感じを表した。
他者の感想……「春の日なのに時間が早く進む」など、上手く
歌が作られていて、いいと思いました。作品
の最初の「おだやかな」の字が太くてゆつた

じ取ることができた生徒とそうではなかつた生徒がいた。しかし、作品を制作していく過程で、どの生徒も墨色に変化を付けてみたり、配置を意識したりするようになつた。

第四時から第七時の学習は、一斉授業の形式を取つた。生徒は個で学習した。よつて、こちらの状況把握に関しては生徒の気づきがあつたか否かしかなかつたことは改善点である。先に取り上げたC・Dの生徒は、三色紙の鑑賞の際には、気づきがない状態であつた。机間支援で声をかけても、興味・関心があまりないようであつた。一方で、彼らの近くにはA・Bのような生徒がいた。墨色の変化に気づいたり、余白に気づいたりしていた。今後は、「見方」や「考え方」をこちらから一方的に教えるだけではなく、生徒間の幅広い理解度を活かしたグループ学習の場を設定したい。生徒が協議したり作業し合つたりして発見し創造していくことができるのではないかと考えている。グループ内での協働活動を通して、他者の気づきを参考に自分なりの気づきを書き出したり、自分と他者の気づきから新たな発想を生み出したりすることができると思う。鑑賞によつてその作品の表現から何かを感じ想像することができれば、自らの制作意図を明確にすることができ、それにあつた表現の追求がもつと意欲的になるし、それぞれのペースでの「深まり」があると考へる。

次の課題として、授業計画と総時間の見直しが必要である。今回は学年末に実施したため、時間が制約されてしまつた。時間の区切りが作品制作の区切りとせざるを得なく、生徒自身の作品に対する満足度にも差があつたようである。また、生徒の感想を見ると、理解度の浅さが分かる。構成美や漢字と仮名の調和について触れてないものがほとんどであったからである。第八時の鑑賞会は作品から感じたことを感想文に書いて作者へ渡す取組を行つた。当初は作品発表会と題して、

作者の思いや工夫点などを口頭で伝える予定であつた。しかし、時間の都合でその時間を取ることができず、掲示作品を鑑賞して感想文を渡すことに変更した。発表会ができたならば、互いに語りあうことでも他者の感性をもつと知ることや書の表現の面白さを味わうことができ、生活に活用しようという気持ちを高めることができたのではないだろうか。思いや考えをもとに豊かな価値を創造していくことができると思う。このように何ができるようになるか、何をどのように学ぶのかを具体的に計画し、組み立て直していきたいと思う。

漢字仮名交じりの書の指導に悩み、その解決方法として既習の内容を活用した実践を行つた。生徒の理解の度合いについては、今回のようないか一方的な説明では深まりが浅いと感じた。生徒の理解には幅があり、その幅を埋めるには生徒の主体的な活動が不可欠である。その意欲を掻き立てるきっかけとして、対話的な学びがあると思う。これまでの一斉指導から、個々の主体的な活動と対話を織り交ぜたアクティブラーニングの手法を取り入れるなど実践的な工夫を重ね、深い学びの獲得を目指していきたい。

参考文献

『チヨコレート語訳 みだれ髪』 俵万智

『みだれ髪』 与謝野晶子

『安田女子大学紀要』 書道の学習方法と思考と思考活動との関係

谷口邦彦



誌上発表

宮崎県高等学校教育研究会書道部会の取り組み

宮崎県教育庁高校教育課 高校教育・学力向上担当
 （前宮崎県立宮崎北高等学校 教諭）
 松田太郎

一 はじめに

本県高等学校教育研究会書道部会は昭和二十五年に発足した高校書道連盟を前身とし、昭和四十二年に組織された。

当時の事業は、研究授業及び協議、書道選抜全生徒を対象とした競書大会、高校書道部書道展、高校書道教員展、教員の研修を目的した講習会、機関誌発行など多岐にわたる内容であった。

今回、この誌上発表の機会を得て、部会の取り組みについてまとめにあたり、先輩方の高校書道教育への熱意と尽力を知ると共に、これまでの継続により現在があることを改めて感じる次第である。

本稿は現在も研究会の柱として実施されている講習会と研究発表についての取り組みを紹介したい。

二 講習会

(一) 第一期 教員の書的知識と実技力向上のための講習会

昭和四十一年度より講習会が毎年実施されてきた。当時の資料によると「県内高校書道教員の研修を深めるために、年度ごとに研修のテーマを設定し、一流の講師を招へいして行う」とあり、後出資料（講習会・研究発表会内容一覧）を見ると、さまざまなテーマについて実際に著名な中央書壇、研究者の先生方が来県され、講習会を

実施いただいている。多くの先生方が講習会に参加し、刺激を受けられ、日々の授業において生徒へ還元されていったようである。

(二) 第二期 生徒参加型による授業形式の指導法講習会

平成二十一年度から講習会内容が変化。当時、県教育委員会の三浦正貴指導主事の強いリーダーシップのもと、講習会が県の委託事業として実施され、本県書道研究会内に授業の在り方についての意識高揚が図られた。

この県の委託事業とは、左記のとおりである。

事業名 感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業

「指導力向上講習会」「授業力向上研究会」

目的 中学校・高等学校芸術科（音楽、美術、書道）教員の指導力・授業力を高めるため、中高連携による指導力向上

講習会や授業力向上研究会を行う。

期 間 平成二十一年度～二十六年度
 ア 「指導力向上講習会」

芸術家や大学教授等の外部指導者を招へいし、実技指導や研究協議を行うもので、生徒参加型授業（実技講習会）による指導法の研修を実施。

平成二十一年度から平成二十五年度まで、講師は大東文化大

学の教授・准教授に依頼。県内書道部員を受講生徒とし、教授法・実践方法を参観し研修を深めた。

平成二十四年度からは中学校国語科書写教育との連携、充実発展につなげたいとの意向から、中学校国語科教諭も参加。高校の授業（実技講習会）参観、高校書道教諭が書写実技指導のプログラムを準備し交流、研修を深めた。

平成二十六年度は東京学芸大学の長野秀章教授に講師を依頼。高校書道教諭と中学校国語科教諭が中学校書写指導の在り方と学習指導要領を踏まえた講義と実技の両面から学ぶとともに協議を行い研修を深めた。

イ 「授業力向上研究会」

この研究会は指導力向上講習会を受講した高校芸術科教員による研究授業、協議会である。

これまで実施していた研究授業がさらに充実し、深まりのある協議会となつた。

平成二十四年度は高校芸術科教員による中学校出前授業「書写」も実施した。



平成26年 講習会



平成22年 講習会

(三) 第三期 新学習指導要領を意識した授業力向上講習会

平成二十七年からの講習会は、質の高い文化創出のために、学校における文化活動の振興体制の強化を図ることを目的として「宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業」を第二期同様、県の委託事業として実施。二期の事業を引き継ぐ形ではあるが、新学習指導要領、全高書研宮崎大会を見据えた内容となるよう方向を転換した。

ア 「平成二十七年度講習会」

平成二十四年の中教審の答申を契機にアクティブラーニングが注目され、県内書道教諭に研修の声が上がった。そこで、アクティブラーニングにおいてこそ教育コーチングのスキルが必要ということから、次の内容で実施。

内容 「教育コーチングスキル講座」

・講義とグループワーク

講師 産業能率大学教授 鈴木 建生 先生

イ 「平成二十八年度講習会」

平成三十年の全高書研宮崎大会研究授業で「漢字仮名交じりの書」を実施すること、分科会研究発表に「郷土の歌人若山牧水の短歌を生かした漢字仮名交じりの書の制作」が設定されていることから実技講習会を企画。

内容 「漢字仮名交じりの書の制作」

・講義と若山牧水短歌を題材に受講者の作品制作

講師 大東文化大学講師 永守 苍穹 先生

ウ 「平成二十九年度講習会」

全高書研宮崎大会が次年度に迫つてきたこと、普段、我々が実践している授業についての助言をいただきたいということでの内容で実施。

内容 「新学習指導要領の改訂のポイント」

「全高書研宮崎大会」に向けての研究発表中間報告と助言

「書道部会会員授業実践」発表と助言

講師 東京学芸大学教授 加藤 泰弘 先生

三 研究発表

資料として確認できる研究発表内容は昭和五十八年から。平成二十二年までの内容は授業教材研究、古典研究などさまざまで、発表者の自由となっていた。

平成二十三年以降、共通した教材・観点について、各教員がどのような授業を実施したかを互いに具体的な実践例を発表し、公開することで、部会全体の授業力向上に役立てる目的とし、取り組んでいる。担当者は実践レポート、指導案、授業に用いた資料、生徒の作品例などを準備し、発表する形で実施している。ここでは、実践レポートの観点をまとめ、これまでの発表を振り返りたいと思う。

(一) 平成二十三年度

内容 書道I「九成宮醴泉銘」二名

書道II「乙瑛碑」二名

観点① 教材研究上、特に工夫した点

- ・同時代の他碑との書風を比較して特徴を理解させるなどの創意工夫が見られた。

- ・水書板を活用して説明したり、生徒に籠字を取らせるなど

として、特徴を視覚的に理解させる工夫がなされていた。

観点② 当該教材を通じて、特に理解させたいと考えていた点

- ・立碑に係る時代背景や歴史的位置づけ、また作者像などを

総合的に把握させたり、様々な表現要素を意識して画仙紙

に制作させるなど、ねらいの明確な実践がなされていた。

観点③ 成果と今後の課題

- ・臨書段階では、用筆法や結構法などについて理解が進んだものの、倣書や創作的な表現といった発展的学習では十分な成果が見られなかつた。発展段階では、より生徒ごとにねらいを絞り込んで制作するよう指導の必要あり。

観点④ 実践後の所感

- ・臨書から創作へ発展させる指導に工夫が必要なことや、用筆法の十分な理解が不可欠であることが確認された。教科書の活用法も含めて、より系統的・連鎖的に理解させ、表現技術を身につけさせられるよう教材研究力を深めたい。

(二) 平成二十四年度

内容 書道I「蘭亭序」二名

書道II「書譜」二名

観点① 「分析」に重点をおいた鑑賞学習を、どのように工夫したか

- ・楷書との比較を通して、行書の持つ流れや氣脈のつながりに意識がいくように促した。

観点② 本単元の学習の成果を、次単元へどのようにつなげていくか

- ・古典の特徴を視覚的な分析によって捉え、古典作品の学び方をより確かなものにしていく。
- ・上体を使って書くことを覚えさせ、これを次単元でも継続的に意識させていく。

観点③ 成果と今後の課題

- ・運筆に大切なのはリズムや躍动感、そして筆圧の違いだということを理解し、伸びやかに表現したものが多かった。
- ・文字の実線だけでなく、余白にも注目させたい。

観点④ 実践後の所感

- ・分析に重点をおいた鑑賞学習により、ことばで説明できる鑑賞能力つまり言語活動が充実し始めた。今後はこれをより伸びやかな表現に発展させる工夫が必要である。

(三) 平成二十五年度

内容 書道Ⅰ 「漢字仮名交じりの書」二名

名筆を生かした表現を理解し、工夫すること

書道Ⅱ 「漢字仮名交じりの書」二名

名筆の鑑賞に基づき表現を工夫し、個性的に表現すること

- 観点① 名筆を生かした表現を理解させるために参考とした名筆

・牛欄造像記 蘭亭序 爭坐位稿 唐の四大家

・王羲之 漢碑 藍紙本万葉集

観点② 深まりのある漢字仮名交じりの書の授業に必要と感じられたことや工夫した点

- ・前提として、古典の直感的、分析的な鑑賞が必要。

観点③ 成果と今後の課題

- ・全体構成を考えさせる材料として、三色紙等の古典も有効。
- ・作品を相互評価せることがよい刺激になると分かった。
- ・教材研究に横断的な協力を取り付けることも大切。

観点④ 実践後の所感

- ・漢字仮名交じりの書の作品制作の引き出しとなり得るよう日に頃の漢字や仮名の学習を充実させるこという、従来と

(四) 平成二十六年度

内容 行書の学習 「蘭亭序の鑑賞と臨書」

- ※ この年からすべての書道教員が取り組み、実践レポートなどを持ち寄って発表し意見交換を行う。

観点① 「字形の分析的鑑賞」や「用筆の解析的鑑賞」における教材の工夫点や生徒の主体的な学習を引き出すために工夫した点

夫した点

- ・生徒に籠字を取らせるなどして、特徴を明確に理解させる工夫がなされていた。

観点② 確かな意図を感じさせる深まりのある行書の学習および言語活動の充実のために工夫した点など

- ・多様な用筆、筆法についてグループ内で仮説に基づいた協議を行い、一定の答えを見つけ出す取り組みが見られた。
- ・書道用語を適切に使つて説明する姿勢が見られた。

観点③ 成果と今後の課題

- ・臨書学習の深まりが感じられ、生徒の主体性が向上した。
- ・基礎的な知識が不足しているため用筆の解析は難しかった。

観点④ 実践後の所感

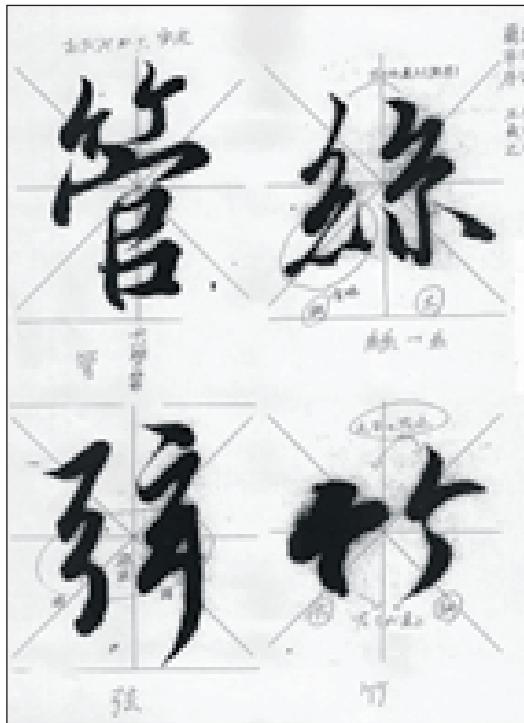
- ・字形の分析的鑑賞は次第に定着しつつあるが、用筆の解析はさらに指導方法や支援の在り方に研究が必要だと感じる。書道の取り組みが生徒の探究心を醸成するよう、決して教えすぎずに考えさせて検証させる授業を目指して精進したい。

は逆の発想が必要だと気付かされた有意義な研究だった。

(授業実践レポート)

授業研究実践レポート	
所属校名：授業者	都城西高等学校 小林貴子
授業単元・題材名	行書の学習「蘭亭序」の鑑賞と臨書
字形の「分析的鑑賞」や用筆の「解釈的鑑賞」における教材の工夫や、生徒の主体的な学習を引き出すために工夫した点など	<ul style="list-style-type: none"> 「蘭亭序」に見る行書の特徴、字形・用筆の特徴を蘭亭序全体を鑑賞しながら、項目別に文字を切り貼りして鑑賞・分析した点 グループ学習で共同で行った点 蘭亭序の映像や写真等で視覚的にとらえさせた点
確かな意図を感じさせる深まりのある行書の学習、および言語活動の充実のために工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 第1回目の最初に「蘭亭序」を鑑賞し、直感的・率直な感想を書いて発表させ、鑑賞・分析・臨書後に再度感想を書いて発表 →前後を比較して、内容の深化・充実させた点 気付いた点や疑問点を挙げ、解決することを行った点 鑑賞、分析の際に使用した書道用語等を定着させるようにした点
成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の古典に対する興味・関心が高まった 鑑賞の仕方が具体的に分かり、臨書活動にもつながった 書道用語を使用できるようになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞、分析に時間を取りすぎたので、項目を絞ることが必要 臨書する部分や文字数、紙のサイズ等を検討するべき
実践後の所感	思った以上に、欲張って鑑賞や分析・解析をしてしまい、時間を取りすぎてしまい、臨書活動にあまり時間が取れなかったので、もう少し臨書をして作品完成度を高めていきたいと思った。 とても大切な要素なので、時間配分に気をつけながら実施していくなければならないと思った。

(提出された授業資料例)



(五) 平成二十七年度

テーマ アクティブラーニングを取り入れて、小グループによる「字形の分析的鑑賞」と「用筆の解析的鑑賞」を軸に鑑賞学習の充実を図り、生徒の主体的な活動を引き出す工夫ある授業を行う。また最後に適切な書道用語を用いた研究発表を行い、言語活動を充実させる。

内容 行書の学習「風信帖の鑑賞と臨書」

観点① アクティブラーニングによる「字形の分析的鑑賞」や「用筆の解析的鑑賞」において、指導上、工夫した点

- 一人ペア及び四人のグループ学習を織り交ぜて、気付きの幅を広げるよう工夫した。また活発な協議ができるいないグループには声かけをして周囲の状況を参考にするよう指導した。

観点② 研究発表会において、よりよい発表を行わせるために、また言語活動を充実させる指導をどのように工夫したか。

- 教科書に掲載されている書道用語を大きな活字で印刷し、ラミネート加工して裏面にマグネットシートを貼り、黒板に掲出して可視化できるよう工夫した。
- グループの自己紹介から始めさせることで、発表しやすく聞きやすい環境になるよう工夫した。

観点③ 成果と今後の課題

- 全体的に授業の雰囲気が良くなり、生徒の意欲も向上した。
- 集中力が継続されるようなコーチング技術の向上が急務。

観点④ 実践後の所感

- 生徒が共に高め合おうとする姿に大きな感動を覚えた。
- AL型授業は難しいと思っていたが充実感を共有できた。

(授業研究実践レポート例)

授業研究実践レポート	
所属校名：授業者	小林高等学校：長友秋葉
授業単元・題材名	行書の学習「風信帖」の鑑賞と臨書
アクティブラーニングによる「字形の分析的鑑賞」や「用筆の解析的鑑賞」において、指導上工夫した点など	<p>(アクティブラーニングにおいて工夫・留意したこと)</p> <p>●今回は、クラスを混ぜて男女で組み合わせた。初めて新す生徒も居り、自己紹介を行うようにした。さらに、思考するという点から、活動に段階をつけて行った。</p> <p>個人「字形の分析的鑑賞」活動→臨書 2人組み 鑑賞の観点に着目した鑑賞活動「字形の分析的鑑賞」「用筆の解析的鑑賞」→臨書 4人グループ 2人組みで挙がった「字形」や「用筆」の特徴を共有し確認を行う。批評会を行う→臨書</p> <p>●鑑賞の観点を、字形（外形と余白）・線質（用筆と運筆）・点画（起筆・終筆・点折）とした。個人では見たままの分析的鑑賞を行わせたが、2人組みの鑑賞では、特にキーワード（起筆・終筆・藏絆・背勢・横画・縦画・余白・太細）を用いて説明するように指示した。</p>
研究発表において、よりよい発表を行わせるために、言語活動を充実させる指導をどのように工夫したかなど	<p>言語活動を充実させるために、クラス全体ではなく、4人グループでの批評会を行った。鑑賞の観点を基に、書道の用語を用いて批評するという条件でおこなった。2人組みで見出した観点に沿って発表し、4人で共有し、新たな気づきの部分を言葉で書き込ませる形式にした。</p> <p>話すことが苦手な生徒もいる為、2人や4人という段階をとった。批評会では座る位置で進行係と課題の発表係を決めて進めた。</p>
成果と今後の課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に2人組みの活動では、共通した観点を明確にすることで、書がニガテな生徒の臨書の取り組みが前向きになり、字形も捉えられるようになった。 個人で思考するのでは、「気づき」が増えて、共通した目標が明確になる為、作品の臨書に対する波動も向上した。 グループ批評会では、他者を理解することに努め、同じ視点を持って臨書を行う為、お互いに高め合う意識がついたのではないか。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 用筆方法を理解し表現するのは難しいので、個人的に模範を示すことが必要であると感じた。また、研究発表会は今後行う半切作品や創作作品で実践していきたい。
実践後の所感	個人やグループで分析的に字形や用筆を鑑賞することは、自身や他の者の気づきを共有し、同じ目標に向かう意義のある時間となったと思う。内容によっては、2人組みのほうが有意義になる場合もある。また、多人数のほうが活発に意見が出来るなどを考えて授業を構成していきたい。

(六) 平成二十八・二十九年度

内容 「漢字仮名交じりの書」の単元の中で、若山牧水の短歌を題材とした創作の授業を行う。

観点① 深まりのある授業を実践するためには必要と感じられた点や工夫した点

- 歌の内容が理解できていなければ、創造力も乏しくなるため、歌の解説をつけることで、生徒により愛着をもたせた。
- 紙面構成を考える際に、「行書き」に限定させたことで、思考の飛躍による集中力の欠如に歯止めをかけることができた。

- 牧水に関する映像資料などを鑑賞したが、鑑賞のポイントや制作にどのように結び付けるのかを事前に提示する

べきだった。

観点② 成果と今後の課題

- ・鑑賞により生徒は多くのことを感じ取っている。それを各自の表現に具体的に結び付けるために、指導者がポイントを整理して伝える手立てが必要。

観点③ 実践後の所感

- ・郷土の歌人に理解を深められる時間となつた。作品の相互評価も活発になり、個性あふれる作品が仕上がつた。

四 終わりに

芸術は人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、相互に理解し尊重し合う心のつながりと多様性を受け入れることができる豊かな社会を形成する。その導入期である高校芸術科の授業の存在は大きい。この目的を具現化するために、本県書道部会は、研究会内容について講習会は平成二十一年度、研究発表は平成二十三年度を起點に、ともに授業力向上を図る取り組みを実施してきた。部会全体でこれから高校書道教育について考え、実践内容を共有することにより、書道教員一人ひとりの授業に対する意識が変容したと感じている。

新学習指導要領では、生徒の視点に立ち、学びを通じて「何ができるようになるのか」という資質・能力の観点から「何を学ぶのか」そしてその内容を「どのように学ぶのか」という学びの姿が問われている。今回、誌上発表において、本県高校書道教育の取り組みを振り返ることができたことは、私自身の授業の振り返り、部会のこれまでの成果と課題の確認、これからの方針性を検証する上で、よい契機になつたと感じている。

宮崎県書道部会講習会・研究発表内容（昭和42年～平成29年）

年度	講 習 会			研 究 発 表
	内 容	講師(敬称略)	備 考	内 容
S 42	書 論	森田 子龍		
S 43	仮名・料紙	深山 龍洞		
S 44	篆 刻	梅 舒適		
S 45	近代詩文書	佐々木寒湖		
S 46	漢 字	殿村 藍田		
S 47	漢字・硯	安原 頌雲		
S 48	刻 字	長 揚石		
S 49	表具実習	落合 兼頬		
S 50	水墨画	服部 蕃		
S 51	中国の歴史	山内 正博		
S 52	文字学	今井 凌雪		
S 53	漢 字	古谷 蒼韻		
S 54	仮 名	平田 華邑		
S 55	墨 象	井上 有一		
S 56	漢 字	花田 峰堂		
S 57	西安碑林の研究 1	塙田 康信		
S 58	西安碑林の研究 2	塙田 康信		刻字に取り組んで ～生徒指導の経過と研修の成果～
S 59	文房四宝について ～硯の話・硯の鑑賞	相浦 紫瑞		県内書道教育の実態調査
S 60	書の時代性に関する学説の展開 内藤湖南の書とその背景	杉村 邦彦		秋月種樹の書について
S 61	篆 刻	関 正人		書道Ⅰ入門期の臨書指導について
S 62	仮 名	法元 康州		音楽を活用した授業の実践報告
S 63	水墨画	出水 勝利		
H 1	行草書作品について	近藤 攝南		導入期の指導について
H 2	料紙の加工法	山部 一翠		新・現学習指導要領の比較
H 3	書道教育について・隸書講義	田中 東竹		学習指導要領を踏まえた 表現と鑑賞についての扱い方
H 4	陶芸実習	園田 一成		県競書大会課題に取り組んで ～少字数創作実践報告～
H 5	少字数の書	戸田 提山		印についての研究
H 6	佐久市立近代美術館 書道博物館・国立博物館		県外研修（任意参加）	芸術科を中心とした 各校の単位表を比較して
H 7	漢字仮名交じりの書に ついての理論と実践	村上 列		65分授業の現況と課題 県内書道教育の実態調査
H 8	書の歴史と現代への展開 ～古典から創作までの実作と これからの書について考える～	陣 軍陽		鑑賞指導による古典への 認識の変化と自運作品への影響

年度	講習会			研究発表
	内容	講師(敬称略)	備考	内容
H9	創作実技講習	角井 一夫 上埜 雅則		これからの芸術科（書道）指導の在り方
H10	台湾研修		国外研修（任意参加）	条幅作品の研究 (王鐸の作品を中心に)
H11	漢字仮名交じりの書についての講演と実技	増田 朴翠		染め紙について ～紺紙銀泥経の紺紙をつくる～
H12	刻字	上埜 雅則		これからの書道教育が新たな展開へ向かうための一考察～学校設定科目からのアプローチを考える～
H13	淡彩画の技法	梶川 剛		中高一貫における書写・書道教育の実践と可能性について
H14	古代文字について	松清 秀仙		書道Ⅰにおける漢字仮名交じりの書の指導法 ～古典を応用した展開例～
H15	漢字仮名交じりの書	石飛 博光		篆刻 ～徐三庚の印について～
H16	漢字作品の創作について	有岡 郊崖		新しい評価の在り方について
H17	筆づくり	黒木まり子		宮崎東高校通信制の現状と課題
H18	講話と作品制作について	清野 芳孝		調和体「漢字仮名交じりの書」について
H19	水墨画作品制作実技講習会	黒木 知之		著作権について
H20	講話と作品制作について	平田 哲		書道Ⅰの授業改善と教材・教具の工夫
H21	感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業 「書道指導力向上講習会」～生徒参加型による指導法の研修～	大東文化大学 斎藤 公男 高木 厚人	H18～20まで高文連が県委託事業として実施していた「芸術家への夢はぐくむプラン」を引き継ぐ。	高等学校学習指導要領改訂のポイント
H22	感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業 「書道指導力向上講習会」～生徒参加型による指導法の研修～	大東文化大学 高木 茂行 高木 厚人		
H23	感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業 「書道指導力向上講習会」～生徒参加型による指導法の研修～	大東文化大学 河野 隆 高木 厚人		授業実践研究 書道Ⅰ楷書の学習 「九成宮醴泉銘」 書道Ⅱ隸書の学習 「乙瑛碑」
H24	感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業 「書道指導力向上講習会」～生徒参加型による指導法の研修～	大東文化大学 斎藤 公男 高城 弘一	「感性を育む芸術教育指導力向上支援事業」の一環として中学校国語科教諭参加	授業実践研究 書道Ⅰ行書の学習 「蘭亭序」 書道Ⅱ草書の学習 「書譜」

年度	講習会			研究発表
	内容	講師(敬称略)	備考	内容
H25	感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業 「書道指導力向上講習会」～生徒参加型による指導法の研修～	大東文化大学 高木 茂行 高木 厚人	「感性を育む芸術教育指導力向上支援事業」の一環として中学校国語科教諭参加 三浦教諭による書写指導の要点と実践講座	授業実践研究 書道Ⅰ漢字仮名交じりの書 「名筆を生かした表現を理解し、工夫」 書道Ⅱ漢字仮名交じりの書 「名筆の鑑賞に基づき表現を工夫し、個性的に表現」
H26	感性を育む芸術科教育指導力向上支援事業 「書道指導力向上講習会」～書写教育についての講習～	東京学芸大学 長野 秀章	中学校国語科教諭と高校芸術科書道教諭合同実施	授業実践研究 書道Ⅰ行書の学習 「蘭亭序の鑑賞と臨書」
H27	宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業 「書道指導力向上講習会」～教育コーチングスキル養成講座～	産業能率大学 鈴木 建生	「宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業」の一環として中学校国語科教諭対象の「中学校書写実技研修会」を実施。講師は青山浩之先生（横浜国立大学教授） 「宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業」の一環として「宮崎県伝統文化教材の研究・開発」をH29までの3年間、3名の教諭で実施。研究主題は「郷土の歌人若山牧水の短歌を題材にした作品例の研究」	授業実践研究 書道Ⅰ行書の学習 「風信帖の鑑賞と臨書」
H28	宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業 「書道指導力向上講習会」～漢字仮名交じりの書の制作～	大東文化大学 永守 苍穹	「宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業」の一環として中学校国語科教諭対象の「中学校書写実技研修会」を実施。講師は青山浩之先生（横浜国立大学教授）	授業実践研究 書道ⅠⅡ漢字仮名交じりの書 「郷土の歌人 若山牧水を題材とした創作授業」
H29	宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業 「書道指導力向上講習会」～新学習指導要領改訂のポイントと指導助言～	東京学芸大学 加藤 泰弘	「宮崎の魅力発信 芸術教育総合支援事業」の一環として中学校国語科教諭対象の「中学校書写実技研修会」を実施。講師は青山浩之先生（横浜国立大学教授） 「書道指導力向上講習会」の指導助言については全高書研研究発表中間報告、県内書道教諭の普段の授業について行った。	授業実践研究 書道ⅠⅡ 「郷土の歌人 若山牧水を題材とした漢字仮名交じりの書」もしくは「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

鑑賞授業の一考察～一年間を通じての展開～

岡山県立岡山朝日高等学校 教諭
後 神 直 子

一 はじめに

本校は平成三十年に創立百四十四周年を迎える伝統校で、現在は一学年九クラス、生徒数が全校で千名を超える全日制普通科高校である。卒業生は各界で活躍しており、文化芸術方面にも多くの人材を輩出している。

生徒は「自主自律」「自重互敬」の教育方針のもと、学習や部活動に積極的に取り組み、毎年国公立大学に二百数十名が合格し（過年度卒生を含む）、部活動でも全国高校総体や全国総文祭などに出席している。

校地は旧制第六高等学校の大な跡地を受け継ぎ、楠や銀杏の大樹を始め多種多様な樹木、草花が生育する。東には操山（みさおやま）が迫り、借景となつて自然の情景が更に深く豊かに感じられる。春には早朝鶯の鳴き声も聞こえ、生徒は四季折々



正門からの風景

自然の息吹に包まれて学校生活を送っている。

芸術の授業は、音楽、美術、書道から選択し、第一学年では「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「書道Ⅰ」が必履修である。第二学年からは生徒の進路希望に応じて選択することができる。

本校が取り組む文化行事の一つに、資料館特別展がある。毎年創立記念日に合わせて、主に文化・芸術分野で本校にゆかりのある方々の展覧会を、校内の資料館展示室で一週間程度開催している。過去には絵画展、書道展、染織展、彫刻展などを開催し、凡そ三十年に渡り取り組んでいる。

書道の授業ではこの特別展を、生徒が様々な分野の芸術の表現、感性の世界に触れる機会として取り入れ、作品鑑賞を行つている。

二 鑑賞授業の展開

高等学校芸術科「書道Ⅰ」では中学校国語科書写における学習を基礎にして、表現及び鑑賞についての幅広い活動を開拓し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことをねらいとしている。それに伴つて、生徒の従来の書に対する感覚を芸術の世界へと拓いていくことが求められるが、芸術の書の入り口に立ったばかりの生徒にとって、芸術科書道への意識の展開はなかなかスムーズにはいか

ないようであり、また、鑑賞の際に生徒の使用する言葉は内容が絞り込めないことも、この期には多く見受けられる。生徒の感じ取る力や思考する力を育てていく鑑賞授業とは…と、これまでも試行錯誤を重ねてきたが未だ模索の中にある。

本誌で紹介する取り組みは、生徒の主体的な幅広い活動を通して感性を高め鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、生徒自身が受け止めた、自己の内面の感覚を表出する言葉を考え、選び、他者へ伝えることができると、言語活動能力を涵養することを目標としてここ数年間実施しているものである。

鑑賞授業の取り組みは、導入から発展までを一年間で一まとまりとなるよう組み立てて実施している。その主として行つた授業の流れは次のようである。

「書道Ⅰ」で実施した一年間の主な鑑賞授業の展開

(平成二十九年度の実践より)

三学期	一学期	二学期	三学期
	1 四月 あついなあを見つけよう（美の発見）	2 六月 「顔氏家廟碑」の鑑賞	5 一月 美の発見 （美の発見の感動を元に「漢字仮名交じりの書」を作成する）
	1 四月 あついなあを見つけよう（美の発見）	3 十月 岡山県立美術館特別展の鑑賞 「慈愛の人 良寛」—その生涯と書	4 十一月 資料館特別展の鑑賞

1 四月 あついなあを見つけよう（美の発見）

入学して間もない時期、芸術科書道への誘いとして、まず最初に生徒の感性に語りかける授業から始めたいと考え、毎年四月に校内散策に出かけ 美の発見を行つてている。

ゆつたりとした気持ちで自然の大きな呼吸の中に身を置き、自然の美を見つけ、鑑賞文を書く。この美の発見・後に示す美の発見を元に作品制作をする実践は、本校前書道教諭の取り組みを筆者が受け継ぎ、現在まで継続しているものである。

生徒達は学習や部活動に日々忙しく時間に追われ、落ち着いて周りを見たり、じっくりと自分に向き合つたりする心のゆとりを持つことがなかなか難しい。

美は生徒一人一人の身の周りに確かに存在しているが、普段は何を思うでもなく通り過ぎてしまつていることも多いだろう。

自分が美しいと感じる（感動する）ことを心にしつかりと受け止められる感性は、芸術の大切な根っこの一つであり、書道の授業においても育成していく力だと考えている。

本校の一授業時間は五十五分であり、「書道Ⅰ」の授業は二時間連続で行つてている。

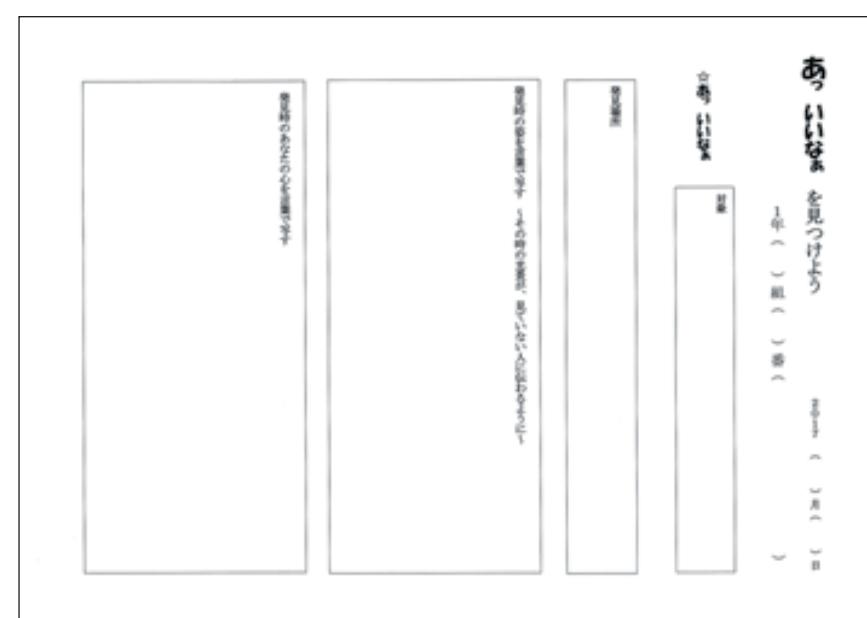
授業は、初めに校内散策の目的について説明。発見した自然の美についてのレポートを書いて提出することを連絡する。生徒はその後四十分程度の散策に出かけ、決められた時間までに書道教室に帰りレポートを書いて提出する。

多くの新入生にとって、授業でいきなり鑑賞文を書くことは難しく要領を得ないことのよう、生徒の書いた文章から感動の内容がうまく読み手に伝わってこない。何か、あまりくどくど書き方の説明をしないで、内容に深みの増す手だてはないかと思い、数年前に

鑑賞文記入用紙を改良した。

記入用紙の表題は「あついなあを見つけよう」という、生徒への課題が分かりやすい表現を使い、レポートの記入欄を、発見した光景と心の内を記す二欄に分けた。生徒には、感動の光景・自分の思いを言葉でそつくり写し取るよう

に、言葉にこだわりをもつて記入する。その際、十分に考え、心の内を表出するのに最も適切な言葉を選びとることとの説明を行った。



くり写し取るよう

に、言葉にこだわりをもつて記入する。その際、十分に考え、心の内を表出するのに最も適切な言葉を選びとることとの説明を行った。

- 因みにこの二欄の内容を合わせると自動的に簡単な鑑賞文になるのではないかと考えており、導入期にはまず記入内容の充実を図る端緒を開くことから開始した。
- 生徒にはこの授業以後、自分の周囲をよく見て、あついなあを毎日見つけること。授業以外の日常生活においても言葉を考えて使うことを実践してほしいと伝えている。
- 2 六月 「顏氏家廟碑」の鑑賞
- 生徒はこれまでに「牛欄造像記」「九成宮醴泉銘」を学習しており、古典の鑑賞や臨書に慣れてきた頃である。「顏氏家廟碑」は、生徒が自力で様々な角度から鑑賞を行うには取り組みやすい古典であると考え、一学期の後半に生徒全員で作る鑑賞授業を設定した。
- ### 学習活動
- まず初めに、生徒個人で「顏氏家廟碑」を鑑賞し、プリントに記入する。
- 続いて「有道」の二文字を半紙に臨書し、臨書を通して気づいたことをプリントに追加記入する。
- 鑑賞で掴んだ「顏氏家廟碑」から感じ取ったイメージで、印象が顕著であると思われる事柄を取り上げ、それを表現するに適した言葉を一語で考え方記入する。その際、辞書を活用する。
- 次に六人程度のグループで個々の鑑賞を発表し、グループ用のプリントに記入する。グループ内でも「顏氏家廟碑」の、印象が顕著であると思われるイメージを選び、それを表現する言葉を一語で考える。
- 最後にグループ毎に「顏氏家廟碑」から感じ取ったイメージを表現するのにふさわしい語、結論に至るまでの思考過程を発表し、他のグループは質問を行う。グループ毎に考え方記入した語はホワイトボードに書き溜めておく。
- 全てのグループ発表後は、「顏氏家廟碑」を多角的に表現する語がホワイトボードで一覧でき、教師がそれを使ってまとめを行う。
- この後は「顏氏家廟碑」の臨書へと授業を進めていき、生徒は深めた鑑賞を取り入れながら書の特徴を確認し、どのように筆を使う

とこの特徴が表現できるのか等を考える。

書の表情は様々な要素が一体となることで生まれてくるが、その要素の中で、例えば筆圧、筆のバネ・開閉、運筆のリズム・呼吸・スピード、空間の動き、書者的心持ち等、線に内包され、視覚的には捉えにくい事柄にも視点を移し、感じ取る力を育成したいと考えている。しかし大変難しいことであり、すぐに内面深く迫つていただけるものではない。生徒には、目に見える表現の内にあるものを常に考えながら書と向きあつてほしいと話している。

また書のことに限らず、日常の生活の中でも見えないものへ思いを馳せる意識を持ち、ものの本質を見つめる姿勢で学習に取り組むことが大切であることを、この時期に鑑賞授業を通して伝えていきたい。

「顔氏家廟碑」鑑賞活動の生徒の感想

- ・グループ発表の時は、さらに自分たちのグループで出ていなかつたことが他の班で出てきたり、発表に対して疑問を持つたりして、考え方をもつと深めることができた。
- ・グループの話し合いで、様々な意見や見方を聞き、あたらしく発見できたのはよかつたが、もう少し質問にきちんと答えられるよう準備しておけばよかつた。
- ・中学生の時から思つてることだが、グループ発表は必ずや新たな発見が得られるものだ。視点が違うから当然だといわれば当然だが…。今回もこれにもれず、新たな発見があつた。一例として、教科書にある重厚さには気づけなかつた。いい言葉が使われていると思う。
- ・鑑賞は、書を書くことより難しく感じた。
- ・「一語で表すと」という欄には、同じ言葉を考えていても、その語

にこめた意味が違つて、おもしろかった。

・グループで話すと、それぞれの持つ感想が共通部分と、明確に異なる部分がはつきり分かれ驚いた。

・グループ研究では、自分の思ったことをイメージ通りに伝えるのが難しかつた。

・グループ内で集まつた意見が多すぎて、うまくまとめるのが大変だつた。

・大勢いることにより、話し合いに参加しづらくなつていた時が合つたので、そこは改善点かなと思う。

3 十月 岡山県立美術館特別展の鑑賞

「慈愛の人 良寛」—その生涯と書

本校は、岡山城や岡山後楽園を中心に美術館や博物館、図書館などが集まつてゐる地域（岡山カルチャーボーグン）に近く、書道の授業で美術館に出かけることがある。

観覧内容は書に限つたものではないが、生徒が美術館を体験すること、本物の作品を自分の目で直接見ること、幅広く作品鑑賞を行うことでの表現の多様性や豊かさを味わい、感性の幅を広げていくことを目的として実施している。

平成二十九年度は岡山県立美術館で良寛展が開催され、書道の授業には好機であつた。

生徒は徒歩か自転車で現地集合し、講座修了後現地解散する。学校と県立



岡山県立美術館 フロアーレクチャー風景

美術館の間は徒歩で片道三十分、往復で一時間移動時間に充てているため、美術館の滞在時間は一時間程度である。

美術館では最初に学芸員の方から、良寛の生涯と書について、会場を巡りながら解説をいただき、その後自由鑑賞を行った。

一学期の授業を基礎に二学期は実際に作品の鑑賞文を書いていくが、美術館講座については、その講座内容から鑑賞と感想を盛り込んだ内容とし、次回の授業で提出することとした。

生徒の鑑賞・感想文

・今回自分としては初めて書の鑑賞をしたのですが、授業や説明をふまえて様々な観点から見ることができ楽しかつたです。良寛の

書を見て感じたのは、ひょうひょうとした自由さでした。それは、例えば線が細くうねって、流れるような筆づかいを感じせるものであつたことや、はじめはにじむほどたっぷりと墨をつけ、それがかすれて見えるか見えないかというところまで使いきられる書が多く見られたことからだと思います。しかし、少し引いてみた時に、そのひよろひよろとした字が一体感を生んでいたり、一方で点々と字が浮き上がっているように強調され、迫力のある書になつていていたりとそれに違つたはたらきをしていることが見てとれ、独特な書に秘められた良寛のかしこさとはこういったところではないかと思いました。今回は良寛でしたが、また他の書を見て比較してみても楽しそうだと感じました。

・良寛の生涯と書について学んで感じたことは、森であり魚であり人であり、この世の中に生きているものすべてへの愛を惜しまなかつたということだ。生涯、寺を持たなかつたのは、清貧の中で



平成27年度 染織展



平成25年度 書道展(漢字)



平成23年度 彫刻展

4 十一月 資料館 特別展の鑑賞

平成二十九年度は本校卒業生の日本画展を開催した。生徒は鑑賞文を提出。



平成29年度 日本画展



平成28年度 書道展(仮名)

あたりまえに存在するものに感謝の気持ちを持つという意味が込められているからだとも思つた。本物の書をこの目で鑑賞して思つたのは、良寛は大らかで優しく誠実な人であつたということだ。行書・草書はなめらかで筆の運びを頭の中で想像することができた。毛の一本一本まで丁寧に書かれていてかすれさえも美しく感じることができる。一方で楷書からは堂々とした風格が伝わってきた。学芸員の方の話で、良寛の生涯から学んだことは、自分の才覚に応じて人生選択をするということだ。これから生きていくうえで様々な選択をすると思うが、自分の才が發揮されるかななどと考えることも大切だと思う。

5 一月 美の発見

(美の発見の感動を元に「漢字仮名交じりの書」を制作する)

三学期は一・二学期の学習の発展・応用として、美の発見を元にした「漢字仮名交じりの書」の作品制作を行つてゐる。

生徒は四月に、「あついなあを見つけよう」で一度美の発見を行つてゐるが、今回は真冬の一月である。前回とはがらりと自然の様相が変わり、どのような美を見つけてくるのか楽しみな場面である。更に今回は美の対象を写真撮影してくることを加え、自分の発見した美をありのままに視覚化するために、カメラアングル、対象までの距離、部分を撮るのか全体を撮るのか等々、十分に工夫して撮影するよう指示をした。

美の発見を元にした作品制作は、一学期からの授業を通して生徒が「書」について考えを深め自己を見つめる、一年間の総括の授業として位置づけている。生徒それぞれがどのように「書」を受け止め自分で消化していくのか興味深いところである。

「漢字仮名交じりの書」学習活動

- 漢字仮名交じりの書 学習活動

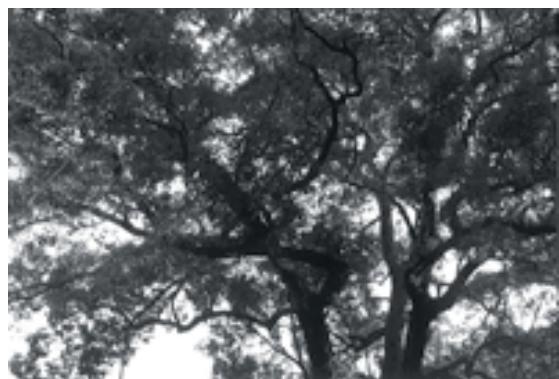
 - 校内散策を行い美の発見をする。
 - 発見した美の光景をデジタルカメラで撮影する。
 - 書道教室に帰つてプリントし創作レポートに貼付する。
 - 発見した美の鑑賞文を書く。
 - 美の発見の感動から漢字仮名交じりの表記で、俳句・短歌・詩・散文等を自作する。
 - 自作した言葉で「漢字仮名交じりの書」の作品を制作する。(古典からヒントを得る)
 - 作品を軸装仕立てにし、展示して鑑賞する。



美の発見 風景

生徒の発見した美の光景と鑑賞文

- ・周りの木々が冬の厳しい寒さの中で、枯れて葉を散らしている中、一際堂々と、そして青々と葉をついている巨木に目が引かれた。その木からはすでに巨木であるにも関わらず、さらにその体を広げようという、生への意欲が感じられた。幹は分かれ、それから伸びる枝々は蛇行しながら、天に向かい凍てつく冬の陽を浴びて美しい陰影を生みだしている。しかし、根本はしっかりと地面に根をはり、不動の体を保っている。そのあまりにも巨大で堂々とした、決して揺らぐことのない生と対面したとき、人間というあまりに矮小な生は、ただただ見上げるばかりである。
- ・私が雨の冬ならではの景色を探していると、木から今にもしたたり落ちそうなしづくを見つけました。写真では一部分ですが、ほとんどの枝の先にしづくがついていて、色のないクリスマスツリーのようでした。色のない景色というのも冬らしく美しいかな、と思つて見ていたけど、一瞬日の光が差し込んでうつすら青色になり、きらきらしました。それにより、目の前がイルミネーションいっぱいの場所にいるような景色になりました。気持ちもその場所へ連れて行かれたような気持ちになりました。宝石に負けないくらい美しかったです。

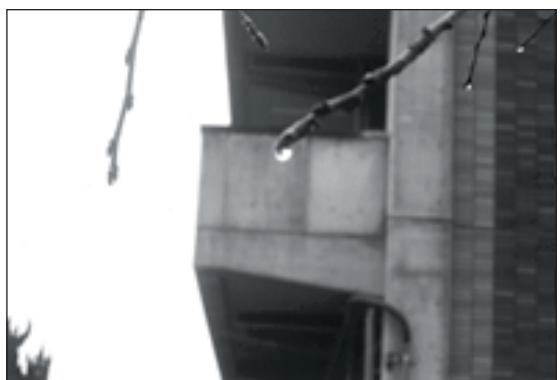


三 おわりに

鑑賞授業は筆者にとって大変難しいと感じられる授業である。本発表の初めにも記したことだが、未だ模索の中にある。何か一つでも確信を得た方向性を掴むことは出来ないものだろうかと、このことが常に頭の中にある。

感性と感性とのやりとりの中では、生徒の感性に授業者の感性が迫り落ちそうなしづくを見つけました。写真では一部分ですが、ほとんどの枝の先にしづくがついていて、色のないクリスマスツリーのようでした。色のない景色というのも冬らしく美しいかな、と思つて見ていたけど、一瞬日の光が差し込んでうつすら青色になり、きらきらしました。それにより、目の前がイルミネーションいっぱいの場所にいるような景色になりました。気持ちもその場所へ連れて行かれたような気持ちになりました。宝石に負けないくらい美しかったです。

木の葉からしたたり落ちそうなしづくも趣があつたけど、落葉し、さみしくなつた枝からしたたり落ちるしづくの方が暗い洞窟から見える光のようで、より輝いて見えました。閑静な場所に雨が恵んだ幻想的な光景は私の心にも日の光を与えてくれました。



最後に、三学期の最終授業で生徒が記入した、一年間の学習を終えての「美の発見についての感想」を紹介し、本発表の締めくくりとしている。

美の発見について 生徒の感想

- ・この一年間を通して、今まで「書」というものの表面にしか触れてこなかつたが、書の奥を少しのぞくことができたと感じている。「美」の発見は、「書」の奥に触れるためには必要なことで、この経験があつたことで「感性」について気付かさせてくれた。

一年間で校内の美を発見する機会が二回（春・冬）あり、同じ場所でも季節によって魅力や受ける印象が違つていきました。春は太陽の光を受け輝いている木々。冬では、枯れ葉が特に魅力的でした。また、授業の帰りに二階から見る夕焼けは、立ち止まり、写真におさめたいほどに美しかったのを、いつでも思いだせます。景色だけではなく、書でも美しいと思うことがたくさんあります。筆者の書を愛する心が私たちにも伝わって、発見することができます。

四季折々の自然に目を向けることは直接的に書に関係してくることはないが、何故か表現したいことというのが自分の書を通じて表ってきた。感性と書というものは、なんだか表裏一体なものだなと思えた。

自然から美を探し、見つけた物を書で表現するというのは、初めてのことでした。見つけた「美」から文字や言葉をいくつか連想することでの、より良い言葉選びが出来たと思います。

今まで美を発見することが出来るのは目だと思つていたけれど、木や花が発するにおいや、川に水が流れる音や、鳥や虫の鳴き声

を、鼻や耳で感じられて、美を全身で発見することができました。

・「美とは何か」と聞かれれば「何でも、全て」と答えられるようないまいなものだと感じた。何人かのグループで、美を探しに行くことが、この一年で二回あつたが、美を感じる場所は人それぞれ、同じ場所でも、一人は池、一人は池の上の枝というように対象が異なる。もしかしたら、同じ人でもその時の気分によつて、美しいと思うものが変わるかもしない。ある意味、全ての物や事象が美しいと言えると思う。

・一年間の美の発見について一つ気付いたことがある。それは、自分が山や森よりも海や川の方が好きだということだ。確かに木のこもれ日の美しさは筆舌に尽くしがたい。しかし自分は、それよりもはるかに水面に反射する太陽の光の方が好きだ。色であつても透明のようであつて透明ではない、水色のあの絶妙な色彩加減がすばらしい。このようなことから、自分の好きなものが分かったことは非常によい収穫となつた。

・日常で目にする風景はただ見るだけだとありふれたものだが、心を開き、詩人にでもなつたようなつもりで観察するとたくさんのが隠れていた。逆に心に余裕がないと周りのいろいろなものや人に對してイライラしたりふさぎ込んだりしてしまうものだが、美を探そうとすると様々なことを身の周りの自然やものから感受して次第に心が開けていくような感じがした。そうすることで自分自身と向き合うことができた。これからも余裕がない時こそ周りの美と向き合つていきたいと思う。

「確かな学力」の育成を目指した

教科指導の工夫改善

熊本県立八代清流高等学校 教諭

山 本 瞳 美

一 はじめに

本校は、熊本県の県南に位置し、県の再編整備計画によつて「八代南高校」と「氷川高校」を再編・統合し、設立された県内初の進学重視型単位制普通科の高校で、本年度で七年目を迎える。一〇〇を超える科目を設定し、生徒の興味や進路希望により幅広い選択が可能である。生徒の持つ個性や能力に応じて、多様な入試に対応することで生徒の夢が実現されている。

また、三綱領「自律 進取 錬磨」に基づき、徳・知・体のバランスのとれた教育活動を実施し、生徒それが持つ良さや可能性を最大限に伸ばし、生徒の自律心の高揚を図り、自信に満ち溢れた生徒の育成を目指している。

八代亜紀さんが作詞作曲された校歌に、「山と川と 青い空と海 球磨川（たいが）の恵みに包まれて」とあるように、清流「球磨川」のほとりにあり、周辺には九州山地の山々や、海の幸に恵まれた不知火海が広がっている。そのような自然豊かな学舎で、生徒は、仲間や先輩・後輩、教師との絆を大切にしながら生き生きと学校生活を送つている。

二 本校芸術科の特徴と生徒の実態

本校での芸術科のカリキュラムは、一年次は「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」の3科目からの選択必履修、二年次以降は、書道に関する科目としては「書道Ⅱ」、学校設定科目の「学校設定書道」「総合芸術」を履修できる。しかし、二年次以降は他教科も含めての選択となり、ここ数年「書道Ⅱ」「学校設定書道」が開講されていない。このことから、ほとんどの生徒が書道の履修を一年次のみで終えることとなつているのが現状である。

一年間の授業を通して「生涯にわたり書を愛好する心情」を育みながら、どのような力をつけたいのかを明確にし、限られた授業時数の中で内容を精選し取り組むことの重要性を感じる。

本校ではほとんどの生徒が進学を希望しているが、明確な進路の方向性を見出せない生徒もみられ、家庭学習が定着していない生徒も少なくない。入試の形態が多様化する中、授業を通し、課題を見つけ、それを解決するための思考力や判断力及び表現力を身につけ、進路実現の一助としたいと考える。

今回は、一期生の授業で検証した内容の一部を発表させていただく。

三 実践1 導入部の工夫

(1) 授業のはじめに

本時の目標の明記と活動内容の確認。二時間連続の授業のメリツトを最大限に生かし、二時間の活動内容を生徒自らが把握し、目標を確認させることで、主体的な授業プランを構築することを授業に入る前に伝え、動機付けを行う。

(2) 古典学習において

導入において古典の鑑賞を行う。対象をじっくりと観察し、考え、想像することから、その対象を理解する力を育む。

- ① 単独での鑑賞
- ② 相互による意見交換
- ③ 発表

発表の中で出た生徒の発言を活かして、特徴の整理や目標の設定を行う。

四 実践2 臨書作品制作時の自己添削

- ① 改善点を三点に絞って作品に印をつけ、課題を明らかにし、具体的な改善ポイントを記入させる。
- ② 自己添削するにあたり、改めて古典と自身の作品を見比べることで鑑賞を深める。
- ③ 印をつけた三点に留意して練習し、一番良くできた作品と添削した作品を提出する。

生徒は、提出の際、添削した作品と一番良くできた作品を見比べ、少なからず自身の成長に気付くことができている。成長するためには、自身で課題を見つけ、その解決に向け意識的に努力することが重要だということに、生徒が気付くきっかけになるよう取り組ませる。

五 実践3『蘭亭序』の学習

(1) KJ法を用いての鑑賞

〈生徒の感想〉

- ・いろんな意見がでていろんな観点から見ることができた。

- ・自分では気付けなかつたことをたくさん気付けた。

- ・他の人は自分が気付かないことにも気付いていた。細かいところまで見ていた。

- ・一人のときよりもいい意見がたくさん出たのでグループ活動はいいなと思った。
- ・みんな同じところに着目していてポイントが分かった。
- ・ここまで書を深く考える機会が少なかった。他の書でも深く考えていくこう思います。
- ・自分と同じものもあれば違うものもあった。もつと視点を変えて鑑賞しようと思つた。
- ・じっくり作品を見るなどで特徴などを見つけることができた。

付箋紙に各自の気付きを書いた後に意見を出し合い、A3用紙に付箋紙を整理して貼りながらグループでの意見をまとめれる。

生徒の感想から、グループ活動により鑑賞を深められたことが分かり、学び合いができる雰囲気の大切さを実感した。

(2) 全臨

〈生徒の感想〉

- ・でき上がったのを見てみると、最後の方にかけて、字のめりはりが出ていて良くなっていた。

・完成して嬉しかった。初めてこの大きい紙を見たときは不安でしたが、最後まで書けて感動しました。

- ・字数が多くとても難しく大変だった。だけど蘭亭序を書くことを通して集中する大切さなどを学ぶことが出来た。蘭亭序のような書をもう一度書いてみたいと思つた。
- ・集中力のいる作業だつたけど書いていて楽しかった。
- ・書き終えるのにすごく時間がかかっただし同じ文字でも書き方が異なるので苦労しました。でも、書き終えたときに達成感がありました。

の後、皆の前で作品を示して発表を行う。

① 入学時

「テーマ 入学にあたつての決意や今思うこと」を書で表現することを伝え、その後「書体・書風・字数は自由」と板書すると生徒たちに戸惑いの表情が浮かんだ。自由に表現するということが生徒たちにとつて経験がなく、作業中も周囲を気にしてなかなか集中して紙に向かうことができない者も見られた。勇気を出して表現することや表現することの楽しさを知つてほしいという思いを伝えた。

② 二学期初め「字手紙」作成

文化祭での展示作品につなげる活動とした。

「テーマ 今思うこと／自身の在り方生き方について考える／」で、絵手紙の絵の部分にメインとなる文字を配置する構成とする。最後は色紙に清書をした。表現のねらいを明確にし、一学期に学習した古典を活かした創作ができた。初めて書く色紙の書き心地に苦戦しながらも楽しんで活動ができたようだ。

完成した後の達成感と蘭亭序の魅力の発見を期待した活動である。

完成後の生徒の感想にも、やり遂げた充実感を述べている者が多く、また、その経験をとおして得られたものに気付いた者もあつた。蘭亭序の鑑賞に深まりがあつた生徒も多かつた。

六 実践4 「生きる書」の創作

入学時、学期の初めなど、節目になる時に、自分を見つめ、自己の在り方や生き方を考え、表現しようという目標のもと作品を作る。そ



外見の表示名前 「黒板」の表示 1年① 黒 ■ 黒色 ■

家廟碑の古美を参考にして

- ・「真剣勝負」（新しい年の始まりで、何事にも真剣に取り組みたいから。）
 - ・「明日を見つけて今探すべき道」（夢に向かって明日への準備をして、一歩でも近づけるような思いで設定した。）
 - ・「初心」（総体もあるし、初心にかえろうと思い設定した。）
 - ・「新たな挑戦」（部活動が自分たち中心となり、また学校行事もそうなるので今とは違うことに挑戦できると思つたから。）

③ カレンダー作成

③ カレンダー作成

「なにを書くか」ということは、制作者の作品づくりに対する熱意そのものにつながるため、作品を制作する上で重要な鍵となる。テーマは「生」とし、三枚綴りのカレンダー制作に向け、真剣に題材を設定することから作業を始めた。少し未来の自分を想像し、自身について考え、その一日一日の重さを感じるきっかけにしてほしいという願いからカレンダーを用いた。

（生徒が設定した題材の例）

二月
三四月

- ・「前向き」（新しい年になるから、色々と不安なことがあると思うけど前向きに行こうと思つたから。）
 - ・「ここから始まる未来へつながる第一歩」（春は何もかもが一番最初に始まる時期である。ここから自分の未来が始まつておりそれからの第一歩という意味で決めました。）

生徒の感想

- ・皆の個性がよく出ていたと思いました。来年の自分を想像しながら作品と真剣に向き合えばすごくいい作品ができるんだと思いました。自分と向き合うことのできる時間だったと感じました。

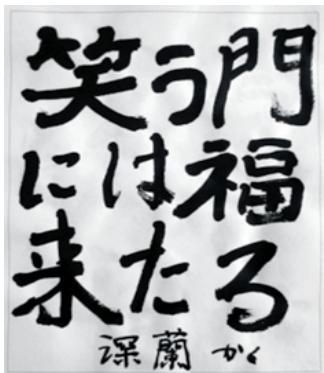
みんなの作品には、力強いものや優しく温かみのあるもの、軽やかなものなどいろいろな書風の作品があり、みんなの個性を見る事ができてとても嬉しかったし、楽しく感じました。みんなの作品には誰かを嬉しくさせたり楽しませたり喜ばせたり

するようないいものが含まれています。このいいものを表現することのできる書道というものはすごくいいなと思いました。表現がむずかしくて大変だと考えることもありますが、その中の工夫や考えも持てて、すごく喜びを感じられて人の心を表現できるすばらしいものだと感じました。この書道で学んだものを生かして行きたいと思いました。

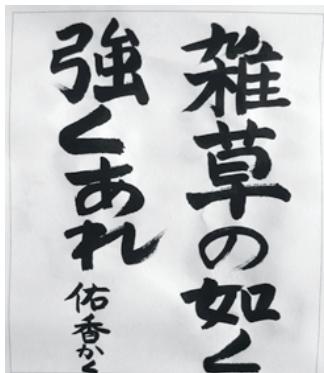
- ・作品に思いが込められているような字だつたり、工夫したところやこだわったところがよく伝わるような作品ばかりでした。個性があり、鑑賞していくとても楽しかつたです。作品に自分なりの思いを表現することの大変さや楽しさを感じる事ができました。
- ・後々、自分の気持ちを引き締められるようなものになるといいと思つた。
- ・このカレンダーが家にあるとやる気が出ると思います。

その時期に合わせて、自身に向き合つた題材を決定することができた。「なにを書くか」の次は「どう書くか」である。その言葉や気持ちをどのように表現したいのか意図を明確にさせ、その表現を目指すために古典や字典等を参考にして、構成を考える。三つの創作において、①蘭亭序を参考にした漢字作品②漢字仮名交じりの書の作品③教科書にある古典等を参考にした作品、という決まりの中で、各時期に合わせた題材とそれに合う①～③の表現方法で草稿を練つた。

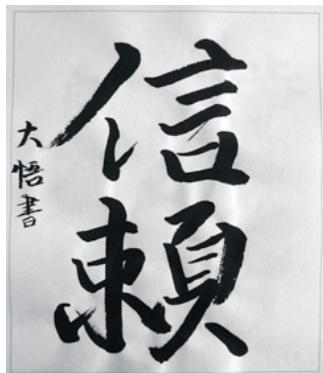
毛筆での練習の中でも自身の意図に沿つた工夫を重ね、仕上げまで熱心に紙に向かうことができた。最後にカレンダーに書き入れる時は、緊張感が漂い、じつと紙を見つめなかなか筆を入れることができない生徒もいた。書き終わった時に深い溜息をつく生徒もあり、集中と程よい緊張の中で作品づくりを終えることができた。自己表



③教科書にある古典等を参考にした作品



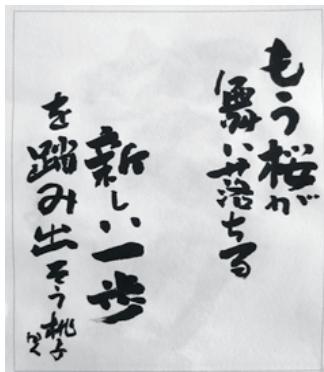
②漢字仮名交じりの書の作品



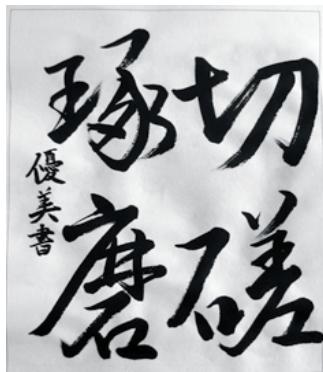
①『蘭亭序』を参考にした漢字作品



③教科書にある古典等を参考にした作品



②漢字仮名交じりの書の作品



①『蘭亭序』を参考にした漢字作品

現ができたことによる充実感を得ることができたようであった。創作後は発表会及び鑑賞会を行い、それぞれの作品に込めた思いなどを共有することができた。鑑賞会のねらいを理解することで自分の作品を堂々と発表する生徒が多く、楽しい時間となつた。

七 実践5「身の回りの書」まとめ（長期休業中の課題）

身の回りにある書に気付き、書が現代生活の中で果たしている役割やそのよさを感じることをねらいとし鑑賞の能力を育みたいと思い、長期休業を利用して課題とした。見やすさを考え、レイアウト等を工夫したものも多かった。

事前に予告をしておき、まとめたものを皆で鑑賞した。鑑賞しあうことでの自分では気付かなかつた新しい発見をしたり、まとめ方などの学び合いにもつながる活動になつた。



八 実践6 毎時の授業の記録

本時の目標・工夫点・感想と次回の課題を書く欄を設け、毎時間記録をつける。その日のねらいとしたことを確認し活動を振り返り、次の時間へつなげるきっかけとする。感想や課題から生徒の活動の深まりや学び、生徒の視点を把握でき、私自身の次への課題となることも多いと考える。

九 成果と考察（生徒の意識調査から）

各項目について、十月と二月の二回、アンケートを実施した。二月に実施した際には、併せて四月もしくは単元学習初期から二月の授業までにおいて、各項目でどのような意識の変化が生徒自身にあつたのかを問うアンケートも行つた。以下はその結果である。

Aは十月、Bは二月、Cは四月もしくは単元学習初期から二月までの生徒自身の意識の変化をそれぞれグラフ化したものである。

〔選択肢〕

5…とてもそう思う

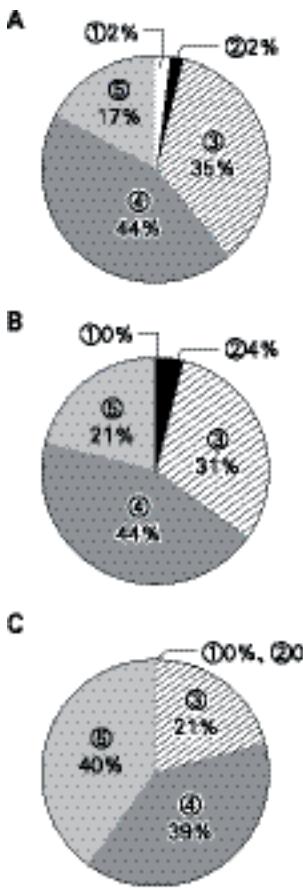
3…どちらとも言えない

1…まったくそう思わない

4…どちらかと言えばそう思う

2…どちらかと言えばそう思わない

1 臨書が好き



〔臨書についての感想〕（二月調査から）

- 字が上手になる近道だと思う。
- 時代や種類によって書き方や特徴が変わるので面白い。
- 今まで知らなかつた字を書くことができるので楽しい。皆集中して取り組んでいて落ち着いた時間を過ごすことができるので良い。
- 前半ではただ手本を見て書いていたけど、後半からは特徴や書き

方を注目しながら書くことができた。

・四月に比べるとどんなふうに表現するのかや筆遣いをとても気にするようになった。

・難しい。しかし、書けたときに達成感がある。

・その文字の特徴をとらえてその時代のことを思いながら書くことで新しいことが見えてきたりした。

・古典の特徴を考えながら書くのは難しいところだが、それも一つの面白さ、楽しさだと思えるようになった。

・知識を生かす単元だと思う。

・自分の思いを書で表すことはとてもすばらしいと思う。

・得意ではないけど、自分の考えや意志をいろいろな形で表現できるので楽しい。

・自分で書く字を選んだり、書体も自分で決めたりと特にカレンダー作りは仕上げるのが楽しみだつた。

・自分で書くことは難しくいつも与えられたものしか書いていなかつたため、創作することで発想力・創造力が充分發揮できたと思う。

・自分の考えや思いを素直に表せる。

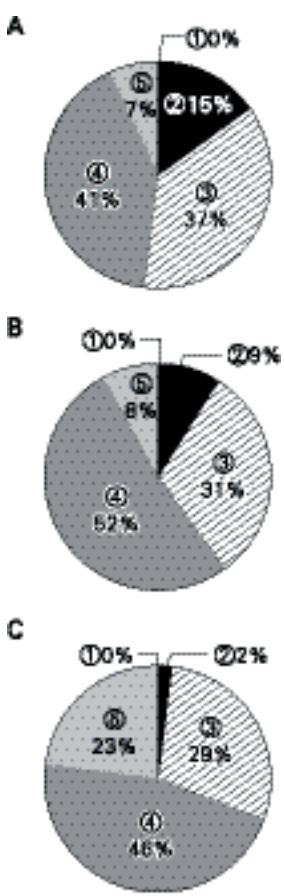
・考えるのも難しく大変だったがやりがいはあった。

・いろんな書物を参考にして自分なりに工夫して書いてみて表現力と自由な考えがいると思った。

・自分が思っていること、考えていることを表現することの楽しさを知ることができるものだと思う。

・自分の考えたものを自分なりに表現して創作するのってこんなに難しいのか！と思いました。

・自分の思いを伝えるために考えて、どうすると良くなるかどんどん良くするためには工夫点を増やすところが楽しく感じるようになりました。



2 創作が好き

臨書に重きを置いた学習は十月までが中心であった。十月の調査後に行つた臨書としては、蘭亭序の全臨と仮名の臨書である。十月中旬から下旬にかけて行つた蘭亭序の全臨では、時間をかけ長文を完成させたということで達成感を感じた生徒が多かつた。Cの「1」「2」の回答が0%であり、「4」「5」の回答が79%であったことから、古典学習をとおして、書風による書美を感受する力が深まつたということが言えるのではないかと思う。

（創作についての感想）（二月調査から）

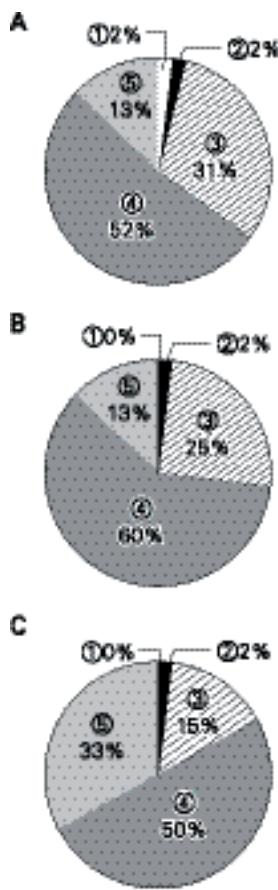
- ・自分の気持ちを表現するのが楽しかつた。

創作で表現することに難しさを感じている生徒が多いことが分かつたが、その中に楽しみややりがいを感じている者も少なくなく、書表現を通して、学びを発展させる楽しさや、困難の先に喜びがあることを実感できたようである。

創作の活動を通して学習に深まりがあつたように感じられる。創作から鑑賞するまでの過程には、表現力だけでなく、思考力・判断力・

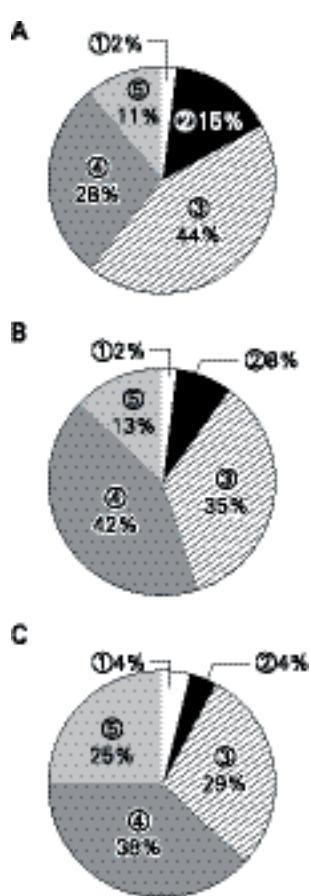
選択能力・課題発見能力・課題解決能力・よりよいものを求める力・決断力・集中力・忍耐力・コミュニケーション能力・鑑賞力・個を認め合う力など、あらゆる力が求められる。生徒一人一人が、限られた時間の中で学習したこと(古典)を生かし、自分の表現につなげることができたという実感や達成感を得ることができた。このことは大きな成果だったと考える。

3 特徴や意図を考えて書く



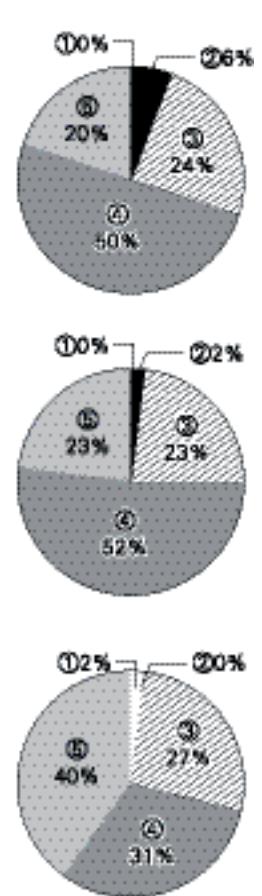
臨書は、その古典の特徴を、創作は、表現の意図を考えて表現することが大きな目標となる。Cを見ると83%が「4」「5」を回答している。毎時の目標を示していくことや、特徴や意図を考えながら活動することの意義を伝え続けた結果、課題意識や目的意識が高まつたと考察する。

5 古典鑑賞が好き

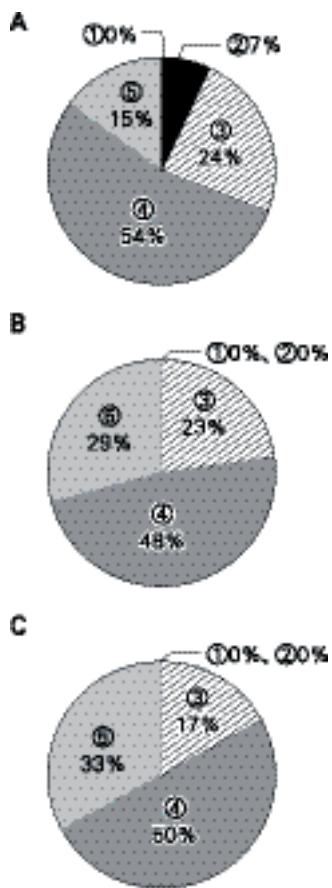


実践4の生徒の感想から、作品そのものを鑑賞することに加え、友人のその時々の思いやそこから生まれ出された言葉に興味を持ち、共感していることが窺えた。また、そこから自身の学びとつなげたり、書表現の魅力を見出すこともできたようである。鑑賞の活動は、他者を受け入れるという大切な心を育むことにつながると実感した。

4 鑑賞が好き（作品発表を聞く、見ること）



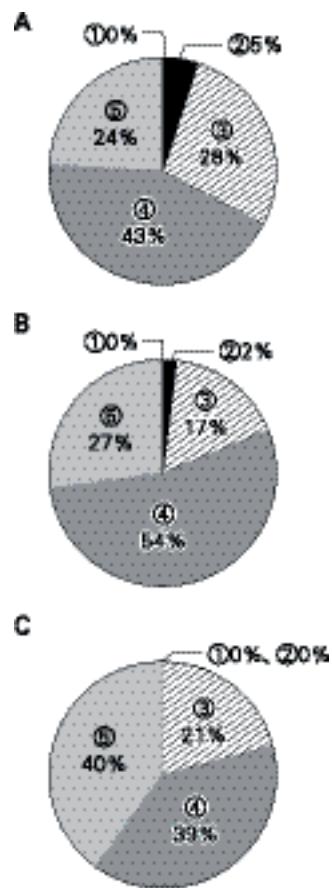
6 鑑賞と臨書のつながりはあると思う



5は、1の考察同様に、古典学習を通して、書風による書美を感受する力が深まつたということが言える結果となつた。
6は、Cの回答で「1」「2」は0%であり、古典を鑑賞することと臨書することとの関係についての理解を深めることができた。深く鑑賞することが表現につながるとの実感から、鑑賞の意味を理解したと考えられる。

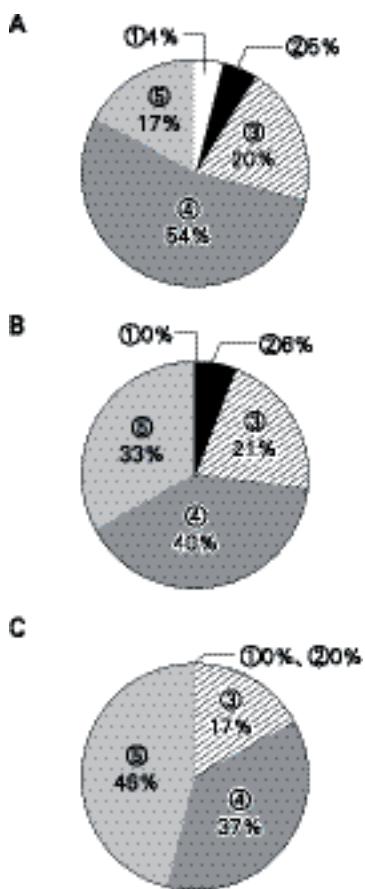
一方で、5・6から鑑賞の必要性を充分に理解しても、必ずしもそれが興味関心につながらないことが分かる。

7 鑑賞と創作のつながりはあると思う



- 〈鑑賞についての感想〉（二月の調査から）
- ・その時代での作品の比較とか違いが分かってとても勉強になつた。
 - ・自分の表現する幅が広がつたりするので良い。
 - ・たくさんの書の表現の仕方があつておもしろい。
 - ・これが一番自分のためになるのではと思った。
 - ・自分には他になかった部分や旨い所をまねできるなどと得ることがたくさんあるので鑑賞することはいいと思いました。
 - ・友人の思いや意志をその書から読み取ることが大事だ。
 - ・新しい発見があるので楽しい。
 - ・友人のいいところを見つけることができるのでいい。
 - ・自分の作品の向上につながつてきてていると思う。

8 鑑賞時に良さや特徴を探求している



Aには「2」の回答があつたが、B・Cでは「1」「2」の回答が0%となつた。ここにおいても4の考察と同様の結果を得た。書は、表現のほうに重きを置かれがちであるが、鑑賞をすることで相乗的に表現の可能性が広がるものである。活動を通して、鑑賞と表現の関係に気付くことができたと言える。

- ・特徴や他の作品との違いを見つけるのが楽しいし様々な表現の仕方を見つけることができる。

Cにおいては「1」「2」の回答が0%となつた。鑑賞する際の視点は、物事を見る際の視点のあり方にも影響すると考える。批判的に物事をとらえて検証していく方法もあるが、芸術的なものを見る時、その良さを感じ取ろうとするか否かで、その良さや美しさの感受に大きな影響があると考えられる。鑑賞力の向上は表現力の向上にもつながり、さらに、豊かな心の育成につながるものと考える。

十 課題

調査結果は、今後の課題となるものであつた。生徒の意識の高まりは成果として、また、生徒に伝えることができなかつた部分も事実として、しつかりと受け止めなければならない。また、あえて「どちらとも言えない」を選択肢に入れたことで、生徒の考えを曖昧なままで終わらせることになつたかもしれない。このようなアンケートも、それぞれの取り組みを振り返る機会になることを考えると、問い合わせ、答えをしつかりと出させる形を取るべきだつたと反省が残る。

年間の授業時数が限られる中で、各活動の割合やバランスをいかにとつていくかは、常にある大きな課題である。それぞれの活動が断片的なものでなく、総合的に深まりを持つものと考える。今後も生徒の実態に応じながら、活動の精選と教材の工夫を続けたい。

十一 おわりに

今回、特別な実践はなく、御覧いただいたとおり、書道の授業としてはごくありふれた形や教材と言える。ただ、その書道の授業に欠か

せない単元や教材をどのように扱うのか、何をねらうのか、授業者の意識次第で生徒の意識や定着の仕方に違いがあると考える。また、言葉の力は大きく、言葉の掛け方、言葉の選び方ひとつで、生徒の心へ響くものになるか否かも変わるとと思う。本校では、学校全体として生徒につけさせたい力を意識した授業の実践に取り組んでいる。本年度は、アクティブラーニングの観点から、「50分の授業の中で『やつてみよう』を一つは入れる」として公開授業等の研修を行う。書道は、「やつてみよう」がなくては成立しない科目だが、「一枚書いてください。」と「一枚書いてみよう。」では受け手のモチベーションは異なるだろう。生徒の目線になる、ということが重要である。させられている感覚ではなく、自らが挑戦しているという感覚で臨めば、活動時における達成感や成果も自ずと変化するであろう。

私は、生徒が真っ白な紙に筆を入れようとするその瞬間の表情がとても好きだ。自分を表現しようと自身と向き合っているような、緊張感のある真剣で誠実な表情である。今後も、生徒が自己表現をする場としてふさわしい空間となるような雰囲気づくりを大事にし、書の魅力や、なぜ高校で書道を学ぶのかを熱く生徒に語れる教師でありたい。今回、高校における芸術教育の意義について深く再考する良い機会となつた。生徒の心の充実を図りつつ、いかに生徒の学習を主体的なものにし、その結果、確かな学力を育成するかということを、今後書道教育に携わる中での自身の大きなテーマとしたい。そして、表現活動の中で確かな学力の育成を図り、心豊かな人格を形成するために欠くことのできない科目のひとつとして、この授業を担当する責任の重さを忘れず、実践をする中で迷つた時にはここに立ち返り、自己研鑽に努め、日々の授業に臨みたい。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

鹿児島県立吹上高等学校 教諭

久保美由紀

一 はじめに

鹿児島県南部に位置する吹上高等学校は、創立九十三年目を迎える歴史と伝統の学校である。「開拓・奉仕」を校訓とし、「技術と資格で未来を切り拓け」をスローガンに資格取得に取り組み、学力の向上と専門知識の深化、体力、道徳力の充実を図る工業系、商業系の専門高校である。三年間を電気科、電子機械科、情報処理科のそれぞれで学んだ生徒たちは、卒業後進学、就職とそれぞれの道に進んでゆく。例年、就職し社会人の仲間入りを果たす生徒たちは全体の八割を超える。

普通科を中心とした高等学校から専門高校へ赴任した私は、授業計画をするにあたり、社会へ出ていく生徒たちに必要な資質や能力を育てるために芸術科書道では何ができるか大変悩んだ。いや、今も尚試行錯誤しながら授業を計画している。ここでは、どのような授業改善が必要か試案し、平成二十八年度～二十九年度に公開した授業、失敗や助言から学んだことを報告させて頂きたいと思う。

二 学校の課題に基づいて焦点化した授業研究

平成二十八年度、本校は、授業研究実践校として鹿児島県総合教育センターの支援を受けることになった。支援といつても研究授業を参観、その後授業研究であれこれと助言したり情報を提供したりという

スタイルではなく、学校の実態に即して授業づくりの視点を定め、指導案作りから当日までの継続的な支援に加え、次の授業や他の授業に生かす授業研究のあり方、それをまとめるファシリテーターの役割などについても支援をするという、学校自体の活性化を図るものであった。

そして、本校の課題として授業づくりの視点が二つ決定した。

視点Ⅰ ユニバーサルデザインの視点

すべての生徒にとって分かりやすい授業を行うための、指導・支援の在り方について検討されているかという視点

視点Ⅱ I C T の活用に関する視点

情報教育の目標である生徒の「情報活用能力」の育成を目指し、授業において教員による I C T 活用と児童生徒による I C T 活用が具現化されているかという視点

学習指導案についてもこの視点を明確にしたものを作成することになった。教育センターから数回やり取りをし、教室の状態や教具についてまでアドバイスして頂いた。特別支援教育に携わっていらっしゃる先生にも見て頂き、支援の具体を示す指導案作成に取り組んだ。

3. 授業の実際

- ・単元名 漢字の書 1 楷書（東京書籍「書道I」）
- ・対象生徒 本校電気科 1年 書道選択者 男子11名
- ・単元の評価規準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	各古典の臨書・鑑賞を通して楷書の美とその表現技法に関心を持ち、積極的に取り組んでいる。	それぞれの古典の特徴を捉え、習得した技法を自身の表現活動に生かしている。	それぞれの古典について基本的な用筆法を習得し、用具・用材の特性を生かした表現の技能を身につけている。	鑑賞と表現の関連を理解し、書の美を感じ取り、自ら思考を発表することができる。歴史的背景や他者の意見から鑑賞を深めることができる。

- ・単元の学習計画（全10時間計画）

時間	学習内容	学習指導要領の内容	評価規準	評価方法等
第1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな楷書の古典を鑑賞し、その比較を通して多様な書美にふれる。 ・古典に基づく学習の方法を理解する。 ・古典の特徴を活かして一文字表現する。 	A(2)イ Bウ、エ	<ul style="list-style-type: none"> ・各古典の持つ書美を見しようと心がけているか。 ・書の美を積極的に鑑賞し、それぞれの美を感じ取り自らの言葉で表現できたか。（鑑） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・提出作品
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の比較を通してそれぞれの特徴と書法を理解し、楷書の基本的な用筆法を習得する。 	A(2)イ、ウ Bイ、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの古典の時代背景を理解し、鑑賞を深められているか。 ・各古典の表現技法を学び、必要な技術を身についているか。 ・字形・全体の構成など工夫が見られるか。（関）（技） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ学習の観察 ・グループ学習ボード ・提出作品（試書・清書）
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・先に学習した唐代の楷書と比較し、雁塔聖教序のそれぞれの特徴と書法を理解する。変化のある楷書の用筆法を習得する。 【本時1／2】 	A(2)イ、ウ Bイ、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの古典の時代背景等、知的側面からの理解ができ、鑑賞を深められているか。 ・各古典の表現技法を学び、必要な技術を身についているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・提出作品（試書・清書）
第4次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・先に学習した三つ古典と比較し、顔真卿の独特な書風を味わい、自書告身の特徴と書法を理解する。重厚な用筆法を習得する。 	A(2)イ、ウ Bイ、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・字形・全体の構成など工夫が見られるか。（関）（構）（鑑） 	

時間	学習内容	学習指導要領の内容	評価規準	評価方法等
第5次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の古典の学習を生かして倣書を試みる。 文化祭展示作品として色紙に仕上げる。 	A(2)ア、ウ、エ Bイ	<ul style="list-style-type: none"> 倣書の方法を理解し古典の特徴を表現するための工夫をしているか。 字形の構成を理解し、創造的な表現につなげているか。(関)(構)(技) 	<ul style="list-style-type: none"> 創作計画 ワークシート 色紙作品

• 本時の学習計画 (5/10)

(1) 本時の目標

- ① 雁塔聖教序の美とその技法に関心を持ち主体的に鑑賞・表現活動を行う。
- ② 自らの課題を見つけ工夫しながら、用筆・運筆を理解する。

(2) 準備するもの

生徒… 教科書、ファイル、書道用具、筆記用具
指導者… 教科書、ワークシート、プロジェクター、ipad、AppleTV

(3) 授業展開

- * 視点I … 特別支援教育に関する視点 (ユニバーサルデザインの視点)
* 視点II … ICT活用の視点

時間	学習内容	学習指導・支援上の留意点	* 視点とその工夫	形態	評価の観点
導入 5分	<p>1 前時の授業内容を振り返り、本時の学習内容、目標を知る。授業記録カードに学習内容、目標を書き入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 用具準備が完了し、生徒が説明を聞く状態になっているか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読みに注意させる (ワークシートの工夫) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 古典名：雁塔聖教序 (がんとうしょうぎょうじょ) 目標：変化のある用筆を理解して書こう </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視点I</div> <ul style="list-style-type: none"> 準備するものを板書 授業内容、目標等を示し、確認する。 	一斉	
15分	<p>2 古典について理解を深める。 教科書を参考にワークシートの記入を進めしていく。 * 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」と比較しながら鑑賞し、気づいたことを記録する。</p> <p>隣の人や近くの人と意見を出し合って話し合いをする。 [7分]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成するための大切な要素が何があると伝えておく。 <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを説明する。 [3分] すでに学習した二つの古典を端的に振り返り、比較して鑑賞するよう促す。 見るポイントをしぼってじっくりと鑑賞させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ① 起筆 (打ち込み) ② 縦画・横画 (太さ) ③ 似ているところ ④ 異なるところ ⑤ 疑問に思うこと </div> <ul style="list-style-type: none"> うまくすすめられていないグループには①～⑤の書けるところから始めるよう助言をする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視点I</div> <ul style="list-style-type: none"> 授業の見通しを視覚化。(板書・ワークシート一致させる) <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が活動しやすいように観点を示す。 	一斉 ペア グループ	古典を比較しながら気づいたことをワークシートにまとめられたか。 ワークシート (関)(鑑)

時間	学習内容	学習指導・支援上の留意点	*視点とその工夫	形態	評価の観点
15分	<p>気づいたことやまとめたことを発表する。他の意見を聞いて共有する。</p> <p>5分</p> <p style="text-align: center;">本時のポイント→露鋒と蔵鋒の使い分け</p> <p>露鋒・蔵鋒を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に発表してもらう。 生徒の意見をまとめながら、本時のポイントを伝える。 	<p>視点II</p> <ul style="list-style-type: none"> ポイントとなる部分を視覚化でわかりやすく共有（プロジェクト） 		積極的に意見を述べているか。 (観察・生徒との対話) 発表（関）
5分	<p>4 雁塔聖教序を理解するための筆づかいを知る。</p> <p>目標：変化のある用筆を理解して書こう</p> <p>大切な要素「筆の弾力」を実感する。</p> <p style="text-align: center;">↑</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆の傾きに注意させる。あえてうまくいかない方法も体験させ、正しい筆づかいを体験させる。 古典の持つイメージを伝える。 生徒の活動状況を見ながら助言をしていく。 	<p>視点II</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆づかいを動画で確認する。 	一斉	表現技法に関心を持ち、表現を工夫しようとしているか（関） (構) (技)
15分	<p>5 練習</p> <p>分析してみてわかったことや自分の課題をもとに「無比」の二字を練習する。</p> <p>練習段階の作品をもとに作品鑑賞する。</p> <p>よくなつたところをワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆順を確認する。 半紙の大きさに合わせた参考手本を配付する。 机間指導で個別に筆づかいを指導する。 前回書いた作品と比較させ、よくなつたところに気づかせる。 一部の作品を全体に紹介する。 	<p>視点I</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆の動きや空間のとり方を入れた手本を示し（視覚）ながら言葉とあわせて（聴覚）理解させる。 視覚的に本時の成果を実感させる。 	一斉 個別	作品をよりよくしようとした意欲的に表現活動ができるか。 作品（関）(構)
まとめ5分	6 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の評価、授業の評価をするよう促す。 次時の予告をする →本時の作品の清書 	<p>視点I</p> <ul style="list-style-type: none"> 提出するものを示す。（板書とワークシート） 	一斉	
5分	7 片付け	<ul style="list-style-type: none"> 片付けのために5分前にまとめを終える。 			

(4) 本時の評価

- 雁塔聖教序の美とその技法に関心を持ち主体的に楷書の美を味わうことができたか。（関）
- 感性を働かせながら、雁塔聖教序の美とその技法を学び自らの意図に基づいて表現を工夫することができたか。（構）
- 楷書のさまざまな線質と用筆・運筆との関係を理解することができたか。（技）
- 古典について幅広く理解し、その価値を考え他の意見を共有することで古典の美しさを感じ取ることができたか。（鑑）



今回、指導案作成から授業の実践を通して様々な授業の振り返りができた。「ユニバーサルデザインの視点」を意識したことで、指導案も実際の授業での生徒に対してもこれまでいかにあいまいな指示をしていたのかを思い知らされた。授業での活動がうまく進まない、注意が散漫になり集中力が持続しないことをいつも「生徒が〇〇だからだ。」「この生徒が〇〇するから周りの生徒もながされているのだ。」と、どこか生徒のせいにしていたように思う。しかし、それは私の授業の在り方、発する言葉のタイミングの悪さ、「〇〇してもかまいませんが、〇〇でもいいですね。」というはつきりしない指示の出し方が生徒の迷いを生じさせていた。授業研究で指摘されて気づくことも多い。

例えば筆の弾力を感じてもらうために持ち方を指導した際のことである。「まずは、いつもの鉛筆をにぎるように筆を持ち、書いてごらん。」と指示した。その後、筆管を立てて筆を紙に対して垂直にした状態で書いた時との差を感じて欲しいという考えであった。しかし、授業後の指摘で「鉛筆の握り方はみんなバラバラで、こちらの先入観で指示をするのは良くない。模範を示して共有化した方がよい。」とあった。教える側の先入観で生徒に指示をしない。必ずしもこちらのイメージと生徒のイメージは一致しない。視覚化で共有できるような工夫をすること。ユニバーサルデザインの視点で指導案を作成できても実践するにはまだまだ反省点が多い。

四 授業におけるユニバーサルデザイン化

そもそも「ユニバーサルデザイン」とはあらゆる人にとってわかりやすく、使いやすいデザインのことで、一九八〇年代にノースカロライナ州立大学（米）のロナルド・メイス教授が提唱したものであるという。授業のユニバーサルデザイン化について分析されたものをまと

めてみる。

（参考文献：『通常学級のユニバーサルデザイン プラハZero』『通常学級のユニバーサルデザインプランZero2』 東洋館出版社）

ユニバーサルデザイン化された授業の五つの特徴

- 「ひきつける」
- 「むすびつける」
- 「方向づける」
- 「「そろえる」
- 「わかつた」と実感させる

(一) 「ひきつける」授業

視覚化でひきつける、演出でひきつける

授業の流れにそつて、順に出現させる工夫が生徒の関心を引く。ただ視覚化するためには、示す情報を厳選し、焦点化することが必要である。つまり、その刺激が生徒たちにとつて効果的であるのか吟味しなければならない。本校の職員研修でも黒板周辺には余計な掲示物を貼らず、すつきりと整理させておく。と教えていただいたが、こちらの「演出」に注目させるためにも大切な要素である。

(二) 「むすびつける」授業

子どもと学びをむすびつける、つなげる

授業のテーマと自分を結びつけることや、AとBの事柄を結びつけることが苦手な生徒がとても多くなっているという。生徒たちは自分に関心がないことには興味を持たない。(一)の視覚化でひきつけてその後は言語活動でふくらませていくという授業を計画する。他人の意

見を自分のことにむすびつけて考えられるように、こちら側が意図して言葉かけをする必要がある。「共感する授業」が目指す方向の一つである。

(三) 「方向づける」授業

焦点化し方向づける

授業では、生徒たちの理解をぶれさせないための「方向づけ」を行う必要がある。こちらからの問いに工夫が求められるが、方向づけられない問いは「何か気づいた人?」などの漠然とした「あいまいな問い合わせ」だ。考え方のことと戸惑わせることとは違うという。方向づけの方法として、①授業のねらいをしぶって方向づける。②教師の「なげかけ」で方向づける。③生徒の間違いを整理しながら方向づける。の三つにまとめられている。

(四) 「そろえる」授業

理解をそろえる

「そろえる」は「共有化」とも呼ばれ、授業の中で全体の理解にばらつきが見られたときに、そこで止まつて理解度をそろえるというものである。授業中の生徒の感動詞、「エッ?」「オッ!」といった言葉を拾い上げ、「今何考えたの?」と問いかけて言語化させていく。

また、イメージをそろえるために写真や動画を見せるこことや、ペアでの話し合い活動を取り入れるなど小刻みな表現活動を取り入れて理解を深めさせる。グループ活動にしてしまうと情報量が多くてかえつて混乱するような場合などペアでの話し合いの方がよいこともあるようだ。

(五) 「わかった」と実感させる授業

授業の最後に「達成感」や「満足感」を与えることである。多くの生徒に「わかった」実感させる授業づくりとして①先生の誘導によってではなく「自分たちでやり遂げた」と感じさせる。②達成できたことについて、仲間に認めてもらう機会をつくる。③学習したことを活かすチャンスをつくる（スパイラル化）の三つにまとめられる。目の前の生徒の反応を見ながら、理解度に合わせて、声かけや考え方、当日の授業の内容もいさぎよく変えてしまうことが「学習者の立場に立った授業」といえる。

五 「むすびつける」授業の実践

前述したように、本校の生徒は八割を超える生徒が就職するため、高校の三年間はしっかりと準備する時期となる。二〇一六年八月に出了された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」においても、

ii) 課題を踏まえた芸術科（書道）の目標の在り方

- また、高等学校芸術科（書道）において育成する資質・能力は、小学校及び中学校の国語科（書写）において育成する文字を正しく整えて（速く）書くこと、書写能力を学習活動や日常生活（社会生活）に生かすとともに、文字文化（手書きの意義や文字の由来など）について理解することといった資質・能力ともつながるものと考えられる。また、高等学校においては、資質・能力の育成に当たり、国語科の共通必履修科目において育成する書写能力を実社会・実質生活に生かすことや、古典の作品と書体等との関わりから多様な文字文化への理解を深めるといった関連を図ることが考えられる。

とあり、書道の授業でも文字文化と生活の中の書を結びつける授業の在り方を模索した。平成二十九年度は鹿児島県高等学校書道教育研究会の公開授業の機会を頂いたので「生活の中の書」について授業を計画した。

時間	学習内容
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動において生活の中の書を挙げ、その特徴や効果によって細かく分類する。 ・調査活動の対象となるものを選定し計画を立てる。
第二次 (公開授業)	<ul style="list-style-type: none"> ・手書き文字の良さを理解し、日常的な書字活動に対する関心を高める。 ・封筒、はがき、便せん等の書式を理解し、漢字と仮名を調和させ適切に書く。
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動計画に基づき集めた情報を分類して整理する。 ・グループで調査結果を分析し、発表形態に応じてまとめる。
第四次	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで調査、分析したものを作成する。 ・調査により気づいたこと、考えたことをどのように生かしていくか今後の課題を考える。

④ 授業の内容

十一月に実施した授業であつたため、本校はちょうど文化祭が終了して間もない時期であった。文化祭にはクラスメイトについての川柳を短冊に書き展示了。今回はそのお礼の手紙（一筆箋）を書くという内容で行つた。一時間の公開授業であつたため、封書でじっくりと書くことが出来なかつたが、まずは、友達に要点をしぼつて気持ちを伝えることに重点をおいた。

また、文字の成り立ちから美しい仮名の書き方を考えることですでに習つた学習をうまく活用にて主体的に考え、生徒の生活中に生かせる工夫をした。

二年生の授業は一単位であつた（平成三十年度から情報処理科学科のみ二単位）ためポイントをしぼり、「は」「ま」「ほ」「な」「よ」「ぬ」「ね」など「結び」のある平仮名の書き方を字母から検証し、活字にすると変化のない結びも二種類に分けられることをペア活動で対話をしながら生徒主体で導き出すことができた。

⑤ 授業の工夫

- i 小さな黒板をグループ分用意し、情報を小出しにすることでの生徒の興味をひき、ひきつける板書の工夫
- ii これまでの仮名の学習と生活に生きる実用の書とを結びつける授業展開
- iii 学校行事（文化祭、インターナショナル）とのつながりを意識した授業計画
- iv 授業内容を順序立て授業目標達成へと方向づけるワークシート活用や教具の工夫。



いろは字源かるた



「むすび」の学習の教具



いろはかるたで字源を楽しくマスター

り組みを変化させることが出来る。他の先生方は当然のようにされていることであろうが、授業の流れを板書しておくことと、同じようにワーカシートにも載せておくことで「今、何をしたらしいのか」というような生徒からの質問はほとんど無くなり、授業での生徒の活動は主体的で意欲的になつたよう思う。課題としては文字を書くということの前に、自分の言葉で表現することを苦手としている生徒が大変多いことである。書道の授業に限らず、対話的な取り組みは今後増えていくことを考えれば、「話すこと、書くこと、聞くこと」は、今後さらに充実させていくべき内容であると感じる。昨年計画していた調査活動についても、どのように準備したらいいか、グループでどのように役割を分担したらよいか、調査して得られた情報を効果的に発信するためのツールの選択など、うまくいかず、まとまらずに終わってしまった。主体的な活動を促す私の助言や情報提示の工夫が不足していたのも大きな原因の一つである。本来ならグループ活動で「履歴書はなぜ手書きなのか」というテーマのまとめ、発表を紹介したかったのだが、叶わなかつたのは残念であった。他教科との連携し、「話すこと、書くこと、聞くこと」についての取り組みを充実させたい。

三年前、吹上高校に赴任した時から導入している、いろは字源かるたは、仮名学習で字源を習得させるために大変重宝している。今回の「生活の中の書」の授業でも一年次に学んだ知識を使つて平仮名の結びの書き方を導き出すことができたようだつた。ペア学習の際に、「あ、わかつた。」という生徒のつぶやきが聞こえてきたことが証明している。

〈参考文献等〉

『通常学級のユニバーサルデザイン プラハZero』 東洋館出版社
『通常学級のユニバーサルデザインプロト・ハZero2』 東洋館出版社

「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」
(2016. 8.26) 文部科学省

『「和様の書」に学ぶ美文字のすべて 美しいかなが書ける本』

ここに二年間で実践した授業内容、取り組み等を紹介させて頂いたが、授業のユニバーサルデザイン化は少しの工夫で生徒の授業への取

文字を書くことに自信が持てるようにな ～病弱の特別支援学校国語科書写における指導の工夫や改善を通して～

宮崎県立赤江まつばら支援学校 教諭

房 安 紀 子

一 はじめに

本校は、全国で唯一の幼稚部から高等部まで設置している病弱教育を主とする特別支援学校であり、あらゆる疾患等のため、継続して医療又は生活規制を必要とする児童生徒が在籍している。そのため児童生徒は、治療を優先させる毎日の中、将来的に原籍校への転出を目指して過ごしている。また、原籍校での授業に向け教科指導に多くの時間を使いつけて、「文字を正しく整えて書く」という文字指導にじっくり取り組むことは難しい。同時に、不安定な体調の中多くの不安を抱えていて、教科学習全般への自信の無さの根底に、文字を書く事への自信の無さも強く感じる。

私自身は、本校高等部の準ずる教育課程で書道教員として勤務していく、赴任当初は季節的な毛筆指導の学習の際（書き初めや作品展前）にだけ、サブ的な役割の教員として小学部の児童とは関わっていた。しかし、硬筆指導への依頼や相談も多く受ける中、小学部からの正式な要請を受け、週に一時間準ずる教育課程の各学年の書写指導をメインの指導者として担当するようになつた。教科の専門性を生かし、また同じ学校内での運用が可能という環境が整い、個に応じた丁寧な文字指導を心がけているところである。とは言え、小学部書写を年間通して担当したことは無かつたので、書写と書道の違いを私自身が学び

直し、系統的に文字を習得していく段階の違いを明確にした上で、本校で書道教員として何ができるかを日々模索しているところである。

二 児童、生徒の実態

今回対象とした児童、生徒は、文字を書く事への自信の無さを強く感じている。

「言われたとおりに上手く書けない」現実から、

↓ 「(他の児童、生徒より多くの) 注意を受ける」

↓ 「傷つく」

↓ 「意欲の低下」

↓ 「文字を書く事への強い抵抗感や嫌悪感を抱く」と言うスパイアルにはまつてている。特に小学部生は、原籍校での一斉指導の中、文字が正しく書けないと、一日中意欲をそがれる声かけにさらされになり、結果的に全ての学習に対する意欲も低下してしまうことが予想される。

しかし、個別に実態把握を行いながら授業を進める中で、「書いてみたい」と言う意欲は自信の無い言動の中からでもしつかりと感じることができた。週に一時間という短い時間の関わりだけでは児童の小さなSOSをくみ取り、指導方法の摸索に生かすことは難しいので、小

学部担任と実態について密に情報交換する中で、児童達の到達目標を定め、基本的な授業スタイルは確立した上で、個に応じた授業スタイルを臨機応変に実践を重ねていった。

高等部生徒に関しては、書道Ⅰの時間や、放課後活動として設けてある同好会の時間の実践を重ねた。

なお、今回実践例を発表するクラスの人数は、一名～四名である。

三 指導事例

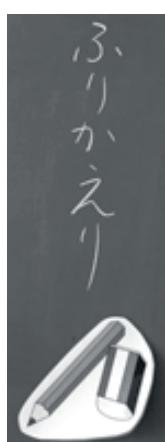
授業の基本スタイル

- 一 スケジュール提示
- 二 道具の準備
- 三 活動
- 四 道具の片付け
- 五 ふりかえり（自己評価）
- 六 次時の予告

【実践①】授業のユニット化

短時間の学習活動を計画的に組み合わせていった。それぞれ二～五分程度で終わる活動（点つなぎ、間違い探し、迷路）を取り上げ、手本をよく見ると言うねらいに関連づけながら精選した。

本人の意欲をかき立てるような題材選びを心がけた。また、その時の状態により難易度の高いものから低いものまで準備し、臨機応変に提示した。



大筆での活動、鉛筆での活動の違いを分かりやすくする為にイラストを側に貼る。



三角柱の側面に「聞く」「毛筆で書く」「えんぴつで書く」というカードを貼り教卓に置いている。

【評価】集中力が途切れる前に、次の課題へと気持ちを切り替えられた。また、全てを書写に関する学習にせず、その時々の本人の興味関心が高い他の授業の話題も取り入れることで、児童が自ら自信を持つて発信できる場面を多く設けた。これは次に準備している書写への原動力ともなり、自信を持つて課題に取り組めていたことが、自己評価の高さからも分かった。

【実践②】範書をチヨークで黒板に書き、今日のめあてとなる点画に印をつけさせる。



この教室はホワイトボードのため、ペンで書いています。

で、細部の構造の理解を深めやすかつた。また、今日のめあてとなる点画に自分で印をつけることで、めあてを強く意識しやすかつた。さらに、机上学習ばかりではなく、前に移動し、一緒に大きく腕を動かすことで、運筆時の動きの確認や練習も重ねられ、スムーズに毛筆学習に取り組めた。

【実践③】範書を書く際は、淡々と静かに運筆せず、運筆のメリハリと動のメリハリをつけ表現することで、児童の理解は深まった。実際に筆で書く前に、墨汁をつけずにこの動きと一緒に確認したことで、墨汁をつけて書き始めてからの集中力の高まりがどの児童にもみられた。

また、運筆が早すぎて雑な線になる児童には、運筆をしながら「一、二、三で止まる」など、落ち着いたりズムをカウントすることで、運筆の速度をコントロールできるようになつた。「もう少しゆっくり」とつい声をかけがちであるが、「もう少し」を具体的にカウントすることで、理解が深められた。

【実践④】仕上がりの点数化

【評価】毎時間、ふりかえりシートに毛筆学習のふりかえりを硬筆で行っている。特に今日書いた文字だけは、毛筆での注意点を意識して書くよう伝え、児童達も緊張感をもつて書いている。その際、今日の文字を点数化した方が、ふりかえりやすい児童には一緒に点数化している。しかし、本人の次への意欲へつながらないことが予想される児童には、◎、○、△の三段階での評価をしている。(一二七ページ上段写真参照)

【実践⑤】手本通りに書けない不安からの言葉をそのまま受け止め、本人の不安に寄り添う。

【評価】書けない不安を攻撃的な言葉や態度ででも伝えようとしてくれている事に他の先生方の実践を見ていて気づかされた。



こちらが強烈なメッセージに瞬時に反応せず、穏やかに受け止め、「上手く書けないかもという不安な気持ちを伝えてくれてありがとう」「コツを言うから聞いてね」と伝えながらやりとりを続けることで少しずつ不安がほぐれ筆を握り続けてくれるようになつた。不安を共有し、その気になる部分をきっかけに自信が無い中からでも挑戦してみようという意欲へ変えることができはじめた。「手本通り書けない＝自分は上手くは書けない＝自分はダメだ」と、文字を書くたびに感じながら過ごしている児童にとって、今までの書写の時間はその苦手な部分を目の当たりにせざるを得ない苦痛な時間だったのだろう。少人数での指導だからこそ実現した貴重なやりとりの時間であった。今後、人数が多い場面でもこの貴重な時間を忘れず児童達と関わっていきたいと思う。

【実践⑥】 書く速度を指導者側が一定のリズムで維持するために、書く前に呼吸を整える儀式を一緒に行う。

【評価】 対象児童は、手本と同じように点画のバランスを取ることが極端に難しいことを自覚していて、言われていることは分かつていて、呼吸を整え静かに書き始めることで、集中している

ために授業とは関係の無い話題をもちかけたり、運筆の速度を異常に速くし書き殴るような終始落ち着きの無い状態だったのでも、呼吸を整え静かに書き始めることで、集中している自分へ心地よさを感じはじめた。毎回始めて一緒に呼吸を整える儀式に意欲的に取り組んだ。担任もその変化に気づき、多くの賞賛の言葉をかけていき、児童の中でも、「集中の儀式＝かっこいいこと＝（だから）上手く書ける（はず！）」とつながつていった。この経験を重ねることで、少し難しい課題にも積極的に取り組むようになり、呼吸を整え、書く速度を一定に保つことで、手本をじっくり確認する余裕ができ、安心して運筆できるようになつた。

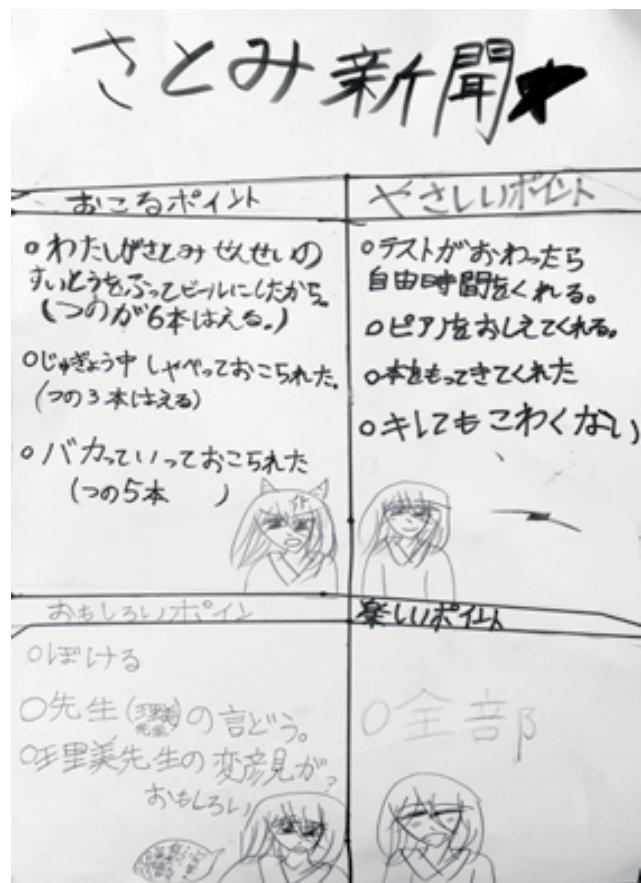
何よりその児童がその効果に一番感動していく、練習を多く重ね上手くなりたいと言う思いが強くなり、誰よりも先に準備をし、授業開始を待つようになつた。

【実践⑦】 硬筆での実践

【評価】 日常的につけた力を特別な場面で発揮する緊張感と向き合うことができた。また、相手の反応が返ってくるというお楽しみが待っているので、漢字練習の際の硬筆学習とは違う期待感をもちながら、意欲的な取り組みができた。

また、長文の手紙では無く、限られた紙面に短めの文を書

くと言ふことで、集中力を維持しながら仕上げることができた。



担任の先生への感謝の気持ちを新聞にして表現した

【高等部での実践】 高等部では、書道Ⅰ、書道Ⅱの授業、放課後の同好会を担当した。

授業の際は必ずプレゼンソフトで授業の流れや内容を説明し、見通しを持ちやすくした。重要語句やポイントとなる説明については、あってフォントを変えるなどの工夫をし、視覚的にメリハリのあるシート作りに努めた。他の部分（スケジュール提示など）については、余白を十分確保したり、フォントもシンプルなものを選び、メインに入る部分を自然と強調できるよう心がけた。

本校の同好会の時間は三十分程度、多くて週三回の実施である。高等学校総合文化祭、宮崎県特別支援学校アート展、その上位大会の全国特別支援学校文化祭への出品を目指し、日々作品制作に励んだ。

ある書字障害の生徒の担任をした際、「毛筆でなら書いてみたい」とのことでの書道同好会に入会してきた。授業中はその障がいのため板書は代筆者が筆記していたが、小学校の書写を教えてくれた先生との時間がとても楽しい時間だつたらしく、再び筆を握ることとなつた。

その生徒は、ダンスの振り付けを覚えるように筆順を覚え運筆をし始めた。余白と文字とのバランスの見方を伝え続け、三年間毎年全国特別支援学校文化祭にて優秀な成績を収めることができた。受賞はもちろん喜ばしいことだが、生徒の自己表現の一つとして書道を選び続けてくれたことも私にとってはとても嬉しいことであつた。





四 成果と課題

【成果】

○ 正確な実態把握による指導を心がけたことで、本人の得意な力に着目しながら力をつけることができた。

数年前、特別支援学校の教員として発達検査について実践を積む機会に恵まれた。当時私が研修を重ねた発達検査はWISCⅢであり、これは個人内の得意不得意な傾向を知り、授業実践に生かす目的のために学んだものである。言語性IQ、動作性IQと言う測定概念に基づき、十二の検査を行い数値化するものだった。日頃我々教員は、児童達の不得意な部分にばかり目がいきがちであるが、得意な部分に根拠を持つて目を向ける事で、指導に生かすことができるようになつた。また、実際に検査をしないまでも、この検査を私自身が学んだことで、児童達の実態を知る上で大きな手がかりとなつた。今後も他の発達検査（KABC-IIなど）も学び、より正確に児童の実態把握に努め、根拠をもつた支援に当たりたい。

人は誰しも得意な学び方で学ぶ方が力はつきやすいだろう。

今までの書写指導における固定概念にとらわれず、児童にとつ

て学びやすい理解しやすい教え方に着目するきっかけになつた。

○ 児童に応じて指導の順序を変え、「書けた」と言う実感を重ねることで、学習意欲を維持しながら学習に取り組めた。

指導の順序としては、以下の二つの方法を実態に応じて取り入れた。

- ① 筆順通りの点画から順に指導する。
- ② 難易度が高く、児童にとつて強烈に印象づけられるような点画から指導する。

この根拠として、人間の脳の情報処理方法として「継次処理」「同時処理」と言うものがあるからだ。ある程度どちらもバランス良い人もいれば、どちらかに偏る人もいるらしい。継次処理は、時間軸に沿つて順序よく把握するのが得意なタイプで、同時処理は、まず全体像を把握した後、その中の細部を関連づけて処理していくタイプである。どちらかに偏っている場合は、一斉指導の場面で苦手な学び方を強いられ理解することすら困難な時間が続いている事も予想される。と言う事は、早い段階で「書けた」と実感させたい私としては、児童がどちらの力が優位に働いているかを把握する必要があつた。そのためにも、導入時に用いる「点つなぎ」や「間違い探し」「めいろ」の取り組みは、実態把握の手がかりとして有効だつた。

また、その時の課題の難易度が高すぎて、すぐには「書けた」と感じられない場合も、「あと少しで書けるかも」と児童が感じられる指導の積み重ねにより、意欲の維持も可能となる。そのためにも、正確な実態把握を行い、実態に合わせた難易度の設定を心がけた。

- 指導の基本をスマールステップとし、児童が「書けた」と感

じられるまで丁寧な声かけと関わりを意識することで、毎時間達成感を感じさせることができた。これは、指導者一人では難しい場合も、各担任との連携の中で実現できた。事前に児童一人一人の実態把握と目標を共有し、指導者と同じ文言で児童に関わる事を基本にすることで、児童へのフィードバックが常にできた。

その時々の児童の状態により、最後に書いたまとめ書きの段階で全ての力が發揮できないこともある。しかし、途中の過程で「書けた」と言う経験があれば、ふり返りの中で指導者がそこに触れ言語化することで、児童の達成感を保証できた。また、回を重ねる毎に指導者から言われて気づくのでは無く、自分で気づけるようになる事もある。「書けたか書けなかつたか」より、「自分で気づけるようになつたかどうか」を大事にしたいことを児童にも常に伝える事で、まとめ書きと言う目の前の一枚だけでは無く、授業中の過程（児童の頑張り）も評価の対象として扱い、フィードバックできた。

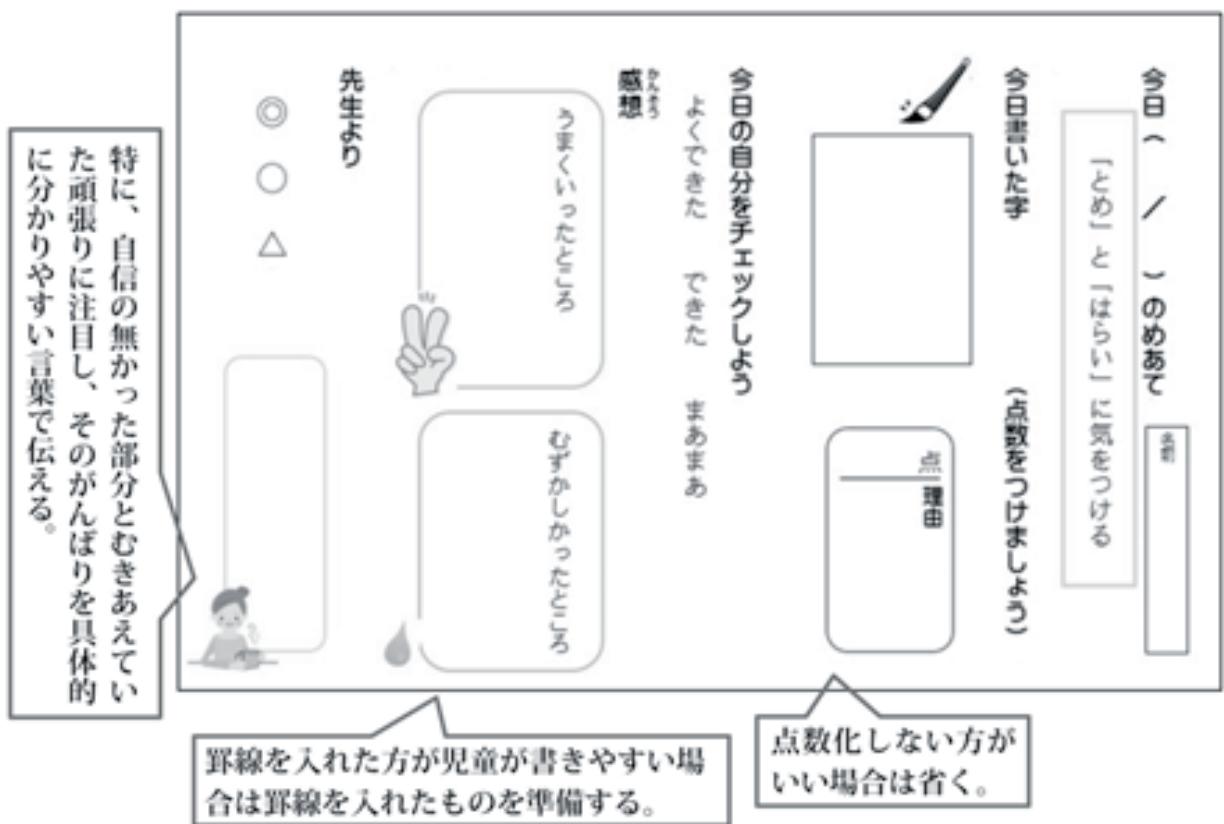
ふりかえりシートの記入後に、指導者からのコメント欄を書くが、できるだけ授業時間内に本人の目の前で記入した。その中で、児童の自己評価が低すぎるとき、自分の頑張りを言語化できていない部分を「先生はこう思うよ」と言葉で明確に伝え評価のすり合わせを行い、今日の自分の頑張りに自信を持たせて終えた。当初このやりとりは、思いを言葉にすることが苦手な児童への配慮として行っていたが、今では児童それぞれにとって、授業の最後の楽しみのような時間になってきた。苦手な活動（字を書く）でも頑張れたという充実感を感じているようである。

【課題】

○ 板書の際、ホワイトボードでチョークや筆での筆圧をどう再現するかについて模索中である。本校では、病気の関係でチョークの粉が厳禁な児童もいるため、ホワイトボードの教室も多い。今後も筆のタッチを上手く再現できる方法を模索していきたい。

○ 書写的時間の指導を担任が行う日々の授業にどう関連づけフィードバックしていくかについて、小学部職員との連携の仕方を今後も探りたい。より丁寧な関わりを持つようとすると業務が煩雑となり現実的に継続が難しくなる。大切な事は、継続して指導できるかどうかなので、授業前後の情報交換の中で、キーワードや目標を絞り込み、今、目の前の児童に取つて必要な事が何かについてアンテナを張り巡らせたい。また、教科担任として発信できる方法として、手軽に取り組みやすいワークシートの準備を今後も続けたい。ポイントは児童が「楽しめる」、「少し余力が残せる」「評価の対象となる」事を前提としたワークシートであり、今後も各担任の意向も取り入れながら内容を定期的に見直し、より良い物を作り直していきたい。

実践④ ワークシート



○ LDの傾向のある児童への関わりについては、より専門的な知識と実践の必要性を感じている。本校でも基礎疾患に加えてLDの傾向をあわせもつ児童の文字指導の難しさに直面している。その傾向のある児童は学習全般への自信が無い場合が多く、文字を書く事への嫌悪感さえ示す場合もある。だからこそ、専門的な知識を身に付け、根拠を持つて児童達の学び方をこちらが知り、児童達に合った学び方で文字の習得を目指していきたい。LDの模擬体験ソフトを通して、日々の我々の何気ない一言や固定概念にとらわれた指導で児童達を苦しめている現実も体験してきた。この体験を忘れず、苦しんでいる児童に寄り添える指導者を目指したいと思う。

また、LDの傾向のある児童への授業の工夫の中には結果的に誰にとっても分かりやすい授業の工夫のヒントが多くあることに気づかされた。特別支援教育に携われたこのご縁に感謝しながら、今後も根拠に基づく教材の提示をするために、常に視野を広げ柔軟に学び続ける姿勢で目の前の児童達と関わっていきたいと思う。

参考文献

『軽度発達障害の心理アセスメント』

上野一彦、梅津亜希子、服部美佳子編 日本国文化科学社

『高等学校における授業のアクセシブルデザイン』宮崎県教育委員会
 『高等学校における特別支援教育ガイドブック』宮崎県教育委員会
 『中学校における特別支援教育ガイドブック』宮崎県教育委員会
 特に、自信の無かつた部分とむきあえていた頑張りに注目し、そのがんばりを具体的に分かりやすい言葉で伝える。

書道II 草書学習の指導について

「十七帖にまつわる諸問題」

富山県立富山高等学校 教諭

細川 喜代範

一 はじめに

草書学習の導入といえば「十七帖」か「書譜」であろう。私も三十年ほど前までは「十七帖」を取り上げて、草書の特徴の理解をはかつてきた。

しかし、どうも上手くいかなかつた。鑑賞、臨書いすれの学習過程においても行き詰まるのである。以降導入教材は「書譜」に切り替えた。その後「十七帖」には触れずにきたのだが、ある契機があり五年ほど前に教材として見直してみようと思った。その考察が本稿である。

二 「十七帖」の学習指導で発生する問題

古典の学習で重要なことは、その古典が持つ美を感受することであ

ろう。学習意欲は持続するし、形をなぞつて再現するだけという不毛な臨書からも逃れられる。

ところが十七帖で指導すると、ここで早くも座礁する。生徒に「十七帖」からどんなことを感じるかと感想を求めて、全く言葉が返つてこないのだ。教科書には「骨太で力強い」「穏やかで格調高い」などと書かれているが、生徒の口からは一切そんな言葉が出てこない。教科書の言葉を示したうえで「そう感じますか」という問い合わせをして、「そうだ、その通り」という反応は返つてこない。

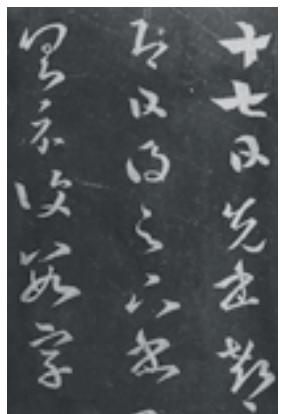
一部の教科書には「古来草書学習に最良のものといわれています」とだけあつて、その美に言及していないものさえある。かくいう私も生硬でどこがいいのかよく分からぬのだから、仕方がないような気もする。

次に、草書の特徴として「点画を省略して：云々」の話をするのであるが、例えば「郗司馬帖」には「日」が二度出てくるが、いずれも三筆目が右に流れすぎている。元々ここには点画は無いのだから、ここまで引っ張るのは理由がない。多くの人はこれは他に例がないから標準とすべきではないと言うが、高校生に「ここは出さなくてもいい」と指導すると、「王羲之がそう書いているのに、何で?」という反応を示す。

次に、二行目の冒頭六字を臨書させると、「下」字の第一筆と第二筆の間の虚画部分の脈絡の途切れをそのまま再現する。草書は早く書くために生まれた書体であるはずなのに、空中で筆の方向を変えるというのは不自然である。当然授業では注釈を付けて修正させるのだが、同様の不満が生徒から出る。

「三井本」の所謂断筆にもひどいものがあつて、筆を入れ直してから書くのが虚画だつたりすることがある。章草の名残?の「十」「七」の横画收筆も煩わしい。

草書という書体の特徴を理解させる以前のところでつまづいてしまって、導入とするには向きなのだ、そう考え、「十七帖」はお蔵入りにして二十数年を過ごした。



生徒臨書例
「即日得足下書」

三 澄清堂帖

十七帖を見直してみようという気になつたのは、澄清堂帖を目にしたことが大きなきつかけだつた。現在日本では出版されておらず、恐らくこの四十一年間、国内のどの出版社からも発刊されていない。五年前中国の出版社から発売されているカラー印刷本を偶然手に入れることができた。

澄清堂帖は十七帖同様王羲之の手紙集で、拓本になつたものばかりである。中には王羲之の字とは思えないものや、複製を繰り返して妙なものになつているものもあるが、あたかも肉筆を見るような精彩に富むものが幾つもある。昭和の巨匠赤羽雲庭や手嶋右卿らが盛んに臨書していくわけがよく理解できる。十七帖に何の美も見いだせなかつた私にも、「喪乱帖」を見たときと同様の感動を覚えた。

「ここには十七帖と重複する手紙も多いが、手紙毎につけられた「帖」という名前が異なることがある。」

四 「十七帖」の中身を整理する

「十七帖」の中身を整理する。

- 三井本系統 · · · 瀧雪樓本

王穉登本、王文治本

○上野本系統・・・・呉寛本、文徵明殊积本、鈴木雲洞本

○欠十七行本系統・寶熙本、餘清齊帖、來禽館帖、鬱岡齊帖
教科書に採用されているのは三井本と上野本だけで、欠十七行本はない。これは今日出版されている手本・法帖類に欠十七行本が無く、世間的知名度が著しく低いことと無関係ではないと思う。

	三 井 本 に お け る 帖 名	上 野 本 本	欠 十 七 行 本	淳 化 閣 帖	澄 清 堂 帖		三 井 本 に お け る 帖 名	上 野 本 本	欠 十 七 行 本	淳 化 閣 帖	澄 清 堂 帖
①	郗司馬帖	○	○		○	⑯	都邑帖	○	○	○	
②	逸民帖	○	○		○	⑰	嚴君平帖	○	○		
③	龍保帖	○	○	○	○	⑱	胡母從妹帖	○	○		
④	絲布衣帖	○	○			⑲	兒女帖	○		○	
⑤	積雪凝寒帖	○	○		○	⑳	譙周帖	○		○	
⑥	服食帖	○	○	△	△	㉑	漢時帖	○	△		
⑦	知足下帖	○	○	△	○	㉒	諸從帖	○		○	
⑧	瞻近帖	○	○		○	㉓	成都城池帖	○	○		
⑨	天鼠膏帖	○	○			㉔	旃罽帖	○	○	○	
⑩	朱處仁帖	△	○	○	○	㉕	藥草帖	○	△		
⑪	七十帖		○	○	○	㉖	來禽帖	○	○		
⑫	邛竹帖	○	○			㉗	胡桃帖	○	○		
⑬	蜀都帖	○	○	○		㉘	清晏帖	○	○	○	○
⑭	鹽井帖	○	○	○	○	㉙	虞安吉帖	○	○		
⑮	省別帖	○	○	○		㉚	勅	○	○		

○は採録あり
△は部分採録あり
空欄は採録なし

最も多くの手紙が集録されているのは三井本で、二十九通ある。これに基づき、どの手紙がどの集帖に収められているのかを整理したのが前表である。ついでに「澄清堂帖」「淳化閣帖」も加えてみた。

三井本が多いからといって、三井本が完本でそれ以外には欠落があるという認識は正しくないようである。晚唐の張彦遠の記録では二十三通である。ということは、後世に六通が追加されたと考える方が自然である。

唐代に既に成立し、手本として尊重されていたということは、五代十国か宋の時代に成立したと言われる「澄清堂帖」や、宋代に成立した「淳化閣帖」の成立より古いことを意味する。

そのためだと思われるが、「澄清堂帖」の中で十七帖と重複するものは全て精彩がない。筆のしなりや開閉が生む線の動勢がなく、現存の十七帖と同様、見ても感動しない。これは編集されたときに、既に変貌劣化した複製しか存在しなかつたのではないかと想像している。

の誤解を招き、害があると言つてもよい。

六 四種の比較

省別帖＝遠宦帖の四行目を並べてみた。この帖には三系統の十七帖以外に唐代の掲摹本が存在しており、計四種が比較できる。

「三井本」・・・・一文字目の「並」の三筆目と四筆目の虚画同士に脈絡がない。三筆目の下部に点が四つ見えているが、草書は三つが普通。「頃」にこの本特有の断筆が見られる。

「上野本」・・・・「頃」の二筆目のように収筆の意味不明な脱力がいくつも見られる。「疾」の一・三筆目は脱落か。「問」の一筆目など、不自然なガタガタが修正されている。

「欠十七行本」・・最も筆画が直線化しているにもかかわらず、筆線の速度感が乏しい。

「唐代掲摹本」・・「並」の二画目と三画目の筆脈が不明だが、渴筆までよく再現されている。

五 複製を繰り返すことの影響

先人の多くが指摘しているように、複製を繰り返すと次のようなことが起こる。

- 字粒、字間、行間、文字内の余白の広さが均一化する。
- 行が真っ直ぐになる。
- 意味不明な点画が発生したり、欠けたりする。

- 筆遣いをわかりやすくするなど手本としての潤色が加わる。
- 筆毫の開閉が不明瞭になる。
- 筆線の速度感が失われる。

最初の二点は、均整構成を原則とする篆隸楷の書体においては問題である。生徒が、均衡構成を原則とする行草の書体においては問題である。生徒

「並」の三筆目や「問」の一筆目には不自然な太細があるが、これは紙に縦の山折りがあるからである。後述するが、紙を折るのは孫過庭の専売特許ではなく王羲之もほぼ常にやっているようだ。山折りに筆がかかった部分を縦に結ぶと直線になつており、真跡通りに再現されていることがわかる。「並」の点が増えてしまったのもこのためだとわかる。

行の立ち方だが、行頭から左にずれ行末にかけて右へ戻すのは王羲之の癖である。喪乱帖、孔侍中帖、初月帖、寒切帖など、信頼の置ける掲摹本は全てそうなっている。三つの十七帖が如何に修正されているかよくわかる。

更に、これだけが最後の「篋」の書き方が正しい。他の三つ

がどの段階でどう間違えたのか推測できる。

以上のことから言えるのは、世に流布している三種の「十七帖」は紙の折り目に起因する節筆の太細の変化を無かつたことにしたり、理



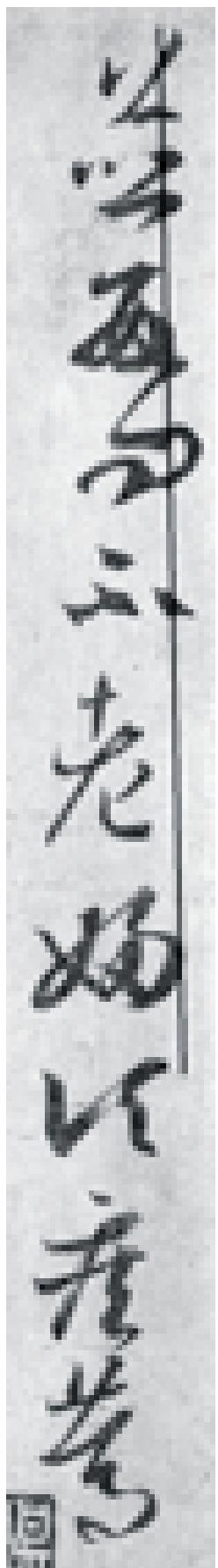
三井本



上野本



欠十七行本



唐代揭摹本
(補助線筆者)

解せずに複製されている。王羲之の本来の姿からは遠く離れた、意味不明の筆跡もどきであるということだ。

七 書譜の節筆

松本芳翠が発見した節筆は紙が全て山折りになつていて、これに起因している。筆が横方向に動いたとき、折り目を超えると急に線が細くなることから、これは確実である。下図のように推定される折り目に線を引くと、その間隔は継がれた紙毎に等差的漸減を繰り返している。従つてこの紙の場合、直径約15mmの筒状に丸めた後つぶしたのだと推定される。広げると約24mm間隔の折り目ができる。筒の中心が左で、山折りが表になるようにして使つているのだ。

何のために折るのか。書き始めの行は折り目にかかつておらず、書き進むにつれて折り目にかかつてくる。断定はしかねるが、当初は野としての役割を担つていたのだが、書き進めるに従つて折り目で踊る筆の面白さにはまつてしまつたという風である。

節筆に注目すると、いくつかの古典の謎が解ける。

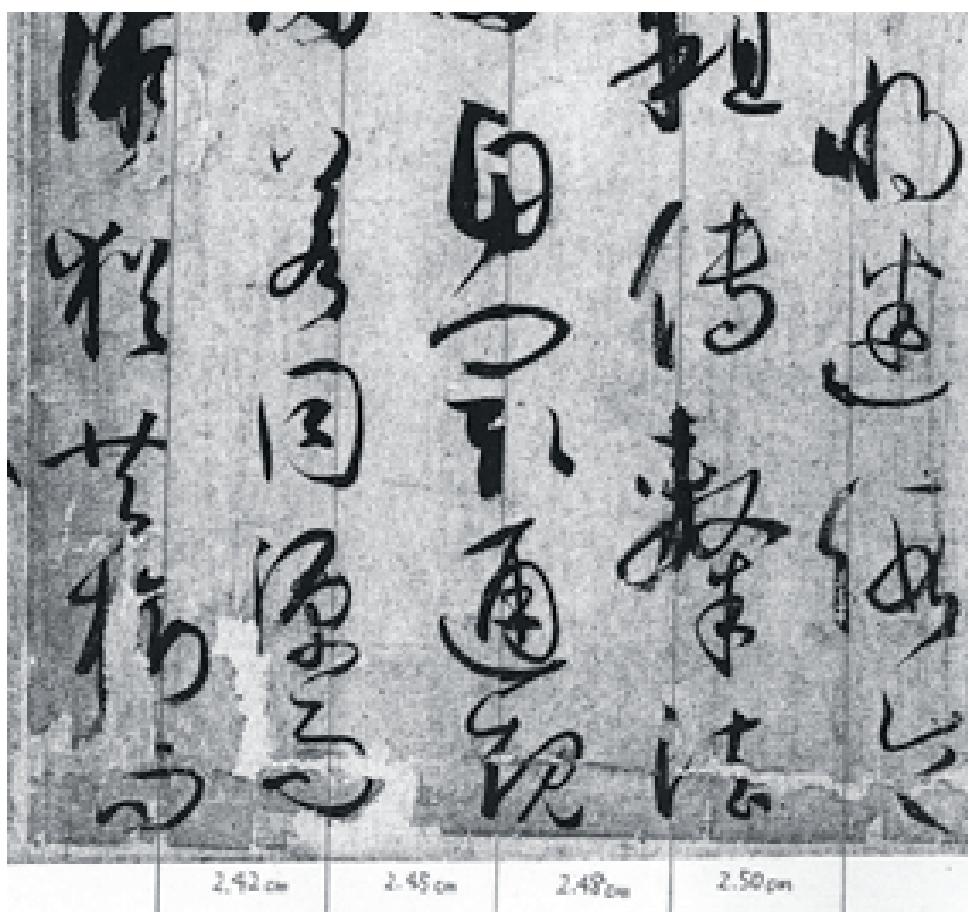
八 蘭亭序（神龍半印本）の節筆

神龍半印本には縦方向に筆が割れたような線が幾つも見受けられる。世間的に問題になつているのかどうか寡聞にして知らないが、後半の「死」に見られる割れを除いて必ず縦方向であることが気になつていて。しかもこれが筆の割れから生じた形だとするとには不自然な形状なのだ。十四行目の「同」の一画目は筆が割れたと見えなくもないが、それ以外は無理だ。

ある日、七行目の「足」最終画の欠損を見て気づいた。これは紙が谷折りになつてているのではないかと。四字上に「觔」があり、四画目

の転折以降に縦の欠損が有り、足に真つ直ぐ続いている。谷折りが縦にあると考えれば辻褷がある。

同様の欠損は他にもある。三行目「羣」の最終画と「畢」の二画目転折以降がほぼ一直線。十一行目の「娛」二画目と三画目を結ぶ虚画と、「信」一画目の筆の揺れ、「可」「樂」の左の筆が跳んでいる部分が



書譜の節筆（補助線筆者）

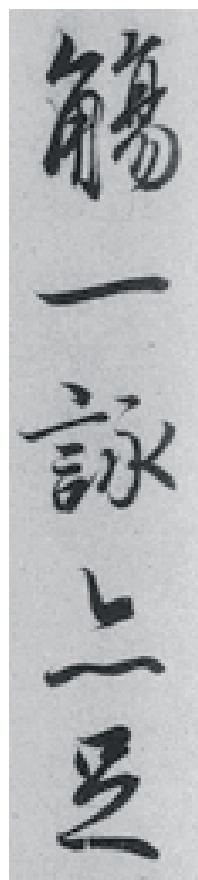
十四行目 「静」 の二画目と 「同」 の一画目がほぼ一直線である。

これらは書譜の場合とは逆に、谷折りにした面を表にして書いたと
考えれば欠損理由は説明が付く。

蘭亭序以外の王羲之の多くの作品にも不思議な筆画がある。「初月帖」の「殊」のヘンの欠損がわかりやすいが、谷折りがあると考えれば説明が付くのである。王羲之は平生から紙に折り目を付けて書いていたものと推察される。



3行目



7行目



11行目



14行目

ところが、神龍半印本の場合、定規を当てればすぐに気がつくのが、「ほぼ直線」であって、完全な直線ではないのである。

西川寧が指摘したことだつたと記憶しているが、八柱第一本では一行目の「癸」字は後から脱字を補つたよう見える。ところが神龍半印本はそうではない。だから前者の方が真筆に近いという主張だつた。もしそうだとすると神龍半印本はどのように修正したのか、それは脱字が脱字に見えないよう、双拘を取るときに敷き写す紙を一字ずつずらしているのである。字間を均一化して手本としての体裁を良くしようとしているのである。

一行目以外にもあちこちでずらしているとすると、「ほぼ直線」も説明が付くし、後半に行間が妙に狭くなっていることにも説明が付く。

九 まとめ

三種の十七帖はどれも王羲之の面目を伝えていないだけではなく、均衡構成の美しさも筆勢の躍动感も見せていない。昔から「書中の龍」などともてはやされているが、誰もが「『書聖』王羲之のものだから」また「王羲之のすごさは学書を重ねないとわからないものだ」と言い訳のようなことを言い、肝腎の書的感動を伝えていない。書の名品に列することさえ奇妙なことと言わざるを得ない。

ただ、三井本に見られる断筆だが、その通りに筆を動かすと非常に筆が動かしやすくなりズムも取りやすい。三井本は王羲之二折法の権化のような三角形の線が目立つが、あれは運筆をわかりやすく示した矢印が並んでいると思えば、全く役に立たないこともないとは思う。

参考文献

二玄社中国法書選「蘭亭序」「十七帖」「王羲之尺牘集(上)」「書譜」

平凡社和漢名家習字本体系 「王羲之十七帖」

編集後記

このたび、多くの方々のご協力により、第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会研究集録を刊行することができました。本大会研究集録編集にあたり、ご多忙中にもかかわらず、御祝辞・御挨拶、並びに、各研究発表を御執筆いただきました諸先生方、原稿の御指導を賜りました本部役員の先生方に心より感謝申し上げたいと 思います。

不慣れな作業が続き、御寄稿いただきました諸先生方には、短い期間の中で校正をお願いすることになり、御苦労をおかけしたことと存じます。本当にありがとうございました。

さて、世界はグローバル化と情報化が急速に進みつつあります。社会において、先々の予測が困難な状況の中、すべての教育活動において生徒が、主体的・対話的で深い学びを身につけるとともに、我が国の伝統や文化を理解し、継承していく教育実践が求められています。今回の「書道教育の可能性を考える」自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成」を追求することは、これから書道教育の方向性に何らかの示唆を与えてくれるものではないかと思います。

なお、編集にあたっては十分配慮したつもりですが、行き届かない点や失礼が多々あったかと存じます。この大会集録が、全国の諸先生方にとりまして、今後の御指導に役立てていただければ幸いです。

(裏表紙の書　日高秩父の書簡)

編集部

第43回 全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会 研究集録集

発行 平成30年11月15日

発行者 全日本高等学校書道教育研究会会長 荒井利之
川崎市立川崎総合科学高等学校 内
〒212-0002 神奈川県川崎市幸区小向仲野町5-1
TEL 044-511-7336 FAX 044-511-9796

編集者 第43回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会編集部

発行 第43回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会事務局
宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 内
〒885-0033 宮崎県都城市妻ヶ丘町27街区15号
TEL 0986-23-0223 FAX 0986-24-5884

印刷 有限会社 中川印刷
〒880-0951 宮崎県宮崎市大塚町正市5595-2
TEL 0985-54-6256 FAX 0985-54-6257

第43回
全高書研宮崎大会　全国版
協賛企業

伝 統 的 工 芸 品 熊 野 筆

広島県安芸郡熊野町

全国書道用品生産連盟熊野支部役員一同

広島筆産業株	城本 健司	株 尚美堂	友井 幸雄
(株)泰山堂	荒谷 泰正	(株)中村製作所	中村 亨
(有)橘宝盛堂	橘 志信	(株)広島清雅堂	中村 圭介
(有)甚開堂	上馬場 隆治	(株)松月堂	西田 正美
史芳堂筆舗	神鳥 憲三	丸屋文栄堂	西村 俊文
(株)九嶺堂	木戸 貴英	(株)仿古堂	丹羽 宏
(株)久華産業	久保隅 真二	(有)一晃園	平尾 太美夫
(株)久保田号	久保田 幸次	平尾文明堂	平尾 泰紀
(株)一休園	久保田 哲暁	不二産業株	平本 徹
(有)神技堂	近藤 秀信	(株)穂乃伊堂	本迫 剛
誠実堂	實森 康宏	(株)五大洲	三村 直雅
(株)貫盛堂	尺田 莊一	(株)文宏堂	三村 泰子
(株)竹宝堂	竹森 臣	文学堂製筆株	向久保 健蔵
(株)晃祐堂	土屋 武美	(株)長榮堂	宗盛 勝則
(株)友井尚文堂	友井 敏夫	(株)山吹商店	山吹 富邦

祝

第43回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会

全国書道用品生産連盟

宮城支部

山梨支部

東京支部

豊橋支部

名古屋支部

鈴鹿墨支部

京都支部

大阪支部

奈良墨支部

奈良筆支部

鳥取支部

熊野支部

川尻支部

愛媛支部

☆ 『書道教育の可能性を考える』～自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成～を大会テーマとし、授業研究・研究協議・分科会を通して芸術科書道教育の原点、伝統と文化である書道、言語活動の充実など新しい時代にふさわしい書道教育について研鑽され、有意義な大会となることと確信しています。

☆ 全日本高等学校書道教育研究会のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

全国書道用品生産連盟

理事長 青柳 彰男

主催:NPO法人 世界芸術文化振興協会 後援:全日本高等学校書道教育研究会

第20回 高校生国際美術展

The International High School Arts Festival

国立新美術館にて開催!!

2019年6月頃、作品募集致します。

出品無料

●募集内容

1. 書（漢字・かな・漢字かな交じり・篆刻）
2. 美術(平面作品：絵画・デザイン・イラストなど 立体作品)

●応募資格

国内に在住する高校生
(2018年6月在籍者。高等専門学校は3年次まで)

資料請求・問い合わせ先

NPO法人 世界芸術文化振興協会(IFAC)

〒167-0053 東京都杉並区西荻南2-18-9 菱研ビル 2階

☎03-5336-3507 **✉03-5336-3509**

ホームページ：<http://www.ihsaf.net> (高校生国際美術展)

第19回展では、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、知事賞他、
様々な賞が授与されました。

文部科学省後援 公式書写検定

◎特技を就職に生かそう!
◎推薦入学重要ポイント!
◎公式書写検定で書道の実力を試そう!
◎増加単位の対象
◎師範・准師範資格の基礎資格

★毎年6月・11月の2回全国一斉実施

中央審査員(文部科学大臣奨励賞選考を兼ねる)

一順不同一

会長 元文部科学省教科調査官	長野 秀章	理事長	塩山 重夫
元文部科学省教科調査官	加藤 達成	理事	酒向 篤
元文部科学省教科調査官	加藤 祐司	"	川渕 佐知子
前文部科学省教科調査官	加藤 泰弘	"	鈴木 麻菜美
文部科学省教科調査官	豊口 和士	"	佐々木 有沙
副会長	麓 和子	"	大植 愛子
理事 ブロック代表県委員長	大木 ゆかり	"	大平 沙依
理事 ブロック代表県委員長	大倉 章義	"	松浦 裕子
理事 ブロック代表県委員長	赤尾 正顕	"	小島 由紀
理事 ブロック代表県委員長	塚田 翠舟	"	岡田 直人
理事 ブロック代表県委員長	長谷川 吉清	"	藤尾 祐唯
理事 ブロック代表県委員長	城戸 哲也		

問合先

東京都書写検定委員会	玉川聖学院	(担当 大木)
神奈川県書写検定委員会	川崎市立幸高校	(担当 川渕)
埼玉県書写検定委員会		(担当 塚田)
愛知県書写検定委員会	県立緑丘商業高校	(担当 酒向)
兵庫県書写検定委員会		(担当 塩山)
岡山県書写検定委員会	岡山美作高校	(担当 松浦)

申込先 所属県又はブロック代表県書写検定委員会
又は 〒673-0424 兵庫県三木市自由が丘本町2丁目80-1
塩山 重夫方

FAX 0794(83)1812
携帯 09014864945(塩山)

※お問合せは往復ハガキ又はFAXでお願いいたします。電話は塩山携帯へ。
書写検定のホームページ <http://www.shoshakentei.com>

第43回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会 開催おめでとうございます。

★宮崎大会で、第23回コンクールの最高賞(大賞)作品を展示いたします。

第24回 全日本高等学校書道コンクール

高等学校を単位とする、全国の高等学校生徒の授業・部活動等の作品を対象とした書道コンクールです

作品受付：平成30年12月12日(水)～22日(土)

審査日：平成31年1月13日(日)

成績発表：平成31年2月10日(日)

主 催 全日本書道教育振興協会
後 援 全日本高等学校書道教育研究会

〈コンクールの出品要項請求・お問い合わせ〉

全日本高等学校書道コンクール事務担当 鹿野美彦（しづの よしひこ） (全日本書道教育振興協会事務局長)

T E L: 080-5014-2545 (コンクール専用電話)

E-mail: zenkoucon@yahoo.co.jp

勤務先：千葉県立八千代高等学校

〒276-0025 千葉県八千代市勝田台南1-1-1 FAX: 047-485-1473

理論と経験に 裏打ちされた 実践力を



文学部 日本語日本文化学科

2年次に
コース選択

日本語・日本語教育コース
日本文学・文化コース
メディア表現コース

取得可能な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(国語)
- 上級秘書士
- 高等学校教諭一種免許状(書道)
- エアライン課程修了証
- 学芸員(美術館・博物館)
- 社会福祉主事(任用資格)
- 司書・学校司書
- ファイナンス課程修了証
- 日本語教員養成課程修了証

AO入試Ⅰ期(実技・課題型)

日本語日本文化学科では、
書道の実技試験を設けています。

エントリー期間：7月中旬より、8月上旬まで

選考日：8月下旬

選考方法：課題(実技試験)、面接

[毎年実施]

神戸松蔭女子学院大学 高校生書道コンクール
神戸松蔭書作品展

「教育」の神戸松蔭

教育は、人を変え、時代を変える力になる。



2019年4月「教育学部 教育学科」開設

† 神戸松蔭女子学院大学

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1

お問い合わせは お気軽に **TEL 078-882-6123**

神戸松蔭

検索

阪急六甲、JR六甲道各駅からバスでらくらく通学。

教育学部

教育学科
(幼児教育専修、学校教育専修)2019年4月開設

文学部

英語学科
(英語プロフェッショナル専修、グローバルコミュニケーション専修)
日本語日本文化学科

人間科学部

都市生活学科(都市生活専修、食ビジネス専修)
食物栄養学科
ファッション・ハウジングデザイン学科
心理学科

絶え間ない研究の精華を放つ 豊彩潤沢の高級液体墨

書芸吳竹

濃墨作品用
紫紺系黒



作品用書道液
紫紺系黒

純黒

青系



天衣無縫

油煙磨墨液



磨りおろし 生墨



きらきら光る書道液
金のきらめき



銀のきらめき



Kuretake

株式会社 吳竹

〒630-8670 奈良市南京終町7-576

TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

国立青少年教育施設は 青少年の体験活動をサポートしています!!

青少年をサポートする
ボランティアも大募集!

書道の合宿に青少年教育施設を利用しませんか?

体育館や研修室での練習が可能です!

(全国60以上の団体に書道の合宿等でご利用いただいているます。)



全国に
28か所!

<お問い合わせ>

書道の合宿等でご利用を希望される場合は、

まずは、施設にご相談ください。

国立青少年教育振興機構

検索



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

自分の書道を見つけよう!



NISHOGAKUSHO **二松學舎大學**

文学部 中国文学科 書道専攻

■文学部：国文学科／中国文学科／都市文化デザイン学科 ■国際政治経済学部：国際政治経済学科／国際経営学科
九段キャンパス 東京都千代田区三番町 6-16 TEL：03-3261-7423（入試課）
(2018年4月開設)

- ・書の背景となる「文学からのアプローチ」を大切にしています。
- ・独自の専門分野を持つ11名の書道教員が、学生のあらゆる興味関心に応えます。
- ・卒業後の長い書道人生のために、大学4年間で「書道の基礎」を培います。

取得できる教員免許状（文学部：国文学科・中国文学科）

- ・高等学校教諭一種（国語・書道・中国語）
- ・中学校教諭一種（国語・中国語）
- ・小学校教諭二種 ※小学校教員養成特別プログラム受講者
中国語は中国文学科のみ取得可能。
教職課程再課程認定申請につき、変更となる場合があります。

文部科学省後援 入試・就職に有利！履歴書に書ける公的資格！ **硬筆・毛筆書写技能検定**

◆試験日

- ◎ 平成30年度第3回 …… 31年1月27日(日)
 - ◎ 平成31年度第1回 …… 6月16日(日)
 - ◎ 平成31年度第2回 …… 11月10日(日)
- (毎年6月、11月、翌年1月の3回実施)

◆後援：文部科学省

◆試験地…全国主要都市。10名以上で試験会場設置可。

◆試験の内容…実技と理論

◆受験者必読参考書刊行…申し込みは協会へ

硬筆書写技能検定手びきと問題集(定価2,000円、別途送料)

毛筆書写技能検定手びきと問題集(定価2,300円、別途送料)

硬筆書写技能検定三級のドリル(定価600円、別途送料)

硬筆書写技能検定二級のドリル(定価800円、別途送料)

◎合格すれば資格が得られ、履歴書に書け、就職にも有利である。大学・短大・高校の入試に優遇。大学、短大、高校で書道の増加単位として認定。

◎成績優秀者には文部科学大臣賞などの賞が授与される。

◆試験級位…1級・準1級・2級・準2級・3級・4級・5級・6級

◆全国有名特約書店でも受付

◆受験料

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級
硬筆	6,500円	5,000円	3,500円	3,000円	2,500円	1,500円	1,200円	900円
毛筆	7,000円	5,500円	4,000円	3,400円	3,100円	1,700円	1,400円	1,000円

◎願書請求方法…協会にご請求下さい。（無料）

（一財）日本書写技能検定協会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3専新係

TEL(03)3988-3581(代) FAX(03)3988-3528

<http://www.nihon-shosha.or.jp>



文学部書道学科で取得できる免許・資格

●高等学校教諭一種免許状(書道・国語)※ ●中学校教諭一種免許状(国語)※ ●司書資格 ●学校図書館司書教諭資格 ●学芸員資格 ●医療秘書認定試験受験資格(日本医師会)
※ 法改正に伴う新課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

学部数、日本最大の女子大学。

安田女子大学 安田女子短期大学

〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東6-13-1 安田女子大学 <http://www.yasuda-u.ac.jp/>

大 学
【 文 学 部 】 ・日本文学科・書道学科・英語英米文学科
【 教 育 学 部 】 ・児童教育学科
【 心 理 学 部 】 ・現代心理学科・ビジネス心理学科
【 現代ビジネス学部 】 ・現代ビジネス学科・国際観光ビジネス学科
【 家 政 学 部 】 ・生活デザイン学科・管理栄養学科
・造形デザイン学科
【 葉 学 部 】 ・葉学科(6年制)
【 看 護 学 部 】 ・看護学科
・保育科
大 学 院
・文学研究科・家政学研究科・葉学研究科・看護学研究科

経済経営を学ぶなら。日本唯一の商業大学へ！

大阪商業大学
Osaka University of Commerce

経済学部
└ 経済学科

公共学部
└ 公共学科
※2018年4月開設

お問い合わせ先
〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
【TEL】 06-6787-2424 (広報入試課直通)
【H P】 <http://ouc.daishodai.ac.jp>
【E-mail】 nyugaku@oucow.daishodai.ac.jp



総合経営学部
└ 経営学科
└ 商学科



才能を発見し、才能を開花させる。

神戸芸術工科大学
KOBE DESIGN UNIVERSITY

■芸術工学部
環境デザイン学科・プロダクト・インテリアデザイン学科
ビジュアルデザイン学科・映像表現学科・まんが表現学科
ファッションデザイン学科・アート・クラフト学科

〒651-2196 神戸市西区学園西町 8-1-1
Tel. 078-794-5039 (広報入試課直通)
Web. www.kobe-du.ac.jp





【お問い合わせ】

大東文化大学
書道研究所
DAITO BUNKA UNIVERSITY CALLIGRAPHY LABORATORY

◇月刊『大東書道』 ◇高校生のための書道講座 ◇大東文化大学主催全国書道展

〒175-8571
東京都板橋区高島平1-9-1
TEL03-5399-7345 FAX03-5399-7346

少人数制の実践指導で書の本質を極める！

文学部
日本語日本文学科 書道コース 文学研究科

「全日本高校・大学生書道展」で12回の最優秀校を獲得！

学生の書道グランプリを選ぶ「全日本高校・大学生書道展」（主催：公益社団法人日本書芸院、読売新聞社）で、本学は過去、12回の団体賞最優秀校（大学の部）に輝いています。個人賞でも最高賞の書道展大賞や書道展賞に毎年たくさんの作品が選ばれています。（第23回実績：書道展大賞3点、書道展賞34点、優秀賞18点）

 育ちあう、響きあう
京都橘大学

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
TEL 075-571-1111 FAX 075-574-4122



品質と信頼で奉仕する 書道用品 美術工芸品 製造卸



株式会社 **ならや本舗**

〒141-0031

東京都品川区西五反田7-22-17 TOCビル3F
TEL 03-3494-2905(代) FAX 03-2494-2909(専)
URL <http://www.naraya-honpo.com>
E-mail naraya@naraya-honpo.co.jp

営業時間

月～土 AM10:00～PM6:00
日・祝 AM11:00～PM5:00
年間定休日 5月第4火・水曜日 12/30～1/5

最寄り駅 JR山手線・都営浅草線 五反田駅 徒歩8分
東急池上線 大崎広小路駅 徒歩5分
東急目黒線 不動前駅 徒歩6分



奈良・南松園総代理店

奈良銘墨・南松園は昔ながらの伝統的
手造り製法を継承しています

鍛成会場等への出張販売等承っております。
詳しくはお問い合わせ下さい。

facebook
ページあります

いいね！



祝 第43回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会



iPad・iPhone・Android用無料アプリ

教科書AR

AR「拡張現実 (Augmented Reality)」と教科書を連動した
アプリケーションです。お手持ちのスマートフォンやタブレット端末
を教科書の教材にかざすと、連筆映像などが見られます。

- ①次のQRコードを読み込むか、「App Store」や「Google Play ストア」から教科書ARを検索し、インストールします。※Android版は、OS4.4以上の端末に対応
- ②アイコンをタップし、教科と教科書を選びます。
- ③左上の①アイコンから、収録コンテンツを一覧できます。該当する教科書ページにカメラをかざすと、コンテンツがダウンロードされます。



東京書籍 九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1-17-28 トップビル Tel:092-771-1536 Fax:092-714-3519

図説

漢字の成り立ち事典

辻井京雲 著 定価3,500円+税

象形文字・表意文字としての漢字の成り立ちを歴史の経過をふまえながら図でわかり易く説明した。全体を151の項目に分け、見開き頁で構成。

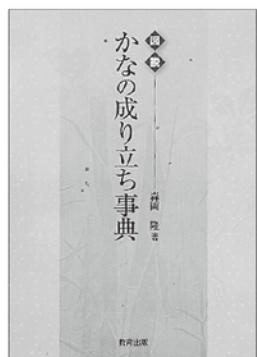


図説

かなの成り立ち事典

森岡 隆 著 定価2,500円+税

かなのルーツと変遷を探る。平仮名、片仮名、変体仮名について、個々の仮名の字源と成立過程をその造形と音韻の両面から解説。変体仮名の実例蒐集による図版写真を豊富に掲載。



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10
TEL. 03(3238)6908 FAX. 03(3238)6960
URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

先生方待望の教育図書オリジナル「刻字」DVD教材が新登場！

新刊 刻字の基礎

2019年春発売予定

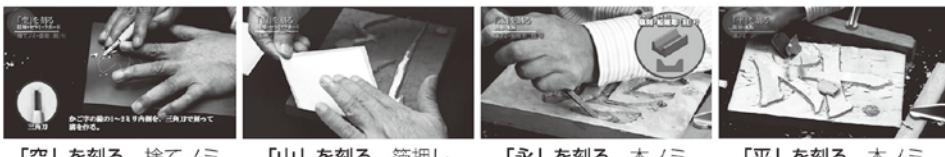
予価：本体 12,000円 + 税
映像 80分／解説書付



監修・指導

初見太清

日本刻字協会副理事長
毎日書道展審査会員



「空」を刻る 捨てノミ

「山」を刻る 茶押し

「永」を刻る 本ノミ

「平」を刻る 本ノミ

おもな映像コンテンツ

- ようこそ刻字の世界へ（1分）
- 刻字のおもな用具・用材（4分）
- 「空」を刻る 隕刻・セラミックボード（17分）
- 「山」を刻る 陽刻・セラミックボード（24分）
- 「永」を刻る 隕刻・木板（19分）
- 「平」を刻る 陽刻・木板（15分）



〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-3-2 TEL.03-3233-9100(代) / FAX.03-3233-9104
ホームページ：<https://www.kyoiku-toshoshu.co.jp/> e-mail : info@kyoiku-toshoshu.co.jp



花園大学

- 文学部 仏教学科 日本史学科 日本文学科（日本文学コース）
- 社会福祉学部 社会福祉学科 臨床心理学科
- 発達教育学部 発達教育学科（設置認可申請中）

文学部 日本文学科 書道コース



〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1 TEL:075-277-1331 (入試課直通) E-mail:nyushi@hanazono.ac.jp

書の古典と理論



- 古典編・理論編・資料編の3部構成
- オールカラー図版
- 高等学校書道科免許状取得に必要な書道の科目に対応した書道テキスト

全国大学書道学会 編

A4判／176P
定価 2,000円+税
ISBN978-4-89528-681-7

光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03(3493)2111 FAX 03(3493)2177
<http://www.mitsumura-toshoshu.co.jp>

書きやすさを
求めて

ホームページ
リニューアル
しました。

先生方の
ご意見で
進化してい
ます。

QRコード

墨運堂 検索

特選
書法一品 濃墨
200ml 500ml 2L

〒630-8043 奈良市六条1-5-35
Tel: 0742-52-0310 Fax: 0742-45-6880
mail: info@boku-undo.co.jp
URL: http://www.boku-undo.co.jp/

天然膠
特選
書法一品

・紫紺系の黒
・軽快な運筆
・安心の表具性

特選
書法一品 墨液
200ml 500ml 2L

創業文化二年 東京店 松戸市小金きよしヶ丘4-10-2
0473-47-5100
福岡(宮)福岡市博多区博多駅前3-12-3
092-411-2711



練習用紙付き

- きれいに整った文字を書く
- 毛筆を基礎から学ぶ
- 楷書・行書・仮名・漢字仮名交じり
- 家庭で子どもに教えるよう、「基本点画の書き方」を徹底解説。
- 暑らしく即した例文で、はがきマスター。
- 全ての常用漢字で一覧表化。

美しい
毛筆の
書きかた

B5判・208頁
●2200円

美しい毛筆の
書きかた

最新刊

書写教育の第一人者による手本!



好評
6刷

A5判・上判・函入・804頁
●4800円

学習指導要領準拠
書写字典の決定版!

宮澤正明
編

常用漢字
書きかた字典

学習指導要領準拠

・小学校から大学までの書写指導に最適!



ニ古社

東京都文京区本駒込6-2-1 〒113-0021 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 http://nigensha.co.jp (本体価格表示・消費税別途加算)

書道用品・表装・貸額

キヨーテ

新宿本店 東京都 新宿区 百人町 2-21-23 TEL03-3367-4451 FAX03-3367-4453

名古屋店 / 横浜店 / 市川店 / 仙台店 / 宇都宮店 / 通信販売 / ネット販売 / 美術部 / 物流センター

協和貿易株式会社 東京都千代田区神田淡路町2-3淡路町トーセイビル2F 03-3251-9381

夢が叶う場所

四国大学

文学部書道文化学科

四国大学芸術分野特別奨学金制度

文芸

書道

デザイン

音楽

吹奏楽

四国大学および四国大学短期大学部では、文芸・書道・デザイン・音楽・吹奏楽の各分野で優れた成績をおさめ、将来当該分野をリードする優秀な人材を育成することを目的に「芸術分野特別入試」を実施し、入学者に大学4年間、短大2年間「芸術分野特別奨学金」として毎年80万円～20万円を給付する制度を設けています。



ここからはじまる、あなたの未来。

〒771-1192 徳島市応神町古川字戎子野123-1 TEL 088-665-1300(代表) https://www.shikoku-u.ac.jp/

書道用品の直輸入店

株式会社 クリモト

<http://www.kmosaka.jp>

営業時間：9:00～17:00

定休日：土曜・日曜・祝日



Rakuten

楽天市場出展中

〒569-0823 大阪府高槻市芝生町3丁目22番4号
TEL:072-677-1930(代表) FAX:072-677-1940

〒130-0021 東京都墨田区緑1丁目12番13号
TEL:03-5600-9003 FAX:03-5600-9004

— 書道教育とともに歩んで50年 —

美しい書を 陶芸作品に

文化祭や卒業記念、授業・クラブ活動に、どうぞ、ご活用ください。

静岡県伊豆市熊坂1197-40

美術陶芸 巧芸社

〒410-2411 TEL 0558-72-3224
FAX 0558-72-4998

伝統的工芸品指定 熊野筆

高級書道用筆墨硯

株式会社 久保田鬼

〒731-4215 広島県安芸郡熊野町城之堀 2-2-45

TEL 082-854-0009 FAX 082-854-2112

<http://www.fudeya.com>

書道教育コース <在学生 3年連続日選入選>

高等学校（書道・国語）と共に、幼稚園・小学校・中学校の教員免許状が取得できる

◇各県高校教諭採用（埼玉県・岐阜県等）

◇平成29年度教職就職率含む 99%

岐阜女子大学・大学院

〒501-2592 岐阜市太郎丸80番地
TEL 058-229-2211 (代)

伝統的工芸品熊野筆製造

株式会社 一休園

【本社】 〒731-4221
広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44
TEL: 082-854-0019

【大阪】 〒580-0014
大阪府松原市岡6-5-50
TEL: 082-854-0019

【東京】 〒224-0003
横浜市都筑区中川中央1-21-1-203
TEL: 045-507-6319

【広島筆センター】 〒730-0051
広島市中区大手町1-5-11
TEL: 082-543-2844

筆墨老舗 | 楷字手本と筆墨
梅雪かな帖発行(カタログ進呈)

筆林

*弊社は創業以来数十年間毛筆一筋を貫いて現在に至っています。

株式会社 松林堂

〒630-8253 奈良県奈良市内侍原町49
(TEL) 0742-22-3327 (FAX) 0742-26-2708
URL:<http://www.kcn.ne.jp/~shorindo/>
E-mail:shorindo@kcn.ne.jp

伝統的工芸品指定 熊野筆

高級書道用筆墨硯

株式会社 久保田鬼

〒731-4215 広島県安芸郡熊野町城之堀 2-2-45

TEL 082-854-0009 FAX 082-854-2112

<http://www.fudeya.com>

書道用品一式



芭川文林堂

本店：奈良市三条通角振町22

☎0742-22-8877

JR奈良店：奈良市三条大宮町353-2

☎0742-30-0250

書道教育コース <在学生 3年連続日選入選>

高等学校（書道・国語）と共に、幼稚園・小学校・中学校の教員免許状が取得できる

◇各県高校教諭採用（埼玉県・岐阜県等）

◇平成29年度教職就職率含む 99%

岐阜女子大学・大学院

〒501-2592 岐阜市太郎丸80番地
TEL 058-229-2211 (代)

書道用品と表装・額装

書遊

充実のECショップ 書遊Online 検索
ポイントがとってもお得なオンラインショップ <http://shoyu-net.jp/>



書遊奈良本店 〒630-8243 奈良市今辻子町3-7
TEL: 0742-23-5547 / FAX: 0742-94-3313

書遊大阪店 〒553-0003 大阪市福島区福島5-14-6 クレセントビル2F
TEL: 06-6458-8808 / FAX: 06-6456-4077

書遊京都店 〒604-8132 京都市中京区高倉通三条下る丸屋町164
TEL: 075-251-7800 / FAX: 075-251-7802

書遊松島堂 〒320-0058 栃木県宇都宮市上戸祭3-2-25
TEL: 028-678-6705 / FAX: 028-678-6551

書遊札幌アメニヤ店 〒060-0061 札幌市中央区南一条西2丁目5番1条Kビル5F
TEL: 011-398-9400 / FAX: 011-398-9401

大本山永平寺御用達

OA機器・文具・事務機・事務用品
書画用品・書画書籍



〒918-8205 福井市北四ツ居1-8-24 ☎ 54-4434
FAX 54-4689

第43回
全高書研宮崎大会 宮崎版
協賛企業

宮崎県書道協会

会長 安藤 廣

副会長 松田 畦石

副会長 永友 大蔵

事務局 宮崎市橘通東3丁目6-3(富山ビル302号室)

TEL 0985-22-2856 FAX 0985-22-2876

ホームページ <http://www.msyodo.jp/>

E-mail otoiawase@msyodo.jp

JA共済は、毎年開催している書道コンクールを通して、今後も次世代を担う小・中学生に相互扶助・思いやりの精神を伝えて参ります。



くらしの保障、相談するなら

 JA共済




落ち着いた色調で統一されたゲストルーム
悠久の時を越えて湧き出す温泉たまゆらの湯
伝統に培われた、贊を尽したお料理を
お楽しみください。

五感で感じる豊かな時間



<http://www.miyakan-h.com>

宮崎観光ホテル

〒880-8512 宮崎市松山1-1-1
TEL 0985-27-1212 (代表)



宮崎ブーゲンビリア空港が
皆様ともっと親しくなれますように…これからは120分。
売店・レストラン利用で駐車場が2時間まで無料

ブーゲンビリア空港内の売店・飲食店をご利用のお客様は、
空港前駐車場が、120分まで無料になります。
※120分を超えると通常料金（450円～）となります。

まだまだ、ニコニコ、一歩ずつ
宮崎ブーゲンビリア空港  宮崎空港ビル株式会社
MIYAZAKI AIRPORT BUILDING CO., LTD.

第43回全日本高等学校書道教育研究会の開催おめでとうございます

紫雲堂(有)

画仙紙・墨・筆・書籍 各種書道用品 卸

〒880-0942 宮崎市生目台東1丁目8番地1 (西高校近く)
TEL (0985) 51-1477 / FAX (0985) 51-1487



- 宮崎めいづ -

美々魚参

"BIBI AJI"

黒潮洗う日向灘
豊穣の海から四季折々の恵
「初夏の目井津美々鰯」
「冬の鰯」
宮崎県日南市南郷町目井津
鮓大敷網〈第六十三新堀丸〉

新堀水産
代表 元浦 亮



おしゃれの店 ミモザ

婦人服既製、紳士イージーオーダー、ジュエリー、バッグ、くつ等

ラピース、ワールド、オール
スタイル、トーベル、イデムイ
ンタール、ジョン 他 生地
ハーディエイミス、フリンシッペ、ウンガロ、
ギ・ラロッシュ、カルダン、ミユキ 他

宮崎市橋通東3丁目1-4 TEL0985-27-3694



第43回全日本高等学校書道教育研究会の開催
おめでとうございます

都城書道協会
会長 三輪 鈴山

書道用品専門店

書文林堂

〒880-0805 宮崎市橋通東4丁目11-10
TEL 0985(22)4202 FAX 0985(22)7780

書道用品 ◯ 紙 ◯ 文具
くらもと

〒880-0035 宮崎市下北方町観音免637
TEL 0985(26)2529 FAX 0985(26)2528

BOOK-OFF
それ、ブックオフに
お売り下さい!
ぜんぶブックオフが買取致します。

【宮崎エリア】
BOOKOFF 矢の先店 BOOKOFF 東口店 BOOKOFF 都城駅前店
BOOKOFF 大塚店 BOOKOFF 清武店 BOOKOFF 延岡平原店
【鹿児島エリア】
BOOKOFF 川内店 BOOKOFF 唐湊店 BOOKOFF ジョイプラザ店
【ネット事業部】 【ASAHIコインランドリー】

印刷と出版
鉄脈社

宮崎市田代町263番地

0985-25-1758

<http://komyakusha.jp>



ふるさと納税 彩のゆ

南国の味覚「完熟マンゴー」「スターフルーツ」
丹精込めて育てています。
全国高等学校総合文化祭宮崎大会2010での
マンゴー大抽選会楽しんでいただけましたか！

まるひげ農園

宮崎県日南市南郷町潟上
まるひげ農園代表 永倉 勲



学校法人 旭進学園

宮崎第一高等学校 宮崎第一中学校

グループ しろはと保育園
〒880-0924 宮崎市大字郡司分甲767
TEL 0985(56)2626 / FAX 0985(56)0088



専門家用、筆、紙、墨、墨液、硯石、額縁、額装・軸装

書道用品専門卸商



文房四寶 川商有限会社

〒880-0837 宮崎市村角町宮崎牟田9番地24
TEL 0985 (23) 3199 FAX 0985 (25) 3273

若山牧水記念文学館

館長 伊藤 一彦

〒883-0211 日向市東郷町坪谷1271
TEL 0982 (68) 9511 FAX 0982 (68) 9512
<http://www.bokusui.jp/>

学校法人 宮崎日本大学学園

宮崎日本大学中学校 宮崎日本大学高等学校

〒880-0121 宮崎市島之内6822-2
TEL 0985 (39) 1121 FAX 0985 (39) 7427

Nakagawa printing-co

有限会社 中川印刷 宮崎市大塚町正市5595-2

TEL.0985-54-6256 FAX.0985-54-6257

(協賛) 明倫観光バス